

設置計画の概要

事前相談事項	記入欄											
計画の区分	研究科の専攻の設置											
フリガナ	コグツクダイガクホクシン ナラジョウダイガク 国立大学法人 奈良女子大学											
フリガナ 大学の名称	ナラジョウダイガクダイガクイン 奈良女子大学大学院 (Graduate School, Nara Women's University)											
新設学部等において養成する人材像	<p>【人間文化研究科博士前期課程 人間科学専攻】</p> <p>① 養成する人材像 本専攻では、人間の生涯にわたる心身の営みに焦点をあわせ、人間存在について総合的に学び研究する。そして、新しい社会と文化を構想し実現できる創造的で実践的な力を身につける。特に、子どもという存在や学校というシステムを自覚的に問い直し、その根底にある社会や人間のあり方そのものを問い直す高度な専門的能力を有し、組織的实践に結びつけるリーダーシップを有する教員を育成する。また子育てや福祉に関わるケアの場、メディアや行政等の幅広い分野において豊かな教養と高度な専門性をもって活躍できる職業人や、社会の進展や変化に対応できる広い視野を有しつつ基礎的な学術研究を推進できる研究者を育成する。</p> <p>② 習得させる能力 本専攻では、教育や支援の現場における実践や応用の視座も有しながら、人間の存在と形成に関して深く探究できる研究能力を習得させる。また自身の研究において、資料の分析、フィールドワーク、調査・実験等を遂行することを通して、主体的行動力、課題発見力、分析能力を身につけさせる。さらに、学校などの現場において他職種とも協働して問題解決に当たるためのリーダーシップ、協調性、問題を俯瞰的に見る能力も涵養する。心理学コースでは、所定の単位を修得すると、発達心理学を基盤として子育て支援や特別支援教育などの分野で支援に携わる「臨床発達心理士」の受験資格が得られるカリキュラムとする。</p> <p>③ 修了後の進路等 専修免許状をもった小学校教諭・幼稚園教諭、博士後期課程への進学、官公庁や地方自治体などの公務員や国際公務員、発達相談員・心理判定員などの専門職、シンクタンクや企業内研究所などの研究者、教育・メディア・出版・調査などの関連企業や団体への就職など多様な進路が考えられる。</p>											
既設学部等において養成する人材像	<p>【人間文化研究科博士前期課程 人間行動科学専攻】</p> <p>① 養成する人材像 人間の生涯にわたる心身の営みに焦点をあわせ、人間存在について総合的に学び研究する。そして、新しい社会と文化を構想し実現できる創造的で実践的な力を身につけ、社会の著しい変化への対応を迫られている学校教育現場のみならず、子育てや福祉に関わるケアの場、メディアや行政等の幅広い分野において、豊かな教養と専門性をもって活躍できる人材を養成する。</p> <p>② 習得させる能力 本専攻では、教育や支援の現場における実践や応用の視座も有しながら、人間の存在と形成に関して深く探究できる研究能力を習得させる。また自身の研究において、資料の分析、フィールドワーク、調査・実験等を遂行することを通して、主体的行動力、課題発見力、分析能力を身につけさせる。さらに、他職種と協働して問題解決に当たるための協調性、問題を俯瞰的に見る能力も涵養する。</p> <p>③ 修了後の進路等 専修免許状をもった小学校教諭・幼稚園教諭、中学校・高等学校の保健体育教諭、官公庁や地方自治体などの公務員や国際公務員、発達相談員・心理判定員などの心理職、シンクタンク、スポーツ・健康関係等の企業内研究所、教育・メディア・出版・調査などの関連企業や団体への就職、および博士後期課程への進学など多様な進路が考えられる。</p>											
新設学部等において取得可能な資格	<p>【人間文化研究科博士前期課程 人間科学専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教諭専修免許状、小学校教諭専修免許状 <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格、② 資格取得可能 ③ 修了要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要。 ・ 臨床発達心理士 <ul style="list-style-type: none"> ① 民間資格、② 受験資格 ③ 修了要件単位に含まれる科目以外に実習が必要。資格取得が修了の必須条件ではない。 											
既設学部等において取得可能な資格	<p>【人間文化研究科博士前期課程 人間行動科学専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教諭専修免許状、小学校教諭専修免許状 <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格、② 資格取得可能 ③ 修了要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要。 ・ 中学校・高等学校教諭専修免許状（保健体育） <ul style="list-style-type: none"> ① 国家資格、② 資格取得可能 ③ 修了要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要。 ・ 臨床発達心理士 <ul style="list-style-type: none"> ① 民間資格、② 受験資格 ③ 修了要件単位に含まれる科目以外に実習が必要。資格取得が修了の必須条件ではない。 ・ 健康運動指導士 <ul style="list-style-type: none"> ① 民間資格、② 受験資格 ③ 修了要件単位に含まれる科目のみで受験資格取得可能だが、資格取得が修了の必須条件ではない。 											
新設学部等の概要	新設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
	人間文化研究科博士前期課程 [Graduate School of Humanities and Sciences] (Master's Course)	人間科学専攻 [Department of Human Sciences]					学位又は称号	学位又は学科の分野		異動元	助教以上	うち教授
			2	12	-	24	修士 (文学) (学術)	文学関係 教育学・保育学関係	平成30年 4月	人間行動科学専攻	10	3
										計	10	3
既設学部等の概要	既設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
	人間文化研究科博士前期課程	人間行動科学専攻 (廃止)					学位又は称号	学位又は学科の分野		異動先	助教以上	うち教授
			2	16	-	32	修士 (文学) (学術)	文学関係 教育学・保育学関係 体育関係	平成10年 4月	人間科学専攻	10	3
										心身健康学専攻	5	2
										その他	1	1
										計	16	6

【備考欄】

大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施

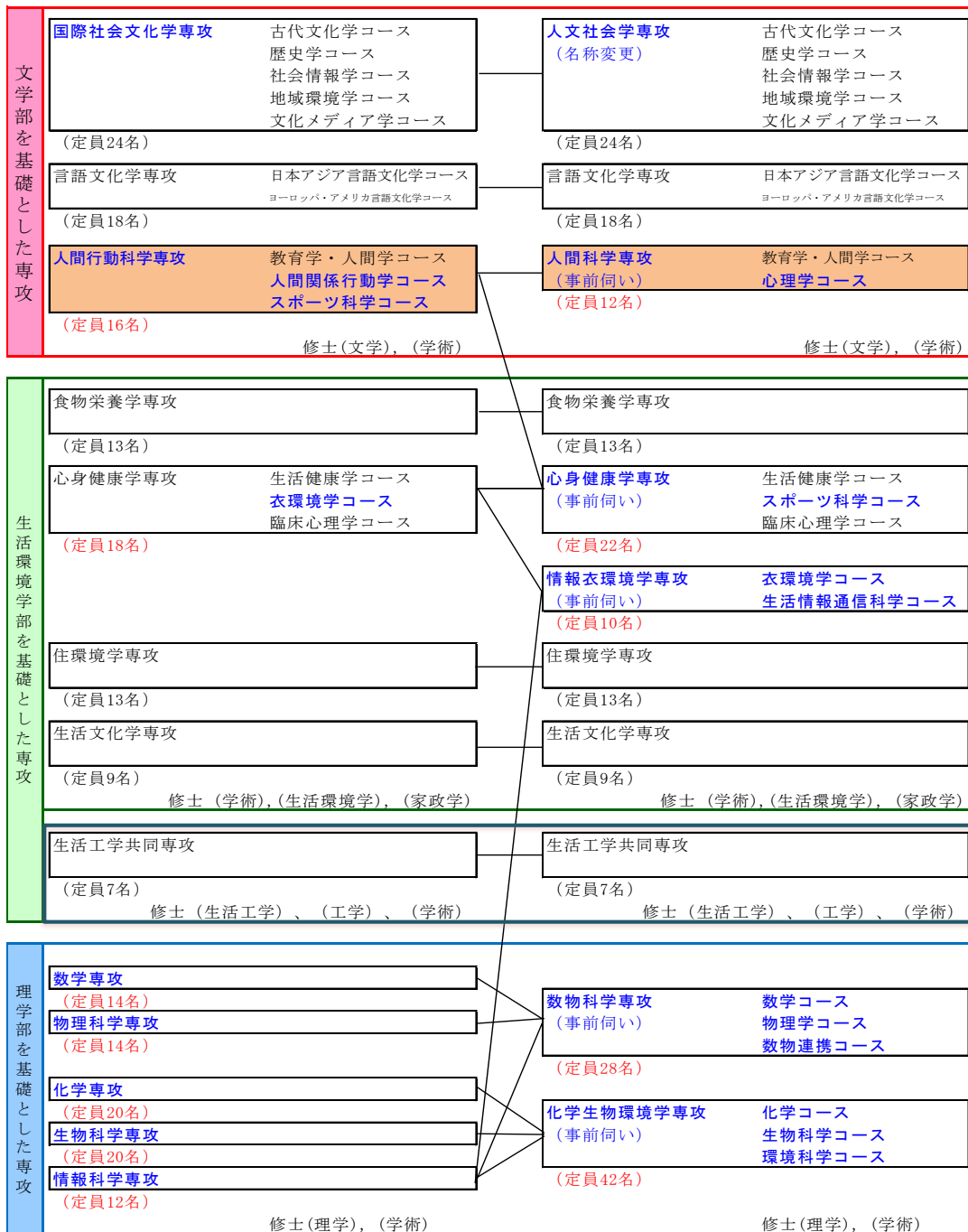
(参考)大学院人間文化研究科(博士前期課程) 平成30年度改組の全体構想

現行(平成29年度まで)

入学定員198名

新(平成30年度～)

入学定員198名



教育課程等の概要(事前伺い)

(大学院人間文化研究科博士前期課程 人間科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目群	研究倫理	1・2前		1		○			1							
	学びをつむぐⅠ	1前		1			○			1					兼4	
	学びをつむぐⅡ	2通		1			○			1					兼4	
	アクティブ・ゼミナール	1・2後		1			○		1							
	小計(4科目)	—	0	4	0				2	1	0	0	0		兼4	—
専門群	教育学・人間学コース	哲学思想史特論	1・2前		2		○			1						
		哲学思想史演習	1・2後		2			○		1						
		倫理学特論	1・2前		2		○			1						
		倫理学演習	1・2後		2			○		1						
		教育人間学特論A	1・2前		2		○				1					
		教育人間学演習A	1・2後		2			○			1					
		教育人間学特論B	1・2前		2		○				1					
		教育人間学演習B	1・2後		2			○			1					
		教育史特論	1・2前		2		○									兼1
		教育史演習A	1・2後		2			○								兼1
		教育史演習B	1・2後		2			○								兼1
		子ども史特論	1・2前		2		○									兼1
		教育社会学特論A	1・2後		2		○					1				
		教育社会学演習A	1・2後		2			○				1				
		教育社会学特論B	1・2後		2		○					1				
		教育社会学演習B	1・2後		2			○				1				
		音楽教育学特論	1・2前		2		○					1				
		音楽教育学演習	1・2後		2			○				1				
		音楽と子ども特論	1・2前		2		○					1				
		音楽と子ども演習	1・2前		2			○				1				
		身体文化学特論A	1・2前		2		○					1				
		身体文化学演習A	1・2前		2			○				1				
		身体文化学特論B	1・2前		2		○					1				
身体文化学演習B	1・2前		2			○				1						
生活と社会特論	1・2前		2		○					1						
身体文化史特論A	1・2前		2		○				1							
身体文化史演習A	1・2後		2			○			1							
身体文化史特論B	1・2前		2		○				1							
身体文化史演習B	1・2後		2			○			1							
小計(29科目)	—	0	58	0					2	4	0	0	0		兼4	—
心理学コース	認知心理学特論	1・2前		2		○										
	認知心理学演習	1・2前		2			○									
	認知学習心理学特論	1・2後		2		○					1					
	認知学習心理学演習	1・2後		2			○				1					
	発達臨床学特論	1・2前		2		○					1					
	発達臨床心理学演習	1・2後		2			○				1					
	発達支援特論	1・2後		2		○					1					
	発達心理学演習	1・2前		2			○				1					
	対人心理学特論	1・2前		2		○				1						
	対人心理学演習	1・2前		2			○			1						
	社会心理学特論	1・2後		2		○				1						
	社会心理学演習	1・2後		2			○			1						
	教育心理学特論	1・2後		2		○					1					
教育心理学演習	1・2後		2			○				1						

専門群	心理学コース	子ども心理学特論	1・2前		2			○			1												
		子ども心理学演習	1・2前		2				○		1												
		発達心理学特論 A	1・2前		2			○												兼1			
		発達心理学特論 B	1・2後		2			○													兼1		
		生涯発達心理学特論	1・2前		2			○													兼1		
		人間関係学特論	1・2後		2			○													兼1		
		人格心理学特論	1・2前		2			○													兼1		
		臨床心理学特論	1・2後		2			○													兼1		
		心理学研究法演習	1・2前		2					○			1									隔年	
		心理学データ解析法演習	1・2前		2					○			1									隔年	
		心理実践実習Ⅰ	1通		2						○	1	3									集中	
		心理実践実習Ⅱ	2通		2						○	1	3									集中	
		小計 (26科目)		—	0	52	0			—		1	3	0	0	0						兼6	—
		実践群	実践スキルゼミナール (心理学)	1・2前		1					○												兼1
小計 (1科目)			—	0	1	0			—												兼1	—	
キャリア形成群	専門応用英語	1・2後		2				○													兼1		
	プレゼンテーション演習	1・2前		1					○												兼1		
	女性専門職キャリア論	1・2前		2				○													兼1		
	インターンシップ実習	1・2前		1																	兼1		
	インターンシップ専門実習	1・2通		1																	兼1	集中	
	小計 (5科目)		—	0	7	0			—	0	0	0	0	0							兼5	—	
DD科目群	Study of Nara	1・2前		1				○													兼1		
	Japanese History	1・2後		1				○													兼1		
	Contemporary Japanese Religion	1・2後		1				○													兼1		
	Japanese Pop Culture	1・2前		1				○													兼1		
	Tradition in Modern Society	1・2後		1				○													兼1		
	Tourism and Religion	1・2前		1				○													兼1		
	Traditional Architecture in Nara and Kyoto	1・2前		1				○													兼1		
	Architectural and Environmental Engineering in Japan	1・2後		1				○													兼1		
	Cloth and Culture in Japan	1・2前		1				○													兼1		
	Women in Japan	1・2前		1				○													兼1		
	Gender in Asia	1・2後		1				○													兼1		
	Human Relations and Food, Life in Various Cultures	1・2後		1				○													兼1		
	日本文学史特論 A	1・2後		2				○													兼1		
	日本文学史特論 B	1・2前		2				○													兼1		
	日本語学特論	1・2後		2				○													兼1		
	日本語文化特論	1・2前		2				○													兼1		
	日本文化学特論 A	1・2前		2				○													兼1		
	日本文化学特論 B	1・2後		2				○													兼1		
	日本文化学特論 C	1・2前		2				○													兼1		
小計 (19科目)		—	0	26	0			—		0	0	0	0	0						兼19	—		
論文等作成群	演習指導Ⅰ	1・2前		2					○		3	7											
	演習指導Ⅱ	1・2後		2					○		3	7											
	TutorialⅠ	1・2前		2					○		3	7											
	TutorialⅡ	1・2後		2					○		3	7											
	小計 (4科目)		—	4	4	0			—		3	7										—	
合計 (88科目)				—	4	152	0		—		3	7	0	0	0						兼39	—	
学位又は称号		修士 (文学) 修士 (学術)		学位又は学科の分野		文学関係、教育学・保育学関係																	

I 設置の趣旨・必要性

(背景)

人類は科学技術の飛躍的な進歩を実現し、豊かさを追い求める一方で、自然との関係においても人間同士の関係においても、個人の内部においても、様々なひずみを抱えることになった。今日、我々は、人間や社会のあり方を見つめ直し、調和と共生に向けて新たな社会と文化を創り上げていかなければならない。そのために、人間存在に関する基本的認識と社会の倫理的基盤に立脚した人間科学を展開していく必要がある。また今日、従来の学校教育の前提となってきた社会的基盤は大きく変化しつつある。その中で教師は、既存の学校のあり方や子ども理解に安住することなく、主体的な研修を通して常に教育や子どもを問い直し、教師に“なり続ける”過程を生きることを求められている。そのために必要なのは、教育方法や教育内容に関するスキルや知見のみならず、子どもという存在や学校というシステムを自覚的に問い直し、その根底にある社会や人間のあり方そのものを反省する、高度な専門的能力である。学校現場では、それらの反省を同僚と共同化し、組織的实践に結びつけるリーダーシップも求められている。

(本学に設置する必要性)

本学は女子大学として長い伝統と徹底した少人数教育によって女性リーダーを育成してきた経験を有している。この経験を活かし、人間科学専攻では、知識基盤社会・少子高齢化社会を迎えた我が国にとっての重要な課題である人間の存在と形成に関する諸問題に積極的に取り組む人材の育成をはかる。

また本専攻では、人間理解と人間の諸行動の探究に携わる諸学問の研究を基礎としつつ、伝統ある本学附属学校園と連携した実践的な教育研究・子ども研究に即して学ぶことを通じて、学士課程での教員養成において培われた基礎的な能力に加えて、高度な専門的能力を身につけ、学校現場においてリーダーたり得る女性教員を養成する。これまでも人間行動科学専攻においては、研究の専門性を深化させる方向と、教育や支援の現場での実践を重視する方向の両方を目指して、社会で活躍する有用な人材を養成してきた。引き続き奈良女子大学において人間行動科学専攻を改組して人間科学専攻を設置し、上記のような人材を養成することは、社会的にも必要とされている。

II 教育課程編成の考え方・特色

(教育課程の基本的な考え方)

本専攻は、哲学・思想、教育学、心理学、音楽、身体文化学等の研究を通し、人間の存在と形成、行動について広い視野から深く学ぶことを目的とする。教育学・人間学コース、心理学コースの2コースが連携し、人間や社会のあり方を深く見つめ、人間存在について総合的に学び研究する。履修系列として、高度な専門的能力を養成する専修系と、広い視野を備えた多様なタイプの優秀な人材を養成する複合系がある。学生が専攻する分野に関する最先端の研究成果を教員が講じる特論科目、教員が適切に設定した課題に学生が主体的に取り組む演習科目、学生の実践力を高める実習科目を置く。修了要件として、修士論文を必修としている。複数教員の連携による研究指導体制により、きめ細かい教育を行う。

(教育課程の特色)

人間科学専攻の教育課程では、急激に変化する社会情勢の下で、教育現場や各種の支援の場において他職種とも協働しながら、豊かな教養と専門性をもって活躍できる人材を養成することを目指す。

教育学・人間学コースでは、人間形成と人間存在に関わる幅広い事象—教育の思想と実践、哲学・倫理学上の思想的諸問題、身体に関わる文化、芸術、メディア等—を教育・研究の対象とする。心理学コースでは、認知心理学などの基礎領域を中心にして、発達や教育の心理学、対人・社会心理学などの多角的な見地から、理論と実践の両方を視野に入れて、人間の心と行動の諸問題についての教育・研究を行う。

なお心身健康学専攻臨床心理学コースでは、臨床心理学の専門家（臨床心理士）を育成することを目的として、カウンセリング・心理療法など様々な心の問題の回復を援助するための知識・実践を学ぶカリキュラムとなっているのに対し、本専攻の心理学コースでは、基礎的な学術研究を重視し、認知心理学、発達心理学、社会心理学、教育心理学などの諸領域を総合的に学び探究する。そしてその学識と研究能力を基盤として現場で活躍できる教員や専門職業人、基礎領域において高度な学術研究を行う研究者を育成する。専門職業人に関しては、所定単位の修得により「臨床発達心理士」の受験資格に対応するカリキュラムとしている。臨床発達心理士とは、発達心理学をベースとして人の発達・成長・加齢に寄り添い、子育て支援や特別支援教育などの現場で必要とされる援助を提供できる専門家である。加えて高度な学術研究を行えるように、研究法やデータ解析法を含む基礎領域の科目を充実させ、研究技能の向上を保障するカリキュラムとしている。

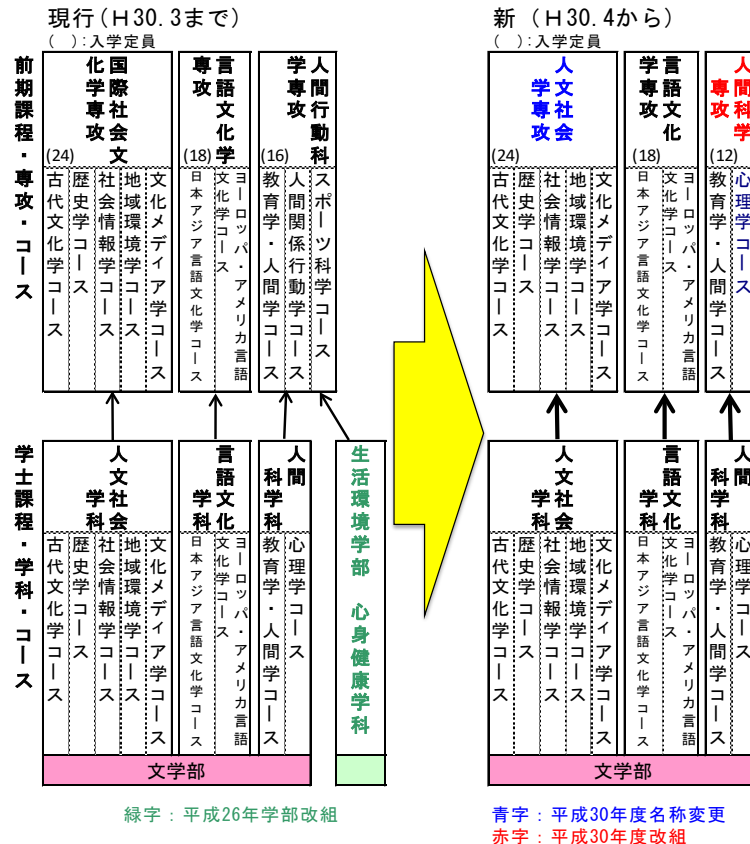
また文学部からの6年一貫教育プログラムの選択を可能とし、科目等履修生制度を活用した前期課程科目の先取り履修などによって、学部段階から修士論文作成を目指して切れ目なく質の高い研究を行おうとする学生や、自らのキャリアプランに基づいて留学やインターンシップなどの活動に積極的に取り組もうとする学生に対して、柔軟な研究環境を提供する。

大学院教養科目としては、他専攻と共同で「アクティブ・ゼミナール」を新設する。専門を異にする受講生が、互いに講師として自らの研究分野についての最新の成果や知見、あるいは研究史上の位置づけなどについてプレゼンテーションを行い、討論する。また学際的なシンポジウムの企画・実施を行う。自らの研究を他者にプレゼンテーションすることで自己発信力を高め、異分野のものとのとらえ方を知ることで自らを客観視し、ものごとを俯瞰する力を養い、実社会で必要とされる、企画・調整力や他者と協働する力を培う。

また、奈良女子大学とハノイ大学、奈良女子大学大学院人間文化研究科とルーヴェン・カトリック大学人文学研究科の間で締結されている「ダブルディグリープログラム協定」を引き続き維持し、「DD科目群」を設ける。ダブルディグリープログラムでは、二つの大学に正規生として在籍し、所定の課程を修了することによって、二つの大学からそれぞれ修士号を授与される。ダブルディグリープログラムでは学際的な研究を行うため、奈良女子大学から授与する学位の名称は修士（学術）としている。ハノイ大学あるいはルーヴェン・カトリック大学からはMaster of Philosophyが授与される。

人間科学専攻では、上述のダブルディグリープログラムによる学位以外は、修士（文学）を授与する。

奈良女子大学の大学院改組構想 文学部を基盤とした専攻



人間科学専攻履修モデル

教育学・人間学コース

学 位	修士(文学)			
概 要	教育学の諸科目を中心とし、倫理学、身体文化学、音楽などをあわせて履修することで、智、徳、体、情にわたって生徒を深く理解できる教員を養成する。また、自らも幅広い関心を持ち、現代社会の問題点を創造的に克服してゆくことができる能力を養成し、生徒たちの創造的な問題解決能力を最大限引き出せるような高い能力を身につけた教員を育成することを目指している。			
	1年次		2年次	
	科 目 名	単位数	科 目 名	単位数
教養科目群	アクティブ・ゼミナール	1		
専門群	教育人間学特論 A	2	教育人間学特論 B	2
	教育人間学演習 A	2	教育人間学演習 B	2
	教育史特論	2	教育社会学特論 B	2
	教育社会学特論 A	2	子ども史特論	2
	音楽と子ども特論	2		
	倫理学特論	2		
論文等作成群	身体文化学特論 A	2		
	演習指導 I	2	演習指導 I	2
	演習指導 II	2	演習指導 II	2
合計		19		12

心理学コース

学位	修士(文学)			
概要	認知心理学などの基礎領域を中心に履修し、心理学の諸領域に関する幅広い学識を有しながら自身の研究テーマを探究する力を養う。研究法についての専門的知識、研究実践能力およびデータ解析力を身につけ、現代的な諸課題を解決できる能力を有した研究者を育成する。主に、博士後期課程への進学、調査・教育関連の企業やシンクタンクなどにおける研究職を想定している。			
	1年次		2年次	
	科目名	単位数	科目名	単位数
教養科目群	アクティブ・ゼミナール	1		
専門群	認知心理学特論	2	認知心理学演習	2
	認知学習心理学特論	2	認知学習心理学演習	2
	社会心理学特論	2	社会心理学演習	2
	対人心理学特論	2	対人心理学演習	2
	発達心理学特論A	2	教育心理学特論	2
	人格心理学特論	2	心理学データ解析法演習	2
	心理学研究法演習	2		
実践群	実践スキルゼミナール(心理学)	1		
論文等作成群	演習指導Ⅰ	2	演習指導Ⅰ	2
	演習指導Ⅱ	2	演習指導Ⅱ	2
合計		20		16

卒業要件及び履修方法

博士前期課程に2年以上在学し、教養科目群から1単位以上、専門群、実践群、キャリア形成群、DD科目群から21単位以上、論文等作成群から8単位（演習指導Ⅰ及びⅡ各4単位）の合計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上で修士論文の審査に合格することが修了要件となる。なお、ダブルディグリープログラムの学生は、演習指導Ⅰ及びⅡ各2単位及びTutorialⅠ及びⅡ各2単位を履修すること。	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要(事前伺い)

既設(大学院人間文化研究科博士前期課程 人間行動科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門群	人間科学基礎論特論	1・2後		2		○			1								
	哲学思想史特論	1・2前		2		○			1								
	哲学思想史演習	1・2後		2			○		1								
	倫理学特論	1・2後		2		○			1								
	倫理学演習	1・2前		2			○		1								
	教育人間学特論A	1・2前		2		○									兼1		
	教育人間学特論B	1・2前		2		○				1							
	教育人間学演習A	1・2後		2			○			1							
	教育人間学演習B	1・2後		2			○			1							
	教育史特論A	1・2前		2		○				1							
	教育史特論B	1・2後		2		○				1							
	教育史演習A	1・2前		2			○			1							
	教育史演習B	1・2前		2			○			1							
	子ども史特論	1・2前		2		○				1							
	教育社会学特論A	1・2後		2		○					1						
	教育社会学特論B	1・2後		2		○					1						
	教育社会学演習A	1・2後		2			○				1						
	教育社会学演習B	1・2後		2			○				1						
	音楽教育学特論	1・2前		2		○									兼1		
	音楽と子ども特論	1・2前		2		○					1						
	音楽教育学演習	1・2後		2			○								兼1		
	音楽と子ども演習	1・2前		2			○				1						
	身体文化学特論A	1・2前		2		○					1						
	身体文化学特論B	1・2前		2		○									兼1		
	身体文化学演習A	1・2前		2			○				1						
	身体文化学演習B	1・2前		2			○				1						
	身体文化史特論A	1・2前		2		○					1						
	身体文化史特論B	1・2前		2		○					1						
	身体文化史演習A	1・2後		2			○				1						
	身体文化史演習B	1・2後		2			○				1						
	小計(30科目)		—	0	60	0	—	—	—	3	4	0	0	0	兼4	—	
	人間関係行動学コース	認知心理学特論I	1・2前		2		○										
		認知心理学特論II	1・2後		2		○										
認知心理学演習I		1・2前		2			○				1						
認知心理学演習II		1・2後		2			○				1						
人間関係行動学特論I		1・2前		2		○									兼1		
人間関係行動学特論II		1・2後		2		○									兼1		
心理学質的研究法演習		1・2前		2			○				1						
教育心理学演習		1・2後		2			○				1						
発達心理学特論I		1・2前		2		○									兼1		
発達心理学特論II		1・2後		2		○									兼1		
発達心理学演習I		1・2前		2			○				1						
発達心理学演習II		1・2後		2			○				1						
発達臨床学特論I		1・2前		2		○					1						
発達臨床学特論II		1・2後		2		○					1						
臨床心理学特論A		1・2前		2		○									兼1		
臨床心理学特論B		1・2前		2		○									兼1		
臨床心理学演習A	1・2後		2			○								兼1			
臨床心理学演習B	1・2後		2			○								兼1			

専門群	人間関係行動学コース	臨床心理面接特論Ⅰ	1・2前	2		○												兼1		
		臨床心理面接特論Ⅱ	1・2後	2		○													兼1	
		子ども学特論Ⅰ	1・2前	2		○				1										
		子ども学特論Ⅱ	1・2後	2		○				1										
		子ども学演習Ⅰ	1・2前	2				○											兼1	
		子ども学演習Ⅱ	1・2後	2				○											兼1	
		心理臨床特論	1・2前	2			○												兼1	
		臨床心理学研究法特論	1・2前	2			○												兼1	
		家族臨床心理学演習	1・2後	2					○										兼1	
		対人心理学特論Ⅰ	1・2前	2			○				1									
		対人心理学特論Ⅱ	1・2後	2			○				1									
		対人心理学演習Ⅰ	1・2前	2					○		1									
		対人心理学演習Ⅱ	1・2後	2					○		1									
		子ども発達心理学特論	1・2前	2			○												兼1	
		心理実践実習Ⅰ	1通	2							1	3								集中
		心理実践実習Ⅱ	2通	2							1	3								集中
		小計 (34科目)	—	0	68	0	—				1	3	0	0	0				兼9	—
	スポーツ科学コース	スポーツ文化史特論	1・2前	2			○			1										
		スポーツ文化史演習	1・2後	2			○			1										
		スポーツ社会学特論	1前	2			○				1									
		スポーツ社会学演習	1後	2					○			1								
		スポーツ法学特論	1前	2			○			1										
		スポーツ法学演習	1・2後	2					○		1									
		スポーツ行動心理学特論	1前	2			○					1								
		スポーツ行動心理学演習	1後	2					○			1								
		スポーツ生理学特論	1前	2			○					1								
		スポーツ生理学演習	1・2後	2					○			1								
		運動文化論特論	1・2前	2			○												兼1	
		運動文化論演習	1・2後	2					○		1									
		身体表現学特論	1前	2			○				1									
		身体表現学演習	1後	2					○		1									
		バイオメカニクス特論	1前	2			○												兼1	
		バイオメカニクス演習	1後	2					○										兼1	
		身体運動学特論	1・2前	2			○												兼1	
身体運動学演習	1・2後	2					○			1										
小計 (18科目)	—	0	36	0	—				2	3	0	0	0				兼3	—		
実践群	臨床心理査定演習	1・2前	2					○										兼1		
	身体機能計測実習	1・2前	1								○							兼1		
	実践スキルゼミナール (心理学Ⅰ)	1・2前	1					○										兼1		
	実践スキルゼミナール (心理学Ⅱ)	1・2後	1					○										兼1		
小計 (4科目)	—	0	5	0	—				0	0	0	0	0				兼4	—		
キャリア形成群	専門応用英語	1・2後	2			○												兼1		
	プレゼンテーション演習	1・2前	1					○										兼1		
	女性専門職キャリア論	1・2前	2			○												兼1		
	インターンシップ実習	1・2前	1															兼1		
	インターンシップ専門実習	1・2通	1															兼1	集中	
小計 (5科目)	—	0	7	0	—				0	0	0	0	0				兼5	—		
DD科目群	Study of Nara	1・2前	1			○												兼1		
	Japanese History	1・2後	1			○												兼1		
	Contemporary Japanese Religion	1・2後	1			○												兼1		
	Japanese Pop Culture	1・2前	1			○												兼1		
	Tradition in Modern Society	1・2後	1			○												兼1		
	Tourism and Religion	1・2前	1			○												兼1		
	Traditional Architecture in Nara and Kyoto	1・2前	1			○												兼1		
	Architectural and Environmental Engineering in Japan	1・2後	1			○												兼1		
	Cloth and Culture in Japan	1・2前	1			○												兼1		
	Women in Japan	1・2前	1			○												兼1		
	Gender in Asia	1・2後	1			○												兼1		

D D 科目群	Human Relations and Food, Life in Various Cultures	1・2後		1		○								兼1
	日本文学史特論A	1・2後		2		○								兼1
	日本文学史特論B	1・2前		2		○								兼1
	日本語学特論	1・2後		2		○								兼1
	日本語文化特論	1・2前		2		○								兼1
	日本文化学特論A	1・2前		2		○								兼1
	日本文化学特論B	1・2後		2		○								兼1
	日本文化学特論C	1・2前		2		○								兼1
	小計 (19科目)	—	0	26	0	—			0	0	0	0	0	兼19
論 文 等 作 成 群	演習指導 I	1・2前	2			○		6	10					
	演習指導 II	1・2後	2			○		6	10					
	Tutorial I	1・2前		2		○		6	10					
	Tutorial II	1・2後		2		○		6	10					
	小計 (4科目)	—	4	4	0	—		6	10					—
合計 (114科目)		—	4	206	0	—		6	10	0	0	0	兼42	—
学位又は称号	修士 (文学) 修士 (学術)	学位又は学科の分野				文学関係 教育学・保育学関係 体育関係								

設置計画の概要

事項	記入欄
事前相談事項	事前伺い
計画の区分	研究科の専攻の設置
フリガナ設置者	コリツダイガクホウジン ナラジョンドイガク 国立大学法人 奈良女子大学
フリガナ大学の名称	ナラジョンドイガクダイガクイン 奈良女子大学大学院 (Graduate School, Nara Women's University)
新設学部等において養成する人材像	<p>【人間文化研究科博士前期課程 心身健康学専攻】</p> <p>① 養成する人材像 人々が豊かな生活を営むためには、心身ともに健康であることが基本であり、心身の健康を担保する生活環境に対する社会的ニーズは極めて高い。この理念に基づき専攻内に生活健康学コース、スポーツ科学コース、臨床心理学コースの3コースを設置し、心身の健康というコンセプトで統合・組織化する。それぞれの特徴あるコースの研究・教育により、社会的ニーズに応え、心と身体の健康に関する系統的で幅広い知識を基礎に、実践的応用力を科学的視点と総合的人間理解の視点から身につけ、心と身体の健康に関する今日的諸問題の発見および解決に貢献できる実践力のある人材を養成する。各コースの概要は以下のとおりである。</p> <p>(生活健康学コース) 生活健康学コースでは、心と身体の健康に関する系統的で幅広い科学的知識を持ち、生活習慣、生活環境、社会環境と健康との関連について専門的で独創的な研究を推進することのできる人材を養成する。これによって、長寿健康社会に貢献できる幅広い見識を持ち、深い専門性と豊かな創造性を身に付けた、男女共同参画社会をリードできる女性人材を育成する。</p> <p>(スポーツ科学コース) スポーツ科学コースでは、身体運動やスポーツをとりまく諸現象を、人文科学・社会科学・自然科学からの総合的・学際的なアプローチにより解明し、専門的且つ実践的応用力、リーダーシップをもって社会に貢献できる人材を養成する。</p> <p>(臨床心理学コース) 臨床心理学コースでは、心と身体の健康に関する系統的で幅広い知識を基礎として、人間存在を「全体的」な観点から捉えていく人間理解の方法を身につけ、他者・自己理解力やコミュニケーション力を持つ、援助者として高度な実践能力を持つ人材を育成する。</p> <p>② 習得させる能力 本専攻では、心身の健康を維持しながら安全で快適に生活するための生活手段や生活方法を提案し実践できる能力を養う。心身の健康に関するさまざまな問題について科学的な方法論に基づき解決できるように教育する。各コースの概要は以下の通りである。</p> <p>(生活健康学コース) 生活健康学コースでは、生理学、神経科学、生化学、栄養学、分子生物学、衛生学、人間工学などを基盤とした分子レベルから統合的な心身にいたる幅広い健康科学的知識を身につけさせ、食・運動などの生活習慣、温度・ストレスなどに関する生活環境や社会環境などの視点から健康に係る創造的で独創的な研究を遂行できる能力を習得させる。 また、課題の発見、計画の立案、研究実施、結果解析能力を習得させるとともに、社会での健康事業の実践のための能力や、プレゼンテーション、ディスカッション、コミュニケーションなどの能力を養う。</p> <p>(スポーツ科学コース) スポーツ科学領域及び関連する領域のより深い知識を習得し、それらを集約し判断する能力、専門的問題解決能力及び実践的指導力を身に付ける。</p> <p>(臨床心理学コース) 将来、臨床心理学の専門家として活躍できるよう、さまざまな心の問題に、心理学の立場から、科学的に捉えることができるようにする。さらに、それら問題を抱えている人たちの回復を援助するためのカウンセリング・心理療法について、知識・実践を身につける。また、所定の単位を取得することで、臨床心理士の受験資格が得られるカリキュラムとする。さらに、現在国家資格として検討中の公認心理師の受験資格についても取得のためにカリキュラム整備を行う予定である。</p> <p>③ 修了後の進路等 (生活健康学コース) 修了後は、心身の健康に関連する企業(生活用品・食品・製薬・化粧品・アパレル・住宅・家電などの製造業やサービス業)における研究・開発職、大学等の教育・研究機関の教員、家庭科の専修免許を取得した教員や自治体・各種団体における健康事業の実践者、博士後期課程や関連領域の大学院への進学等への道が開かれている。</p> <p>(スポーツ科学コース) 修了後は、スポーツ・健康等関連企業での研究職、メディアや競技団体、公務員及び保健体育専修免許を取得した教員、また博士後期課程への進学を経て、大学等での教育・研究職に就くなどの進路が開かれている。</p> <p>(臨床心理学コース) 修了後は、カウンセラー(臨床心理士)、心身の健康に関わる企業における研究・開発、教育機関、教員、自治体や健康産業等における健康事業の実践、博士後期課程や関連領域の大学院への進学等への道が開かれている。</p>
既設学部等において養成する人材像	<p>【人間文化研究科博士前期課程 心身健康学専攻】</p> <p>① 養成する人材像 人間が心身ともに健康で快適かつ安全に生活するための幅広い知識を有し、高度な研究能力と実践力を兼ね備えた女性人材を養成する。生活健康学コース、衣環境学コース、そして臨床心理学コースの3コースから編成されており、いずれのコースも心と身体の健康に関する幅広い知識を基礎として、社会に貢献できる人材を養成する。</p> <p>② 習得させる能力 生活健康学コースでは、心と身体の健康に関する科学的知識を生理学、心理学、人間工学、生化学、栄養学、分子生物学等の視点から総合的に身につける一方、生活環境、生活習慣と健康との関連に関してそれぞれの視点から、より専門的に独創的な研究を行うことのできる能力を養う。衣環境学コースでは、衣環境学に関連する自然科学分野の高い水準の基礎学力を身につけ、フロンティア技術への挑戦とともに安全で快適な衣環境を設計し、持続可能社会へ貢献できる能力を養う。臨床心理学コースでは、心身の健康に関する科学的知識を総合的に身につけ、更に人間観、世界観、宇宙観を構築し、感受能力を磨き、全体的な観点からの人間理解の能力を身につける。</p> <p>③ 修了後の進路等 心身の健康や衣に関わる企業における研究・開発、高等教育機関等における教育・研究。カウンセラー(臨床心理士)。自治体、健康産業などでの健康事業の実践。繊維・洗剤・アパレル・流通に加えて家電・自動車・ロボット業界の研究スタッフ。中学校・高等学校教員(家庭専修免許)。</p> <p>【人間文化研究科博士前期課程 人間行動科学専攻 スポーツ科学コース】</p> <p>① 養成する人材 スポーツ科学コースは、スポーツ行動や健康運動など、身体と身体運動に関連する事象について、多様な視点からの学際的アプローチにより解明し、個人の個性、多様性そして身体的コミュニケーションの重要性などを理解し、教育現場や地域社会をはじめ、研究機関など様々な分野で社会に積極的に貢献できる人材を養成する。</p> <p>② 習得させる能力 スポーツ科学領域と教育学、心理学等の関連する領域の深い知識を習得し、それらを総合し専門的に問題解決する能力を身に付ける。</p> <p>③ 修了後の進路等 修了後は、保健体育専修免許を取得した教員、公務員、スポーツ関連企業での研究職、メディア企業や競技団体、また博士後期課程への進学を経て、大学等での教育・研究職に就くなどの進路が開かれている。</p>

新設学部等において 取得可能な資格	<p>【人間文化研究科博士前期課程 心身健康学専攻 生活健康学コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高等学校教諭専修免許状（家庭） <ol style="list-style-type: none"> ①国家資格，②資格取得可能 ③修了要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要。 <p>【人間文化研究科博士前期課程 心身健康学専攻 スポーツ科学コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高等学校教諭専修免許状（保健体育） <ol style="list-style-type: none"> ①国家資格，②資格取得可能 ③修了要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要。 <p>【人間文化研究科博士前期課程 心身健康学専攻 臨床心理学コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理士 <ol style="list-style-type: none"> ①民間資格，②受験資格 ③修了要件単位に含まれる科目の履修のみで受験資格取得可能。資格取得が修了の必須条件ではない。
----------------------	--

既設学部等において 取得可能な資格	<p>【人間文化研究科博士前期課程 心身健康学専攻 生活健康学コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高等学校教諭専修免許状（家庭） <ol style="list-style-type: none"> ①国家資格，②資格取得可能 ③修了要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要。 ・健康運動指導士 <ol style="list-style-type: none"> ①民間資格，②受験資格（本学生活環境学部生活健康・衣環境学科からの進学者に限る） ③修了要件単位に含まれる科目の履修のみで受験資格取得可能。資格取得が修了の必須条件ではない。 <p>【人間文化研究科博士前期課程 心身健康学専攻 衣環境学コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高等学校教諭専修免許状（家庭） <ol style="list-style-type: none"> ①国家資格，②資格取得可能 ③修了要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要。 <p>【人間文化研究科博士前期課程 心身健康学専攻 臨床心理学コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理士 <ol style="list-style-type: none"> ①民間資格，②受験資格 ③修了要件単位に含まれる科目の履修のみで受験資格取得可能。資格取得が修了の必須条件ではない。 ・健康運動指導士 <ol style="list-style-type: none"> ①民間資格，②受験資格（本学生活環境学部生活健康・衣環境学科からの進学者に限る） ③修了要件単位に含まれる科目の履修のみで受験資格取得可能。資格取得が修了の必須条件ではない。 <p>【人間文化研究科博士前期課程 人間行動科学専攻 スポーツ科学コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高等学校教諭専修免許状（保健体育） <ol style="list-style-type: none"> ①国家資格，②資格取得可能 ③修了要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要。 ・健康運動指導士 <ol style="list-style-type: none"> ①民間資格，②受験資格 ③修了要件単位に含まれる科目の履修のみで受験資格取得可能。資格取得が修了の必須条件ではない。
----------------------	--

新設学部等の概要	新設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動元	助教以上	うち教授
	人間文化研究科博士前期課程 [Graduate School of Humanities and Sciences] (Master's Course)	心身健康学専攻 [Department of Human Life and Health Sciences]	2	22	-	44	修士 (学術) (生活環境学) (家政学)	文学関係 家政関係 体育関係	平成30年4月	心身健康学専攻	11	5
									人間行動科学専攻	5	2	
									計	16	7	
既設学部等の概要	既設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動先	助教以上	うち教授
	人間文化研究科博士前期課程 (廃止)	心身健康学専攻 (廃止)	2	18	-	36	修士 (学術) (生活環境学) (家政学)	文学関係 家政関係	平成26年4月	心身健康学専攻	11	5
									情報衣環境学専攻	3	2	
									退職	1	1	
									計	15	8	
人間文化研究科博士前期課程	人間行動科学専攻 (廃止)	2	16	-	32	修士 (学術) (文学)	文学関係 教育学・保育学関係 体育関係	平成10年4月	心身健康学専攻	5	2	
									人間科学専攻	10	3	
									その他	1	1	
									計	16	6	

【備考欄】

大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施

(参考) 大学院人間文化研究科(博士前期課程) 平成30年度改組の全体構想

現行(平成29年度まで)

入学定員198名

新(平成30年度～)

入学定員198名

文学部を基礎とした専攻	国際社会文化学専攻 古代文化学コース 歴史学コース 社会情報学コース 地域環境学コース 文化メディア学コース (定員24名)	人文社会学専攻 (名称変更) 古代文化学コース 歴史学コース 社会情報学コース 地域環境学コース 文化メディア学コース (定員24名)	
	言語文化学専攻 日本アジア言語文化学コース ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コース (定員18名)	言語文化学専攻 日本アジア言語文化学コース ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コース (定員18名)	
	人間行動科学専攻 教育学・人間学コース 人間関係行動学コース スポーツ科学コース (定員16名)	人間科学専攻 (事前伺い) 教育学・人間学コース 心理学コース (定員12名)	
修士(文学), (学術)		修士(文学), (学術)	

生活環境学部を基礎とした専攻	食物栄養学専攻 (定員13名)	食物栄養学専攻 (定員13名)	
	心身健康学専攻 生活健康学コース 衣環境学コース 臨床心理学コース (定員18名)	心身健康学専攻 (事前伺い) 生活健康学コース スポーツ科学コース 臨床心理学コース (定員22名)	
	住環境学専攻 (定員13名)	情報衣環境学専攻 (事前伺い) 衣環境学コース 生活情報通信科学コース (定員10名)	
	生活文化学専攻 (定員9名)	住環境学専攻 (定員13名)	
	生活文化学専攻 (定員9名)	生活文化学専攻 (定員9名)	
修士(学術), (生活環境学), (家政学)		修士(学術), (生活環境学), (家政学)	
生活工学共同専攻 (定員7名)	生活工学共同専攻 (定員7名)		
修士(生活工学), (工学), (学術)		修士(生活工学), (工学), (学術)	

理学部を基礎とした専攻	数学専攻 (定員14名)	数物科学専攻 (事前伺い) 数学コース 物理学コース 数物連携コース (定員28名)	
	物理学専攻 (定員14名)		
	化学専攻 (定員20名)		
	生物科学専攻 (定員20名)		
	情報科学専攻 (定員12名)		
修士(理学), (学術)		修士(理学), (学術)	

教育課程等の概要(事前伺い)															
(大学院人間文化研究科博士前期課程 心身健康学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目群	研究者倫理	1前		1		○								兼1	
	技術者倫理	1後		1		○								兼2	
	学びをつむぐⅠ	1後		1			○							兼5	
	学びをつむぐⅡ	2通		1			○							兼5	
	アクティブ・ゼミナール	1・2後		1			○							兼1	
	小計(5科目)	—	0	5	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼9	
専攻共通	心身健康学特論A	1前		1		○			2	3			1	を1	
	心身健康学特論B	1前		1		○			3	1			1	選科	
	心身健康学特論C	1前		1		○			2	1	1		1	目必	
	小計(3科目)	—	0	3	0	—	—	—	7	5	1	3	0	以修上	
	生活健康学コース	環境生理論	1前		2		○			1					オムニバス
		環境生理論演習	1後		2			○		1					オムニバス
		心身医学特論	1前		2		○			1					オムニバス
		生活医学演習	1後		2			○		1					オムニバス
		環境人間工学特論	1前		2		○								兼1
		環境人間工学演習	1後		2			○							兼1
		生体機能調節論	1前		2		○			1					
		生体機能調節論演習	1後		2			○		1					
		食と自律神経学特論	1前		2		○				1				
		食と自律神経学演習	1後		2			○			1				
		生活適応学	1前		2		○							1	
生活適応学演習		1後		2			○						1		
生活健康論A		1前		2		○			1	1				オムニバス	
生活健康論B		1後		2		○			2				1	オムニバス	
神経生理学特論		1前		2		○			1	1				オムニバス	
小計(15科目)	—	0	30	0	—	—	—	3	1	0	1	0	兼1		
スポーツ科学コース	スポーツ法学特論	1前		2		○			1						
	スポーツ法学演習	1・2後		2			○		1						
	バイオメカニクス特論	1前		2		○								兼1	
	バイオメカニクス演習	1後		2			○							兼1	
	身体表現学特論	1前		2		○			1						
	身体表現学演習	1後		2			○		1						
	スポーツ生理学特論	1前		2		○				1					
	スポーツ生理学演習	1・2後		2			○			1					
	スポーツ社会学特論	1前		2		○				1					
	スポーツ社会学演習	1後		2			○			1					
	スポーツ行動心理学特論	1前		2		○				1					
	スポーツ行動心理学演習	1後		2			○			1					
	運動文化論特論	1・2前		2		○								兼1	
	運動文化論演習	1・2後		2			○			1					
	身体運動学特論	1・2前		2		○								兼1	
身体運動学演習	1・2後		2			○				1					
小計(16科目)	—	0	32	0	—	—	—	2	3	0	0	0	兼3		

専門群	臨床心理学コース	臨床心理学特論Ⅰ	1前	2	○				1									
		臨床心理学特論Ⅱ	1後	2	○			1										
		臨床心理学面接特論Ⅰ	1前	2	○			1										
		臨床心理学面接特論Ⅱ	1後	2	○			1										
		臨床心理査定演習Ⅰ	1前	2		○		1	1			1					オムニバス	
		臨床心理査定演習Ⅱ	1後	2		○		1		1		1						オムニバス
		臨床心理基礎実習Ⅰ	1前	1			○	1		1		1						オムニバス
		臨床心理基礎実習Ⅱ	1後	1			○	1		1		1						オムニバス
		臨床心理実習Ⅰ	2前	1			○	1	1			1						オムニバス
		臨床心理実習Ⅱ	2後	1			○	1	1			1						オムニバス
		心理学研究法特論	1・2後	2		○						1						
		心理統計法特論	1・2前	2		○						1						
		臨床心理学研究法特論	1・2前	2		○									1			
		発達心理学特論	1・2前	2		○									1			
		教育心理学特論	1・2後	2		○		1										
		学習心理学特論	1・2後	2		○						1						
		家族心理学特論	1・2後	2		○									1			
		犯罪心理学特論	1・2前	2		○		1										
		臨床心理関連行政論	1・2後	2		○												兼1
		精神医学特論	1・2後	2		○												兼1
		投映法特論	1・2前	2		○												兼1
心理療法特論	1・2前	2		○			1											
学校臨床心理学特論	1・2後	2		○		1												
小計 (23科目)	—	0	42	0	—	2	1	1	2	0	兼3	—						
論文等作成群	生活健康学特別研究	1前～2後	10		○		3	1		1						生活健康学 コース必修科目		
	スポーツ科学特別研究	1前～2後	10		○		2	3								スポーツ科学 コース必修科目		
	臨床心理学特別研究	1前～2後	10		○		2	1	1	2						臨床心理学 コース必修科目		
	小計 (3科目)	—	0	30	0	—	7	5	1	3	0	0	—					
合計 (65科目)		—	0	142	0	—	7	5	1	3	0	兼16	—					
学位又は称号	修士 (学術) 修士 (生活環境学) 修士 (家政学)	学位又は学科の分野				文学関係、家政関係、体育関係												
設置の趣旨・必要性																		
I 設置の趣旨・必要性 (背景) 人々が豊かな生活を営むためには、心身ともに健康であることが基本であることから、心身の健康を担保する生活環境に対する社会的ニーズは極めて高い。このような社会的ニーズに応えるためには、心と身体の健康に関する系統的で幅広い知識を基礎に、実践的応用力を科学的視点と総合的人間理解の視点から身につけ、心と身体の健康に関する今日的諸問題の発見および解決に貢献できる実践力のある人材を養成することが必要である。特に、心身の健康に関する諸科学である心理学、体育学及び生活健康学を基礎とした「心と身体の健康」として心身健康学へ統合することで、生活環境学領域での心身の健康のフロンティア教育および研究が実施できる。 (本学に設置する必要性) 心身健康学専攻では、上記の理念を受けて、平成26年度に既設の「生活健康・衣環境学専攻」に「臨床心理学コース」を新設し「心身健康学専攻」に改組したが、今回さらに理念の方向性を進めるために、現行の人間行動科学専攻スポーツ科学コースを加え、専攻内に「生活健康学コース」、「スポーツ科学コース」、「臨床心理学コース」の3コースを設置し、心身の健康というコンセプトで統合・組織化する。本学では、すでに学部において同様なコンセプトを持つ心身健康学科があることから、学部教育と連携することで充実した教育・研究を行うことができる。 心身健康学専攻では、生活健康学コース、スポーツ科学コース、臨床心理学コースの3つのコースを設置し、それぞれのコースで特化した教育・研究を推進するとともに、多様化した社会に多面的に貢献できる深い専門性を身に付けた創造性豊かな女性人材を養成するために、各専門分野間で連携のとれた教育体系を設置する。 [生活健康学コース] 生活健康学コースでは、生活環境や生活習慣の視点に立った健康科学に関する教育・研究を行い、分子レベルから生体まで幅広い範囲にわたる専門的知識と創造的で独創的な研究を行うための実践力を身に付けさせ、男女共同参画社会をリードし活躍できる女性人材を養成する。 [スポーツ科学コース] スポーツ科学コースでは、文理融合型であるスポーツ科学の総合的・学際的な専門知識と実践能力を有し、スポーツの発展と国民の健康維持・増進に関わる多様な領域で、社会に貢献できる女性人材を養成する。 [臨床心理学コース] 臨床心理学コースでは、人の心の問題に取り組む高度専門職業人を養成するため、臨床心理士養成コースに対応する教育・研究を行う。養成課程に含まれる地域住民に対する心理・教育相談等の実践を通じて、より実践的に社会貢献できる女性人材を養成する。																		

II 教育課程編成の考え方・特色

(教育課程の基本的な考え方)

高度に専門的な知識を身に付けることができるよう、3つのそれぞれのコースに専門的カリキュラムを設けている。なお、専攻共通科目である心身健康学特論を必修とすることで、心と身体の健康についての多様化する問題を総合的・実際に捉えることができるようにする。さらに、学びをつむぐ、アクティブ・ゼミナール、研究者倫理、技術者倫理といった大学院教養科目を組み入れ、総合的な知識を基盤とし、さらに専門的な分野における研究能力を育成することにより、幅広い見識を持った人材を育成する。また、履修系列として、高度な専門的能力を養成する専修系と、広い視野を備えた多様なタイプの優秀な人材を養成する複合系があるが、複合系に「スポーツ・健康・心」を置き、専門のコースだけでなく他コースの科目を卒業要件単位に含められるようにする。

[生活健康学コース]

生活健康学コースでは、生理学、神経科学、生化学、栄養学、分子生物学、衛生学、人間工学などの分野の幅広い研究がなされており、各分野で特色のある研究手法やアプローチを重視した関連科目を置く。生活健康論Aおよび生活健康論Bでは、それぞれの分野の一線で活躍する研究者を招聘し、セミナー形式での講義や、複数の教員による連携講義などから構成する橋渡しの科目を置く。また、企業や大学等における研究者としての資質を磨くために、より多くの時間を研究に専念できるよう一部の科目においてフレキシブルな講義時間や補講を行うことによって、学生の研究のための時間を優先する環境を整える。さらに、中学校・高等学校教諭専修免許状(家庭)を取得できる教育課程を置く。

[スポーツ科学コース]

スポーツ科学コースでは、心と身体の健康に関する内容を幅広く学習するために、それぞれの学習内容が有機的に連動する科目を設置する等、統合的な知識を学習できるカリキュラムを準備する。また、スポーツ科学を総合的・学際的に学び、講義・演習からより実践的な能力を身に付ける。さらに、中学校・高等学校教諭専修免許状(保健体育)を取得できる教育課程を置く。

[臨床心理学コース]

臨床心理学コースでは、心と身体の健康に関する科学的知識を、心理学、生理学、医学、脳科学などの視点から総合的に身につける。心理学を総合的かつ体系的に学び、演習や実習を通じて実践的な能力を身につける。また、臨床心理相談センターでの活動を通じて、臨床心理学の実践を行う。さらに、修了要件ではないが、指定科目履修による単位取得によって臨床心理士受験資格を取得可能である。今後さらに、国家資格である公認心理師についても受験資格取得のためのカリキュラム整備を行う予定である。

(教育課程の特色)

心身健康学専攻のカリキュラムの特色は、基本的な学力を高水準に保ちながら、演習やディスカッションによって人に役立つ研究を構想・実行・発信できる高度専門職業人を養成する点にある。研究内容により3つのコースを設けている。また、6年一貫教育プログラムの選択を可能にし、科目等履修生制度を活用して専門教科の一部を学部段階で履修できるようにすることで、留学やインターンシップなどに積極的に取り組もうとする学生に対して柔軟な研究環境を提供する。

学位の授与において、付記する専攻分野の名称は「生活環境学」、「家政学」あるいは「学術」のいずれかとする。学位の名称は学位論文の内容に基づいて以下の基準により、教授会で決定する。すなわち、学位論文が生活環境学に関連した専門分野の内容が主である場合には修士(生活環境学)の学位を授与し、家政学に関連した専門分野の内容が主である場合には修士(家政学)の学位を授与し、複合的・学際的な内容が多く含まれていたり学際領域の分野に該当したりする場合には、修士(学術)を授与するものとする。

[生活健康学コース]

生活健康学コースでは、心と身体の健康に関する科学的知識を生理学、神経科学、生化学、栄養学、分子生物学、衛生学、人間工学などの視点から総合的に身に付ける。また、生活環境、生活習慣と健康との関連についてそれぞれの視点から、より専門的で独創的な研究を行うことのできる能力を養う。さらに、複数教員による個別指導も含め、きめ細やかな指導によってコースを修了する学生の質を保証する。

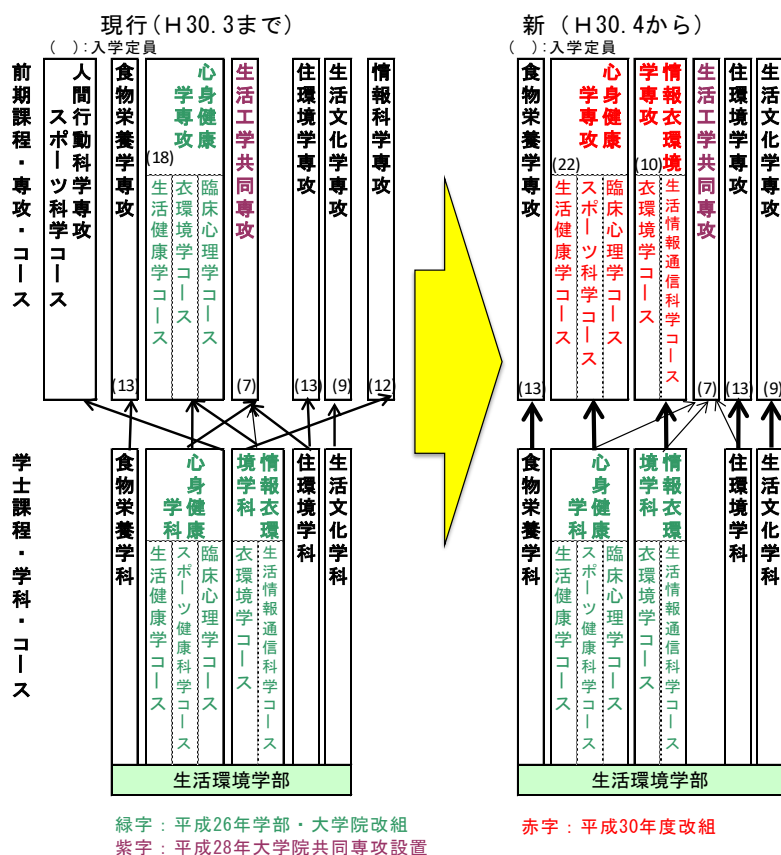
[スポーツ科学コース]

スポーツ科学コースでは、身体運動やスポーツをとりまく諸現象を解明するため、人文科学・社会科学・自然科学からの総合的・学際的なアプローチを展開し、社会に貢献できる実践的応用能力、リーダーシップを養う。また、自主性・自立性を育成するために、スポーツ科学コース内の選択必修科目だけでなく、他コース内にある授業科目の履修を推奨する。さらに、複数教員による個別指導も含め、きめ細やかな指導によってコースを修了する学生の質を保証する。

[臨床心理学コース]

臨床心理学コースでは、心身の健康について総合的かつ専門的な知識と技術を有する「こころ」の専門的職業人を育成する。自主性・自立性を育成し、かつ心身の健康について幅広い視点から学ぶため、コース内の選択必修科目だけでなく、他コースが開講する授業科目の履修を推奨する。また、地域住民に対する心理・教育相談などの実践を通じて、臨床心理学の実践的・実務的な経験を積むことができる。さらに、研究指導と臨床指導を別の教員が担当するなど、複数教員による個別指導も含めきめ細やかな指導によってコースを修了する学生の質を保証する。

奈良女子大学の大学院改組構想 生活環境学部を基盤とした専攻



心身健康学専攻履修モデル

生活健康学コース

学位	修士(学術)		修士(生活環境学)		修士(家政学)		
概要	生活健康学に関する幅広い知識をもち、科学的方法論をもって対処し、その解決策を提示、実践できることを目的とする。さらに、自ら問題提起し解決出来る人材を養成する。生理学的な知見をもとに生活健康学に関する幅広いテーマを扱った修士論文研究を行った者に対して修士(学術)の学位を授与する。公務員、企業・大学等の研究職、博士後期課程進学を始め、幅広い進路を想定している。		生活健康学に関する深い知識と洞察力を有し、創造的な生活環境の提言が出来ることを目的とする。人と関わる環境に関する知識を獲得し、それをもとに現在の環境の諸問題に対応する能力を身につけた人材を養成する。生活環境における健康に関するテーマを実験的研究手法を用いて、修士論文研究を行った者に対して修士(生活環境学)の学位を授与する。主に、健康に関する企業の開発・研究者等の進路を想定している。		日常の生活での衣食住に関係する事柄を中心に健康に関する実践的な能力と日々の生活を創造する力を養う。家政学に関する幅広い知識を持ち、深い専門性と実践力を身につけた人材を養成する。衣食住に関係する生活に根ざした、より実践的な研究テーマの修士論文研究を行った者に対して修士(家政学)の学位を授与する。主に、中学・高校の家庭科教員等の進路を想定している。		
	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
1 年次	教養 科目群	研究者倫理	1	研究者倫理	1	アクティブ・ゼミナール	1
		技術者倫理	1	技術者倫理	1		
	専門群	心身健康学特論A	1	心身健康学特論B	1	心身健康学特論C	1
		環境生理論	2	生活適応学	2	食と自律神経学特論	2
		心身医学特論	2	環境人間工学特論	2	生体機能調節論	2
		生体機能調節論	2	生活健康論A	2	生活適応学	2
		食と自律神経学特論	2	心身医学特論	2	生活健康論A	2
		神経生理学特論	2	環境生理論	2	環境人間工学特論	2
		環境生理論演習	2	生活適応学演習	2	食と自律神経学演習	2
		生活医学演習	2	環境人間工学演習	2	生体機能調節論演習	2
生体機能調節論演習	2	生活健康論B	2	生活適応学演習	2		
食と自律神経学演習	2	食と自律神経学演習	2	生活健康論B	2		
環境生理論演習	2	環境生理論演習	2	生活医学演習	2		
1・2 年次	論文等 作成群	生活健康学特別研究	10	生活健康学特別研究	10	生活健康学特別研究	10
合計		31		33		32	

スポーツ科学コース

学位		修士(学術)		修士(生活環境学)	
概要		学際領域であるスポーツ科学・体育学に関わる研究を行う者を対象とし、高度な専門知識と実践的能力を深める。主に人文科学系・社会科学系の研究手法を用いた論文内容とする。一般企業、公務員、教育職、地域政策、スポーツビジネスなどでスポーツ科学の関連分野をリードする人材を育成する。		生活環境学との関わりの中で、運動やスポーツ活動が健康に及ぼす影響の解明を行うなどの研究を行う者を対象とし、高度な専門知識と実践的能力を深める。主に自然科学系の研究手法を用いた論文内容とする。一般企業、研究職、医療福祉、健康産業などで関連分野をリードする人材を育成する。	
		科目名	単位数	科目名	単位数
1 年 次	教養科目群	学びをつむぐI	1	研究者倫理	1
		研究者倫理	1		
	専門群	心身健康学特論A	1	心身健康学特論A	1
		スポーツ法学特論	2	バイオメカニクス特論	2
		運動文化論特論	2	スポーツ生理学特論	2
		スポーツ社会学特論	2	生活適応学	2
		スポーツ行動心理学特論	2	身体運動学特論	2
		身体表現学特論	2	食と自律神経学特論	2
		スポーツ法学演習	2	バイオメカニクス演習	2
		運動文化論演習	2	スポーツ生理学演習	2
		スポーツ社会学演習	2	生活適応学演習	2
		スポーツ行動心理学演習	2	身体運動学演習	2
		身体表現学演習	2	食と自律神経学演習	2
		論文等作成群	スポーツ科学特別研究	10	スポーツ科学特別研究
合計		33		32	

臨床心理学コース

学位		修士(学術)		修士(生活環境学)			
概要		臨床心理学に関する講義だけでなく演習や実習も履修することで、心理援助、心理査定(アセスメント)、研究という臨床心理学の専門性を高く身につけた女性人材を育成する。修了後は主に臨床心理士として医療、教育、福祉、司法などの各領域で心理援助やアセスメント、研究の業務にあたる人材の育成を目指す。臨床心理学に関する講義・演習・実習を幅広く履修し、臨床心理士の主たる業務である心理援助・心理査定(アセスメント)に関わるテーマを扱う修士論文研究を行った者に対し、修士(学術)の学位を授与する。		臨床心理学に基づく人間理解や心理援助の方法を包括的に学ぶことで、高い専門性とコミュニケーション能力をもった女性人材の育成を目指す。修了後は教員や一般企業の人事部など、心理学の知識や技術を活かすことのできる領域に進むことを想定している。臨床心理学に限らず、広く生活環境におけるこの健康やこころの働きについて扱った修士論文研究を行った者に対し、修士(生活環境学)の学位を授与する。			
		科目名	単位数	科目名	単位数		
1 年 次	教養科目群	研究者倫理	1	研究者倫理	1		
		心身健康学特論A	1	心身健康学特論A	1		
	専門群	臨床心理学特論I	2	臨床心理学特論I	2		
		臨床心理学面接特論I	2	臨床心理学面接特論I	2		
		臨床心理査定演習I	2	臨床心理査定演習I	2		
		臨床心理基礎実習I	1	臨床心理学研究法特論	2		
		臨床心理学研究法特論	2	犯罪心理学特論	2		
		投映法特論	2	心理療法特論	2		
		心理療法特論	2	臨床心理学特論II	2		
		臨床心理学特論II	2	臨床心理学面接特論II	2		
		臨床心理学面接特論II	2	臨床心理査定演習II	2		
		臨床心理査定演習II	2				
		臨床心理基礎実習II	1				
		学習心理学特論	2				
		精神医学特論	2				
		2 年 次	論文等作成群	臨床心理実習I	1	臨床心理学特別研究	10
				臨床心理実習II	1		
		合計		38		30	

修了要件及び履修方法

授業期間等

教養科目群、専門群の専攻共通科目及びコース科目から20単位以上、並びに論文等作成群のコースに応じた特別研究10単位、合計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上で修士論文の審査及び最終試験に合格すること。なお、教養科目群及び専攻共通科目の単位をそれぞれ1単位以上含むこと。また、教養科目群の単位は2単位を上限として修了に必要な単位として認める。

1学年の学期区分	2学期
1学期の授業期間	15週
1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要(事前伺い)															
既設(大学院人間文化研究科博士前期課程 心身健康学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
生活健康学コース	環境生理論	1前		2		○			1						兼1 兼1 兼1 兼1 オムニバス オムニバス 兼1 兼1 兼1 兼3 —
	環境生理論演習	1後		2			○		1						
	食健康科学	1・2前		2		○									
	食健康科学演習	1・2後		2			○								
	神経生理学特論	1前		2		○			1						
	神経生理学特論演習	1後		2			○		1						
	自律神経学特論	1前		2		○				1					
	自律神経学特論演習	1後		2			○			1					
	心身医学特論	1前		2		○			1						
	生活医学演習	1後		2			○		1						
	環境人間工学特論	1後		2		○									
	環境人間工学演習	1前		2			○								
	生体機能調節論	1前		2		○			1						
	生体機能調節論演習	1後		2			○		1						
	生活適応学	1前		2		○						1			
	生活適応学演習	1後		2			○					1			
	生活健康論Ⅰ	1前		2		○			2	1					
	生活健康論Ⅱ	1後		2		○			2			1			
	ヘルスプロモーション論	1・2前		2		○									
	ヘルスプロモーション論演習	1・2後		2			○								
小計(20科目)	—	—	0	40	0	—	—	—	4	1	0	1	0	兼3	—
専門群	臨床心理学コース	臨床心理学特論Ⅰ	1前		2		○						1		オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス 兼1 兼1 兼1 兼3 —
		臨床心理学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
		臨床心理学面接特論Ⅰ	1前		2		○			1					
		臨床心理学面接特論Ⅱ	1後		2		○			1					
		臨床心理査定演習Ⅰ	1前		2			○		1	1		1		
		臨床心理査定演習Ⅱ	1後		2			○		1		1	1		
		臨床心理基礎実習Ⅰ	1前		1				○	1		1	1		
		臨床心理基礎実習Ⅱ	1後		1				○	1		1	1		
		臨床心理実習Ⅰ	2前		1				○	1	1		1		
		臨床心理実習Ⅱ	2後		1				○	1	1		1		
		心理学研究法特論	1・2後		2		○					1			
		心理統計法特論	1・2前		2		○					1			
		臨床心理学研究法特論	1・2前		2		○						1		
		発達心理学特論	1・2後		2		○						1		
		学習心理学特論	1・2後		2		○					1			
		教育心理学特論	1・2後		2		○			1					
		家族心理学特論	1・2後		2		○						1		
		犯罪心理学特論	1・2前		2		○			1					
		臨床心理関連行政論	1・2後		2		○							1	
		精神医学特論	1・2後		2		○							1	
		投映法特論	1・2前		2		○							1	
		心理療法特論	1・2前		2		○				1				
		学校臨床心理学特論	1・2後		2		○			1					
小計(23科目)	—	—	0	42	0	—	—	—	2	1	1	2	0	兼3	—

専門群	衣環境学コース	アパレル洗淨論	1後	2	○			1						
		アパレル洗淨論演習	1後	2		○		1						
		アパレルインターフェース構成論	1前	2	○									兼1
		アパレルインターフェース構成論演習	1前	2		○								兼1
		衣環境管理論	1前	2	○			1						
		衣環境管理論演習	1前	2		○		1						
		アパレル情報処理論	1・2前	2	○									兼1
		アパレル情報処理論演習	1・2後	2		○								兼1
		繊維構造論	1前	2	○									兼1
		繊維構造論演習	1後	2		○								兼1
		繊維材料物性論	1・2前	2	○									兼1
		繊維材料物性論演習	1・2後	2		○								兼1
		繊維集合体物性論	1・2後	2	○									兼1
		繊維集合体物性論演習	1・2後	2		○								兼1
		アパレル製品設計学	1後	2	○									兼1
		アパレル評価論	1前	2	○									兼1
		アパレル感性情報処理論	1前	2	○									兼1
		アパレル科学特論	1・2通	2	○			2	1					兼4
		コンピュータアーキテクチャ特論	1前	2	○			1						
		オペレーティングシステム特論	1前	2	○			1						
		コンピュータネットワーク特論	1後	2	○			1		1				集中
		経営工学特論	1・2後	2	○			1						
		ソフトウェア工学特論	1前	2	○			1						
		プロジェクトマネジメント特論	1前	2	○			1						
		セキュリティ特論	1後	2	○			1						集中
		情報学特論	1・2後	2	○			1						
		ユビキタスドクター演習	1・2後	2		○								兼1
小計 (27科目)	—	0	54	0	—	2	1	1	0	0	兼8	—		
論文等作成群	生活健康学特別研究	1前～2後	10		○		4	1		1		生活健康学 コース必修科目		
	臨床心理学特別研究	1前～2後	10		○		2	1	1	2		臨床心理学 コース必修科目		
	衣環境学特別研究	1前～2後	10		○		2	1				衣環境学 コース必修科目		
	小計 (3科目)	—	0	30	0	—	8	3	1	3	0	0		
合計 (73科目)			—	0	166	0	—	8	3	1	3	0	兼12	—
学位又は称号	修士 (学術) 修士 (生活環境学) 修士 (家政学)		学位又は学科の分野				文学関係、家政関係							

教育課程等の概要(事前伺い)

既設(大学院人間文化研究科博士前期課程 人間行動科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門群	人間科学基礎論特論	1・2後		2		○			1							
	哲学思想史特論	1・2前		2		○			1							
	哲学思想史演習	1・2後		2			○		1							
	倫理学特論	1・2後		2		○			1							
	倫理学演習	1・2前		2			○		1							
	教育人間学特論A	1・2前		2		○									兼1	
	教育人間学特論B	1・2前		2		○				1						
	教育人間学演習A	1・2後		2			○			1						
	教育人間学演習B	1・2後		2			○			1						
	教育史特論A	1・2前		2		○				1						
	教育史特論B	1・2後		2		○				1						
	教育史演習A	1・2前		2			○			1						
	教育史演習B	1・2前		2			○			1						
	子ども史特論	1・2前		2		○				1						
	教育社会学特論A	1・2後		2		○					1					
	教育社会学特論B	1・2後		2		○					1					
	教育社会学演習A	1・2後		2			○				1					
	教育社会学演習B	1・2後		2			○				1					
	音楽教育学特論	1・2前		2		○									兼1	
	音楽と子ども特論	1・2前		2		○					1					
	音楽教育学演習	1・2後		2			○								兼1	
	音楽と子ども演習	1・2前		2			○				1					
	身体文化学特論A	1・2前		2		○					1					
	身体文化学特論B	1・2前		2		○									兼1	
	身体文化学演習A	1・2前		2			○				1					
	身体文化学演習B	1・2前		2			○				1					
	身体文化史特論A	1・2前		2		○					1					
	身体文化史特論B	1・2前		2		○					1					
	身体文化史演習A	1・2後		2			○				1					
	身体文化史演習B	1・2後		2			○				1					
	小計(30科目)		—	0	60	0	—	—	—	3	4	0	0	0	兼4	—
	人間関係行動学コース	認知心理学特論I	1・2前		2		○									
認知心理学特論II		1・2後		2		○										
認知心理学演習I		1・2前		2			○				1					
認知心理学演習II		1・2後		2			○				1					
人間関係行動学特論I		1・2前		2		○									兼1	
人間関係行動学特論II		1・2後		2		○									兼1	
心理学質的研究法演習		1・2前		2			○				1					
教育心理学演習		1・2後		2			○				1					
発達心理学特論I		1・2前		2		○									兼1	
発達心理学特論II		1・2後		2		○									兼1	
発達心理学演習I		1・2前		2			○				1					
発達心理学演習II		1・2後		2			○				1					
発達臨床学特論I		1・2前		2		○					1					
発達臨床学特論II		1・2後		2		○					1					
臨床心理学特論A		1・2前		2		○									兼1	
臨床心理学特論B		1・2前		2		○									兼1	
臨床心理学演習A	1・2後		2			○								兼1		
臨床心理学演習B	1・2後		2			○								兼1		

専門群	人間関係行動学コース	臨床心理面接特論Ⅰ	1・2前	2		○											兼1		
		臨床心理面接特論Ⅱ	1・2後	2		○												兼1	
		子ども学特論Ⅰ	1・2前	2		○				1									
		子ども学特論Ⅱ	1・2後	2		○				1									
		子ども学演習Ⅰ	1・2前	2			○											兼1	
		子ども学演習Ⅱ	1・2後	2			○											兼1	
		心理臨床特論	1・2前	2			○											兼1	
		臨床心理学研究法特論	1・2前	2			○											兼1	
		家族臨床心理学演習	1・2後	2				○										兼1	
		対人心理学特論Ⅰ	1・2前	2			○			1									
		対人心理学特論Ⅱ	1・2後	2			○			1									
		対人心理学演習Ⅰ	1・2前	2				○		1									
		対人心理学演習Ⅱ	1・2後	2				○		1									
		子ども発達心理学特論	1・2前	2			○											兼1	
		心理実践実習Ⅰ	1通	2					○	1	3								集中
		心理実践実習Ⅱ	2通	2					○	1	3								集中
		小計 (34科目)	—	0	68	0	—	—	—	1	3	0	0	0	0	0	0	0	兼9
	スポーツ科学コース	スポーツ文化史特論	1・2前	2		○			1										
		スポーツ文化史演習	1・2後	2		○			1										
		スポーツ社会学特論	1前	2		○				1									
		スポーツ社会学演習	1後	2			○			1									
		スポーツ法学特論	1前	2		○			1										
		スポーツ法学演習	1・2後	2			○		1										
		スポーツ行動心理学特論	1前	2		○				1									
		スポーツ行動心理学演習	1後	2			○			1									
		スポーツ生理学特論	1前	2		○				1									
		スポーツ生理学演習	1・2後	2			○			1									
		運動文化論特論	1・2前	2		○												兼1	
		運動文化論演習	1・2後	2			○			1									
		身体表現学特論	1前	2		○				1									
		身体表現学演習	1後	2			○			1									
		バイオメカニクス特論	1前	2		○												兼1	
		バイオメカニクス演習	1後	2			○											兼1	
		身体運動学特論	1・2前	2		○												兼1	
身体運動学演習	1・2後	2			○			1											
小計 (18 科目)	—	0	36	0	—	—	—	2	3	0	0	0	0	0	0	0	兼3	—	
実践群	臨床心理査定演習	1・2前	2			○											兼1		
	身体機能計測実習	1・2前	1				○										兼1		
	実践スキルゼミナール (心理学Ⅰ)	1・2前	1			○											兼1		
	実践スキルゼミナール (心理学Ⅱ)	1・2後	1			○											兼1		
小計 (4科目)	—	0	5	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼4	—	
キャリア形成群	専門応用英語	1・2後	2		○												兼1		
	プレゼンテーション演習	1・2前	1			○											兼1		
	女性専門職キャリア論	1・2前	2		○												兼1		
	インターンシップ実習	1・2前	1				○										兼1		
	インターンシップ専門実習	1・2通	1				○										兼1	集中	
小計 (5科目)	—	0	7	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼5	—	
DD科目群	Study of Nara	1・2前	1		○												兼1		
	Japanese History	1・2後	1		○												兼1		
	Contemporary Japanese Religion	1・2後	1		○												兼1		
	Japanese Pop Culture	1・2前	1		○												兼1		
	Tradition in Modern Society	1・2後	1		○												兼1		
	Tourism and Religion	1・2前	1		○												兼1		
	Traditional Architecture in Nara and Kyoto	1・2前	1		○												兼1		
	Architectural and Environmental Engineering in Japan	1・2後	1		○												兼1		
	Cloth and Culture in Japan	1・2前	1		○												兼1		
	Women in Japan	1・2前	1		○												兼1		
	Gender in Asia	1・2後	1		○												兼1		

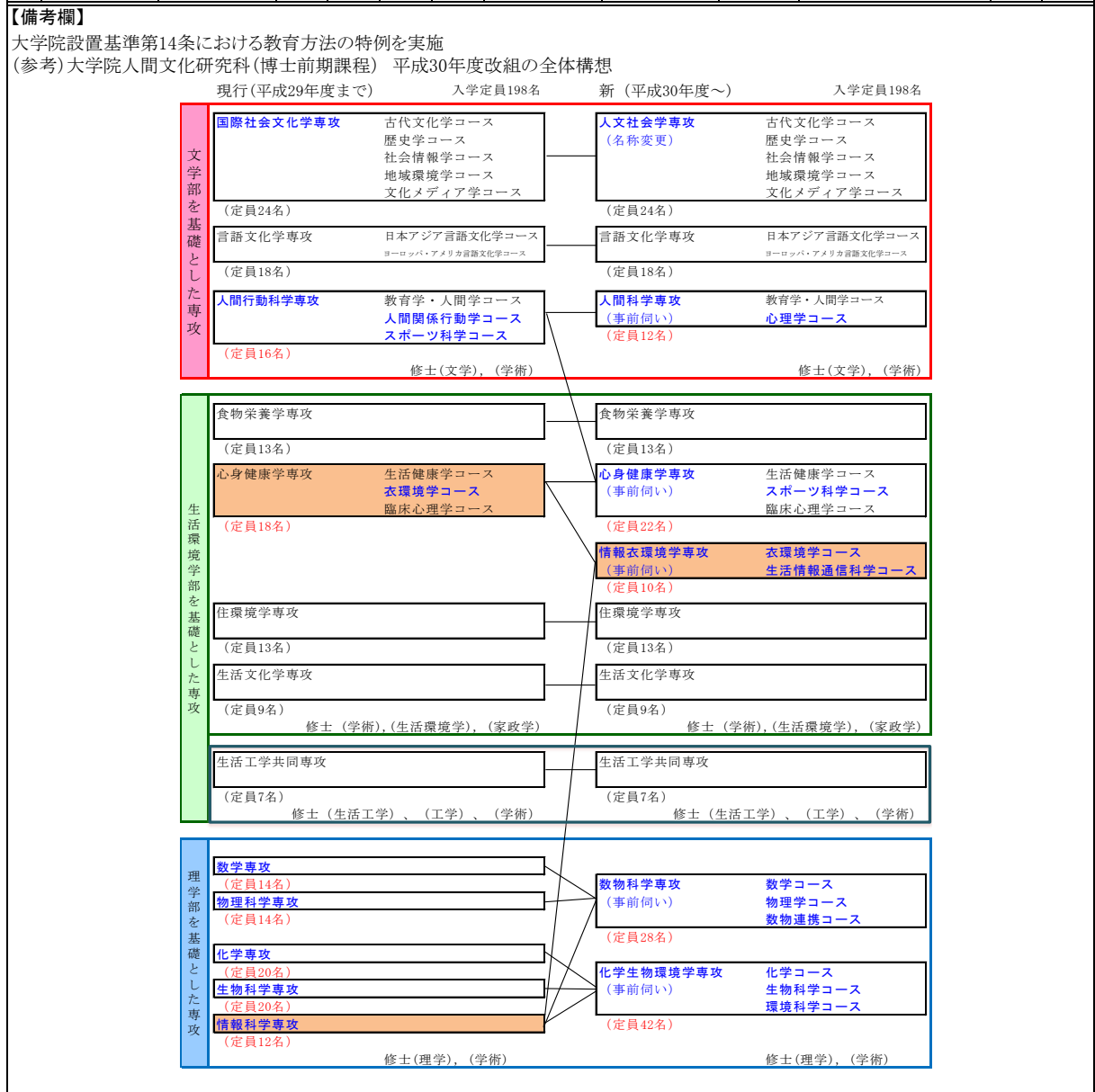
D D 科目群	Human Relations and Food, Life in Various Cultures	1・2後		1		○								兼1
	日本文学史特論A	1・2後		2		○								兼1
	日本文学史特論B	1・2前		2		○								兼1
	日本語学特論	1・2後		2		○								兼1
	日本語文化特論	1・2前		2		○								兼1
	日本文化学特論A	1・2前		2		○								兼1
	日本文化学特論B	1・2後		2		○								兼1
	日本文化学特論C	1・2前		2		○								兼1
	小計 (19科目)	—	0	26	0	—			0	0	0	0	0	兼19
論 文 等 作 成 群	演習指導 I	1・2前	2			○		6	10					
	演習指導 II	1・2後	2			○		6	10					
	Tutorial I	1・2前		2		○		6	10					
	Tutorial II	1・2後		2		○		6	10					
	小計 (4科目)	—	4	4	0	—		6	10					—
合計 (114科目)		—	4	206	0	—		6	10	0	0	0	兼42	—
学位又は称号	修士 (文学) 修士 (学術)	学位又は学科の分野			文学関係 教育学・保育学関係 体育関係									

設置計画の概要

事項	記入欄
事前相談事項	事前伺い
計画の区分	研究科の専攻の設置
設置者	コクツダイガクホウジン ナラジョウダイガク 国立大学法人 奈良女子大学
大学の名称	ナラジョウダイガクホウジン 奈良女子大学大学院 (Graduate School, Nara Women's University)
新設学部等において養成する人材像	<p>【人間文化研究科博士前期課程 情報環境学専攻】 情報環境学専攻では、情報技術を基盤とした衣環境のフロンティアの教育研究と、ライフコンピューティングを創出するシステム開発の教育研究を行う。ライフコンピューティングとは本専攻が提案・推進する新しい概念であり、ビッグデータ解析に人工知能技術を組み合わせ、生活者を見守り支える仕組みを創生するハードウェアならびにソフトウェアのシステムである。例えば、衣服では人が活動しつつ生体情報を得るような健康管理分野や、衣服の拡張としてのウェアラブル情報端末による生活ナビゲーションなどの付加技術が注目を浴び、高齢化社会を支え、地域間格差を解消する超スマート社会の実現が期待されている。このような社会的な要請に応えられる教育研究体制を整備し、衣環境学と情報学の高水準基礎学力と先端技術の構想力により、革新的な生活環境を実現できる人材を養成することが可能となる。</p> <p>① 養成する人材像 情報環境学専攻では、衣環境学、人間工学や情報工学等の視点で幅広く学び、これらを有機的に融合させ、衣環境もしくはICTについて高度な研究能力、統合的な知識や実践力を身に付けた女性人材を養成する。さらに、総合的な知識を基盤とし、専門的な分野における研究能力を育成することにより、グローバルで幅広い見識を持った研究者・技術者を育成する。 (衣環境学コース) 先端技術を取り入れた衣環境を創造できる能力と安全で快適な衣環境を構築できる能力で社会に貢献できる人材を養成する。洗浄学、界面化学や物理化学に関する系統的な幅広い専門的な知識を身につけ、衣環境全般に関する専門的で独創的な研究や教育を推進できる人材を養成する。生活に有用な衣環境(素材学や管理学)に関する従来の工学や理学の基盤を更に強化する意識を持ち、そこで再認識された知識や解決方法を、生活者や消費者に効率的に還元することにより生活環境をより質的に向上させていく。 (生活情報通信科学コース) 最先端ICTの知識と技術を持ち多様なアプリケーション分野に当該知識技術を適用する能力で社会に貢献できる人材を育成する。ソフトウェア工学、コンピュータ・システム、人工知能、計算理論等のICTに関する系統的な幅広い専門知識と技術を身につけ、ICT全般に関する専門的で独創的な研究や教育を推進できる人材を養成する。これまでICTのシステムやコンテンツはインターネットの進展に伴い集中型から分散型に推移してきたが、最近のSNSはこの流れを加速し利用者すなわち生活者オリエンテッドなシステムやコンテンツが望まれるようになってきたため、その社会の要望に応える人材を輩出する。</p> <p>② 習得させる能力 本専攻では、具体的には、人々の生活や社会の課題を衣環境技術と情報通信技術により問題解決できる創造力と応用力、安全で快適な生活手段を設計し、持続可能な超スマート社会の構築に貢献できる実践力、ウェアラブルコンピュータ等のフロンティア技術を活用した新たな企画や発想をし、それを実現できる応用力、および研究者倫理の視点から人工知能などの先端技術が社会に与える影響とその功罪を認識し、その先端技術を活用できる能力を養成する。 (衣環境学コース) 衣環境学に関連する自然科学分野の高水準の学力、安全で快適な衣環境を設計し持続可能社会へ貢献できる能力、コンピュータ等を用いた分析処理やデータ解析力でグローバルな視点を有する研究や教育を行うことのできる能力を養う。さらに、国際的コミュニケーション能力を身につけ、国際社会に貢献できる能力を身につける。 (生活情報通信科学コース) ICTに関する最先端の知識と技術、それらを使って生活者を支援し見守る仕組みを設計・構築し持続可能社会へ貢献できる能力、システムの正しい運用や利用分析等でグローバルな視点を有する研究や教育を行うことのできる能力を養う。さらに、サイバー社会における正しい情報発信能力や、国内外社会に貢献できる能力を身につけ、グローバルな視点を有する研究や教育を行うことのできる能力を養う。</p> <p>③ 修了後の進路等 衣環境学コースの修了後は、生活資材・洗剤・化粧品・アパレル・流通販売・家電等の企業、教育機関、教員、関連領域の大学院や研究機関への進学等の道が開かれている。 生活情報通信科学コースの修了後は、情報通信・家電・自動車等の基幹産業での研究者・技術者、それ以外の業種における情報処理技術者、教育機関、教員、関連領域の大学院や研究機関への進学等の道が開かれている。</p>
既設学部等において養成する人材像	<p>【人間文化研究科博士前期課程 心身健康学専攻 衣環境学コース】 心身健康学専攻内に設置した生活健康学コース、臨床心理学コース、衣環境学コースの3コースでは、学部と大学院博士前期課程との連携を強化することで、人間が心身ともに健康で快適かつ安全に生活するための幅広い知識を有し、高度な研究能力と実践力を兼ね備えた女性人材を養成する。衣環境学コースでは以下の通りである。</p> <p>① 養成する人材像 安全で快適な衣環境を構築できる能力とモバイル装置としての衣服を構想できる能力で社会に貢献できる人材を養成する。さらに、専門的知識のみならず、社会に貢献する科学の在り方を理解し、実践できる能力を持つ人材を養成する。</p> <p>② 習得させる能力 衣環境学に関連する自然科学分野の高い水準の基礎学力を身につけ、フロンティア技術への挑戦とともに安全で快適な衣環境を設計し、持続可能社会へ貢献できる能力を養う。</p> <p>③ 修了後の進路等 衣環境に関わる企業における研究・開発、高等教育機関等における教育・研究、繊維・洗剤・アパレル・流通に加えて家電・自動車・ロボット業界の研究スタッフ、中学校・高等学校教員(家庭専修免許)。</p> <p>【人間文化研究科博士前期課程 情報科学専攻 数理情報学コース】 数学・物理・化学・生物という学問の枠組みを超えた学際的な自然科学を研究する。計算機の情報通信処理能力を活用して、極度に細分化された従来の研究分野を情報科学として再構築し、新たな学問分野の創設・研究を目標とする。</p> <p>① 養成する人材像 情報に内在する数理的・論理的構造を解析し、新たな情報体系を構築するための理論的研究及びその理論的基礎に基づく応用的研究を行える人材を養成する。</p> <p>② 習得させる能力 計算機に関連した基礎的研究としてネットワーク、言語処理、数式処理を、応用的研究として脳情報処理、ニューラルネット、画像認識と理解、様々な人工知能関連分野の知識を習得する。</p> <p>③ 修了後の進路等 情報通信に関わる企業における研究職・技術職、高等教育機関等における教育・研究、情報通信以外の企業における技術職、高等学校教員(情報専修免許)。</p>
新設学部等において取得可能な資格	<p>【人間文化研究科博士前期課程 情報環境学専攻 生活情報通信科学コース】 ・高等学校教諭専修免許状(情報) ①国家資格、②資格取得可能 ③修了要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要。</p>

既設学部等において取得可能な資格	<p>【人間文化研究科博士前期課程 心身健康学専攻 衣環境学コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高等学校教諭専修免許状（家庭） ①国家資格、②資格取得可能 ③修了要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要。 <p>【人間文化研究科博士前期課程 情報科学専攻 数理情報学コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校教諭専修免許状（情報） ①国家資格、②資格取得可能 ③修了要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要。
------------------	---

新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員			
						学位又は称号	学位又は学科の分野		異動元	助教以上	うち教授	
												計
既設学部等の概要	人間文化研究科博士前期課程 [Graduate School of Humanities and Sciences] (Master's Course)	情報衣環境学専攻 [Department of Computer Science and Clothing Environment]	2	10	-	20	修士(学術) (生活環境学) (家政学)	理学関係 家政関係	平成30年 4月	心身健康学専攻	3	2
										情報科学専攻	4	1
										計	7	3
既設学部等の概要	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員			
						学位又は称号	学位又は学科の分野		異動先	助教以上	うち教授	
												計
人間文化研究科博士前期課程	心身健康学専攻(廃止)	2	18	-	36	修士(学術) (生活環境学) (家政学)	文学関係 家政関係	平成26年 4月	情報衣環境学専攻	3	2	
										心身健康学専攻	11	5
										退職	1	1
										計	15	8
	情報科学専攻(廃止)	2	12	-	24	修士(学術) (理学)	理学関係	平成10年 4月	情報衣環境学専攻	4	1	
									数物科学専攻	1	1	
									化学生物環境学専攻	7	3	
									退職	1	1	
									計	13	6	



教育課程等の概要(事前伺い)

(大学院人間文化研究科博士前期課程 情報衣環境学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目群	研究者倫理	1前		1		○									兼1	
	技術者倫理	1後		1		○									兼2	
	学びをつむぐⅠ	1後		1			○		1						兼4	
	学びをつむぐⅡ	2通		1			○		1						兼4	
	アクティブ・ゼミナール	1・2後		1			○								兼1	
	小計(5科目)	—	0	5	0	—	—	—	1	0	0	0	0		兼8	—
専攻共通	情報衣環境学論	1前	2			○			3	3	1					オムニバス
	ウェアラブルコンピューティング特論	1前		2		○			1						兼1	
	ウェアラブルコンピューティング特論演習	1後		2			○		1						兼1	
	スマートテキスタイル特論	1前		2		○			1						兼1	
	スマートテキスタイル特論演習	1後		2			○		1						兼1	
	小計(5科目)	—	2	8	0	—	—	—	3	3	1	0	0		兼2	—
衣環境学コース	アパレル洗淨論	1後		2		○				1						
	アパレル洗淨論演習	1後		2			○			1						
	衣環境管理論	1前		2		○				1						
	衣環境管理論演習	1前		2			○			1						
	衣環境科学論	2前		2		○				1						
	衣環境科学演習	2前		2			○			1						
	ソーシャルシステム特論	1前		2		○			1							
	ソーシャルシステム演習	1後		2			○		1							
	繊維構造論	1前		2		○									兼1	
	繊維構造論演習	1前		2			○								兼1	
	繊維表面分析論	1前		2		○									兼1	
	繊維表面分析論演習	1前		2			○								兼1	
	衣環境材料学	1前		2		○									兼1	
	衣環境材料学演習	1前		2			○								兼1	
	アパレル評価論	1後		2		○									兼1	
	アパレル製品設計学	1後		2		○									兼1	
	アパレル感性情報処理論	1前		2		○									兼1	
	プロジェクトマネジメント特論	1前		2		○			1							
	プロジェクトマネジメント特論演習	1後		2			○		1							
小計(19科目)	—	0	38	0	—	—	—	2	1	0	0	0		兼6	—	
生活情報通信科学コース	ライフコンピューティング論	1前		2		○			1							
	ライフコンピューティング論演習	1後		2			○		1							
	人工知能特論	1前		2		○			1							
	人工知能特論演習	1後		2			○		1							
	オペレーティングシステム特論	1前		2		○			1							
	オペレーティングシステム特論演習	1後		2			○		1							
	コンピュータアーキテクチャ特論	1前		2		○			1							
	コンピュータアーキテクチャ特論演習	1後		2			○		1							
	ソフトウェア工学特論	1前		2		○			1							
	ソフトウェア工学特論演習	1後		2			○		1							
	セキュリティ特論	1前		2		○			1							
	セキュリティ特論演習	1後		2			○		1							
	アルゴリズム特論	1前		2		○				1						
	アルゴリズム特論演習	1後		2			○			1						
	計算理論特論	1前		2		○				1						
	計算理論特論演習	1後		2			○			1						
論理プログラミング特論	1前		2		○				1							
論理プログラミング特論演習	1後		2			○			1							
知的エージェント特論	1前		2		○				1							

専門群	生活情報通信科学コース	知的エージェント特論演習	1後	2		○		1						
		ネットワーク特論	1前	2		○		1	1					
		ネットワーク特論演習	1後	2			○	1	1					
		Webプログラミング特論	1前	2		○			1					
		Webプログラミング特論演習	1後	2			○		1					
		小計 (24科目)	—	0	48	0	—	3	2	1	0	0	0	—
作論文群等		衣環境学特別研究	1前～2後	16		○		1					衣環境学コース 必修科目	
		生活情報通信科学特別研究	1前～2後	16		○		3	2	1			生活情報通信科学 コース必修科目	
		小計 (2科目)	—	0	32	0	—	3	3	1	0	0	0	
合計 (55科目)		—	2	131	0	—	3	3	1	0	0	兼14	—	
学位又は称号	修士 (学術) 修士 (生活環境学) 修士 (家政学)	学位又は学科の分野		理学関係、家政関係										
設置の趣旨・必要性														
I 設置の趣旨・必要性 (背景) 生活に関連する諸問題を、従来の物質科学、環境科学や分析科学の原理や技術をもとに解決する能力を有する人材の育成が重要となる。奈良女子大学の家政学部や生活環境学部では、生活者の視点からの科学技術に応用し、素材学や管理学分野に代表される衣環境学に関する領域において優れた実績を有し、我が国の女性人材の育成に貢献してきた。女性研究者、教育者、社会で活躍する女性リーダーにおいても、従来の理学や工学の基盤を更に強化し全体の学術基盤を底上げする意識を持ち、理学や工学的な手法で再認識された知識や解決方法を、生活者や消費者に効率的に還元することにより生活環境をより質的に向上させていくことが期待されている。さらに、経験に裏付けられた直感や感性に加え、緻密なデータ処理能力やデータ解析能力を身につけ、普遍的な真理を追究する研究能力を持つ人材の養成が期待されている。														
(本学に設置する必要性) 本専攻では、これらの社会からの期待に応えるため、衣環境学の専門分野の高度な知識を活かした独創性の高い基礎研究への動機づけを高め、管理学分野では、洗浄科学、界面化学、物理化学、素材学分野では繊維構造学、繊維表面分析学、衣環境材料学等の科目を提供する。情報科学分野では最先端ICTの知識と技術を活かした独立性の高い研究開発への動機づけを高め、コンピュータシステム分野ではクラウドを含むアーキテクチャならびにオペレーティングシステムとシステムプログラミングを、ソフトウェア工学分野ではプロジェクトマネジメントを中心とした情報システム的设计開発を、アプリケーション分野ではライフコンピューティングを中核に据えた人工知能や知的エージェントを、情報基礎分野では計算理論等の科目を提供する。														
II 教育課程編成の考え方・特色 (教育課程の基本的な考え方) 情報衣環境学専攻では、幅広く総合的に教育・研究を行う。本専攻では、人間工学や情報工学、衣環境学等の視点で幅広く学び、これらを有機的に融合させ、衣環境もしくはICTについて統合的な知識を身に付ける。学びをつむぐ、アクティブ・ゼミナール、研究者倫理、技術者倫理といった大学院教養科目を組み入れ、総合的な知識の基盤を形成する。さらに、情報化の進展に伴って衣服そのものをコンピュータ化するウェアラブル技術までの広範囲な教育研究が必要となっている。特に、ウェアラブル技術で利用される導電性ファイバーのような情報処理機能を持ったスマートテキスタイルが先端技術として注目されている。そこで、情報衣環境学、ウェアラブルコンピューティング、スマートテキスタイルに関する科目を専攻共通科目とし、専門的分野における研究能力を育成することにより、情報衣環境学における幅広い見識を持った研究者・技術者を育成する。 平成26年に新設した生活環境学部情報衣環境学科では、衣環境学コースと生活情報通信科学コースを設置した。このコース構成を踏襲し、新たな修士の教育課程を編成する。 また6年一貫教育プログラムの選択を可能にし、科目等履修生制度を活用して専門教科の一部を学部段階で履修できるようにすることで、大学院での研究を早く始めることができ、研究の質を高め、研究能力をさらに高められるようにする。 衣環境学コースでは、健康で快適かつ安全な生活の在り方を、物質科学(繊維・高分子、洗浄剤、界面活性剤、生活資材)、環境科学、分析科学の原理や技術をもとに、衣環境学に関連する情報処理やデータ解析など衣環境学の先端技術について研究し、創造性豊かな研究能力や人々の生活や社会のための衣服を創造、企画設計できる能力を持つ人材を育成する。 生活情報通信科学コースでは、生活者を見守り支える技術であるライフコンピューティングを推進するための教育研究を、コンピュータシステム(コンピュータアーキテクチャ、オペレーティングシステム、ネットワーク)、ソフトウェア工学、アプリケーション(ライフコンピューティング、人工知能、知的エージェント)、情報基礎(計算理論、アルゴリズム)といった網羅的な科目群で学ばせ、創造性豊かな研究能力や、生活者のためのサイバー社会を創造、企画設計できる能力を持つ人材を育成する。 これらの2つのコースは相補的であり、学問領域を超えた発想を得ること及び自由な発想がもたらす総合的な企画設計力を教育し、生活者視点での問題解決力を身に付け、実践できる人材を育成するために、教育課程の編成方針を次の6つに定める。 ①衣環境学もしくは情報科学に関連する自然科学分野の高い水準の基礎学力を習得させる。 ②社会のための衣環境学を理解し、安全で快適な衣環境を設計し、持続可能な超スマート社会を構築するための、もしくは社会におけるICTの役割と目的を理解し、情報倫理的な価値観を前提としたライフコンピューティングを構築するための、新しい技術を創造し、実践できる人材を育成するために必要な実践的カリキュラムとする。														

- ③衣環境や衣生活に関する、もしくはICT応用に関する、課題発見力及びその課題を解決するための創造力、企画提案力を習得させる。
- ④先端技術が社会に与える功罪と研究者としての倫理感を高める教育を実施する。
- ⑤情報衣環境学科の授業を補助することにより、学科段階で学んだ知識の本質をより深く理解し、総合的な理解力と実践力を身に付ける教育を実施する。
- ⑥高等学校教諭専修免許状（情報）を取得できる教育課程を置く。

（教育課程の特色）

上記編成方針に基づく教育課程において、専攻共通の必修科目である情報衣環境学論では衣環境分野ならびに情報科学分野の内容をオムニバス形式で示した後、両コースに共通する教育研究課題であるウェアラブルコンピューティングならびにスマートテキスタイルについての講義（ならびに演習）を行う。

専攻共通以外の各コースに特徴的な項目としては、次のものがある。

〔衣環境学コース〕

- ①衣環境学に関連する自然科学分野の高い水準の基礎学力をもち、衣分野の女性リーダーとなる人材を養成する。
- ②洗浄剤（界面活性剤、漂白剤）や衣服素材（繊維、高分子）の設計により、ひとにやさしい持続可能な衣環境を設計・企画できる能力を養うカリキュラムを提供する。
- ③コンピュータ等を用いたデータ分析処理、高度なデータ解析能力を養成するために、コース内の選択必修科目だけでなく、他コース内にある科目を履修できるようにする。

〔生活情報通信科学コース〕

- ①生活情報通信科学コースでは、ライフコンピューティングを推進する先端ICTの高度な基礎学力と洗練された開発能力を持ち、プロジェクトマネジメントを効率よく行える人材を養成する。
- ②コンピュータのハードウェアならびにシステムソフトウェア、人工知能とビッグデータ解析を前提としたライフコンピューティング、ならびに情報の基礎である計算理論とソフトウェア工学を習得するカリキュラムを提供する。
- ③具体的なライフコンピューティングの応用分野を理解するために、コース内の選択必修科目だけでなく、他コース内にある科目を履修できるようにする。

また、次の項目を共通項目とする。

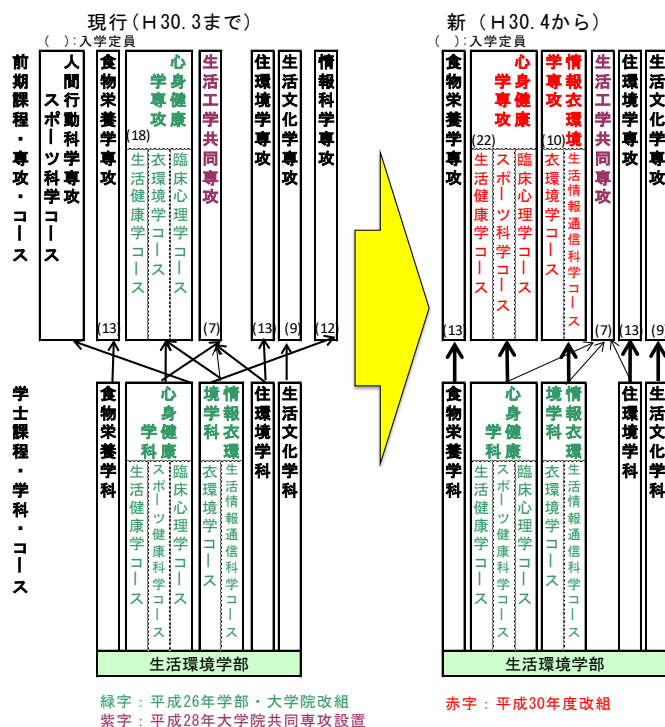
- ①私たちの生活や社会の抱える問題を解決するためのプロジェクトとしての経験を積み、チームでの問題解決力を身に付けた人材を育成する。
- ②授業の補助を通じて、知識の定着、俯瞰的に考える力を身に付けさせ、人に教える力、リーダーシップ、コミュニケーション力などの人間力も高める。
- ③複数教員による個別指導も含め、きめ細やかな指導により修了する学生の質を保証する。
- ④衣環境学コースと生活情報通信科学コースの学生間の研究の進め方に関する情報交換を通じて、研究についての新たな考え方や進め方について学び、主体的に考え行動できる人材を育成する。

学位の名称については、学位論文の内容に基づいて次の基準により決定する。

衣環境学コースでは「生活環境学」と「家政学」のいずれかとする。学位論文が情報技術と融合した衣環境学に関連した分野が主である場合は修士（生活環境学）の学位を授与し、家政学、管理学や洗浄学の内容が多く含まれている領域分野が主である場合は修士（家政学）を授与するものとする。

生活情報通信科学コースでは「生活環境学」と「学術」のいずれかとする。学位論文が生活環境学に関連した専門分野の内容が主である場合には修士（生活環境学）の学位を授与し、複合的・学際的な内容が多く含まれていたり学際領域の分野に該当したりする場合には、修士（学術）を授与するものとする。

奈良女子大学の大学院改組構想
生活環境学部を基盤とした専攻



情報衣環境学専攻履修モデル

衣環境学コース

学位		修士(生活環境学)	修士(家政学)		
概要		情報技術と関連した衣環境学に関して、工学や理学分野の総合的な基礎学力と先端情報技術を活用して、幅広い研究と教育を行う。衣環境全般に関する専門的な知識と技術を身につけた女性人材を養成する。研究としては、水/有機溶剤/界面活性剤から構成されるw/oマイクロエマルジョンを利用した洗浄ならびに反応溶媒としての新規な利用方法について開発する。	家政学や理工学と関連した衣環境に関して、管理学、洗浄学、素材学等の広い分野にわたって研究と教育を行う。生活者や消費者の視点で問題解決できる知識と技術を身につけた女性人材を養成する。研究としては、環境への負荷の少ない超臨界流体やイオン液体等の溶媒中でのマイクロエマルジョンの形成ならびに機能性に関連する分野を幅広く研究する。		
		科目名	単位数	科目名	単位数
1 年次	教養科目群	研究者倫理	1	研究者倫理	1
		技術者倫理	1	技術者倫理	1
	専門群	情報衣環境学論	2	情報衣環境学論	2
		ウェアラブルコンピューティング特論	2	スマートテキスタイル特論	2
		スマートテキスタイル特論	2	スマートテキスタイル特論演習	2
		ソーシャルシステム特論	2	衣環境管理論	2
		プロジェクトマネジメント特論	2	衣環境管理論演習	2
		繊維構造論	2	繊維構造論	2
		繊維表面分析論	2	繊維表面分析論	2
		アパレル洗浄論	2	衣環境材料学	2
アパレル洗浄論演習	2	アパレル洗浄論	2		
2 年次		衣環境科学論	2		
1・2 年次	論文等作成群	衣環境学特別研究	16	衣環境学特別研究	16
合計			38		36

生活情報通信科学コース

学位		修士(生活環境学)	修士(学術)		
概要		人工知能など情報科学の高度な専門知識を有し、実践的な研究と教育により問題解決力と豊かな創造性とリーダーシップ力を身に付けた女性エンジニアや研究者を養成する。ICT企業における上流工程の設計や管理を行う高度技術者やコンサルタント等の進路を想定している。IoTを前提とした計算機ならびに計算モデル、深層学習を利用した文字画像からの知識抽出、スマートヘルスケアナビゲーションシステム、感情を考慮した知的エージェントなどに関連する分野を幅広く研究する。	情報セキュリティ、マネジメントなど幅広く高度な専門知識を有し、実践的な研究と教育により問題解決力と豊かな創造性とリーダーシップ力を身に付けた女性エンジニアを養成する。ICT企業における上流工程の設計や管理を行う高度技術者やプロジェクトマネージャ等の進路を想定している。情報教育の設計評価、IT人材のキャリア設計における必須スキル、効果的なプログラミング学習環境の構築などに関連する分野を幅広く研究する。		
		科目名	単位数	科目名	単位数
1 年次	教養科目群	研究者倫理	1	研究者倫理	1
		技術者倫理	1	技術者倫理	1
	専門群	情報衣環境学論	2	情報衣環境学論	2
		ウェアラブルコンピューティング特論	2	ウェアラブルコンピューティング特論	2
		ウェアラブルコンピューティング特論演習	2	スマートテキスタイル特論	2
		ソフトウェア工学特論	2	論理プログラミング特論	2
		人工知能特論	2	プロジェクトマネジメント特論	2
		人工知能特論演習	2	プロジェクトマネジメント特論演習	2
		オペレーティングシステム特論	2	オペレーティングシステム特論	2
		知的エージェント特論	2	セキュリティ特論	2
知的エージェント特論演習	2	セキュリティ特論演習	2		
1・2 年次	論文等作成群	生活情報通信科学特別研究	16	生活情報通信科学特別研究	16
合計			36		36

卒業要件及び履修方法

授業期間等

専門群専攻共通科目2単位、教養科目群及び専門群コース科目から12単位以上、並びに論文等作成群のコースに応じた特別研究の16単位、合計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上で修士論文の審査及び最終試験に合格すること。なお、教養科目群の単位を1単位以上含むこと。また、教養科目群の単位数は、2単位を上限として修了に必要な単位として認める。

1学年の学期区分	2学期
1学期の授業期間	15週
1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要(事前伺い)

既設(大学院人間文化研究科博士前期課程 情報科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門群	情報処理論	1・2後		2		○			1						
	アルゴリズム特論	1・2前		2		○				1					
	グラフ理論特論	1・2前		2		○			1						
	グラフ理論特論演習	1・2後		2			○		1						
	画像処理論	1・2前		2		○									兼1
	計算機視覚特論	1・2後		2		○									兼1
	並列計算システム特論	1・2前		2		○			1						
	並列計算システム特論演習	1・2後		2			○		1						
	人工知能特論	1・2前		2		○				1					
	人工知能特論演習	1・2後		2			○				1				
	力学系特論	1・2前		2		○			1						
	力学系特論演習	1・2後		2			○		1						
	論理プログラミング特論	1・2前		2		○				1					
	論理プログラミング特論演習	1・2後		2			○				1				
	自然変動論	1・2前		2		○			1						
	自然変動論演習	1・2後		2			○		1						
	リモートセンシング特論Ⅰ	1・2前		2		○				1					
	リモートセンシング特論Ⅱ	1・2前		2		○						1			
	リモートセンシング特論演習Ⅰ	1・2後		2			○				1				
	リモートセンシング特論演習Ⅱ	1・2後		2			○					1			
	数理モデリング特論	1・2前		2		○					1				
	数理モデリング特論演習	1・2後		2			○					1			
	生態情報学特論	1・2前		2		○			1						
	生態情報学特論演習	1・2後		2			○		1						
	大域情報学特論	1・2前		2		○						1			集中
	大域情報学特論演習	1・2後		2			○					1			
	地球環境情報特論	1・2前		2		○			1						
	ネットワーク特論	1・2前		2		○					1				集中
	ネットワーク特論演習	1・2後		2			○					1			集中
	データベース特論	1・2前		2		○			1						集中
	計算機システム特論	1・2後		2		○				1					
	情報科学特別セミナーⅠ	1・2通		2			○								兼1 集中
	情報科学特別セミナーⅡ	1・2通		2			○								兼1 集中
	情報科学特別セミナーⅢ	1・2通		2			○								兼3 集中
	情報科学特別セミナーⅣ	1・2前		2			○								兼1 集中
	情報システム特論	1・2前		2		○			1						
	数式処理論	1・2前		2		○			1						
	画像認識論	1・2前		2		○									兼1
	形状認識論	1・2後		2		○									兼1
	並列処理システム特論	1・2前		2		○			1						集中
	並列処理システム特論演習	1・2後		2			○		1						集中
	知識処理論	1・2前		2		○				1					集中
	知識処理論演習	1・2後		2			○				1				集中
	陸域画像処理論	1・2前		2		○			1						集中
	陸域画像処理論演習	1・2後		2			○		1						集中
生命現象シミュレーション特論	1・2前		2		○				1					集中	
生命現象シミュレーション特論演習	1・2後		2			○				1				集中	
地球環境遠隔計測特論Ⅰ	1・2前		2		○				1					集中	
惑星大気計測データ処理特論	1・2前		2		○						1			集中	
地球環境遠隔計測特論演習Ⅰ	1・2後		2			○				1				集中	
惑星大気計測データ処理特論演習	1・2後		2			○					1			集中	

専門群	地球環境変動シミュレーション特論	1・2後		2			○			1										
	情報システムモデル論	1・2前		2			○			1										
	情報システムモデル論演習	1・2後		2				○		1										集中
	計算機通信機構論	1・2前		2			○					1								集中
	計算機通信機構論演習	1・2後		2				○				1								集中
小計(56科目)		—	0	112	0			—		6	4	1	2	0	兼7					—
論文等作成群	情報科学特別研究Ⅰ	1前	4					○		6	4	1	2							
	情報科学特別研究Ⅱ	1後	4					○		6	4	1	2							
	情報科学特別研究Ⅲ	2前	4					○		6	4	1	2							
	情報科学特別研究Ⅳ	2後	4					○		6	4	1	2							
小計(4科目)		—	16	0	0			—		6	4	1	2	0						
キャリア形成群	科学英語プレゼンテーションⅠ	1・2通		1				○		1										兼1
	科学英語プレゼンテーションⅡ	1・2通		1				○		1										兼1
	女性先端科学者セミナーⅠ	1・2通		1				○		1										兼1
	女性先端科学者セミナーⅡ	1・2通		1				○		1										兼1
小計(4科目)		—	0	4	0			—		4	0	0	0	0	兼1					—
実践群	双方向型インターン実習Ⅰ	1・2通		2				○												兼1
	双方向型インターン実習Ⅱ	1・2通		2				○												兼1
	グループワーク演習Ⅰ	1・2通		2				○												兼1
	グループワーク演習Ⅱ	1・2通		2				○												兼1
	プロジェクト企画運営実習Ⅰ	1・2前		1					○											兼2
プロジェクト企画運営実習Ⅱ	1・2前		1					○												兼2
小計(6科目)		—	0	10	0			—		0	0	0	0	0	兼2					—
合計(70科目)			—	16	126	0		—		6	4	1	2	0	兼9					—
学位又は称号	修士(学術) 修士(理学)			学位又は学科の分野					理学関係											

設置計画の概要

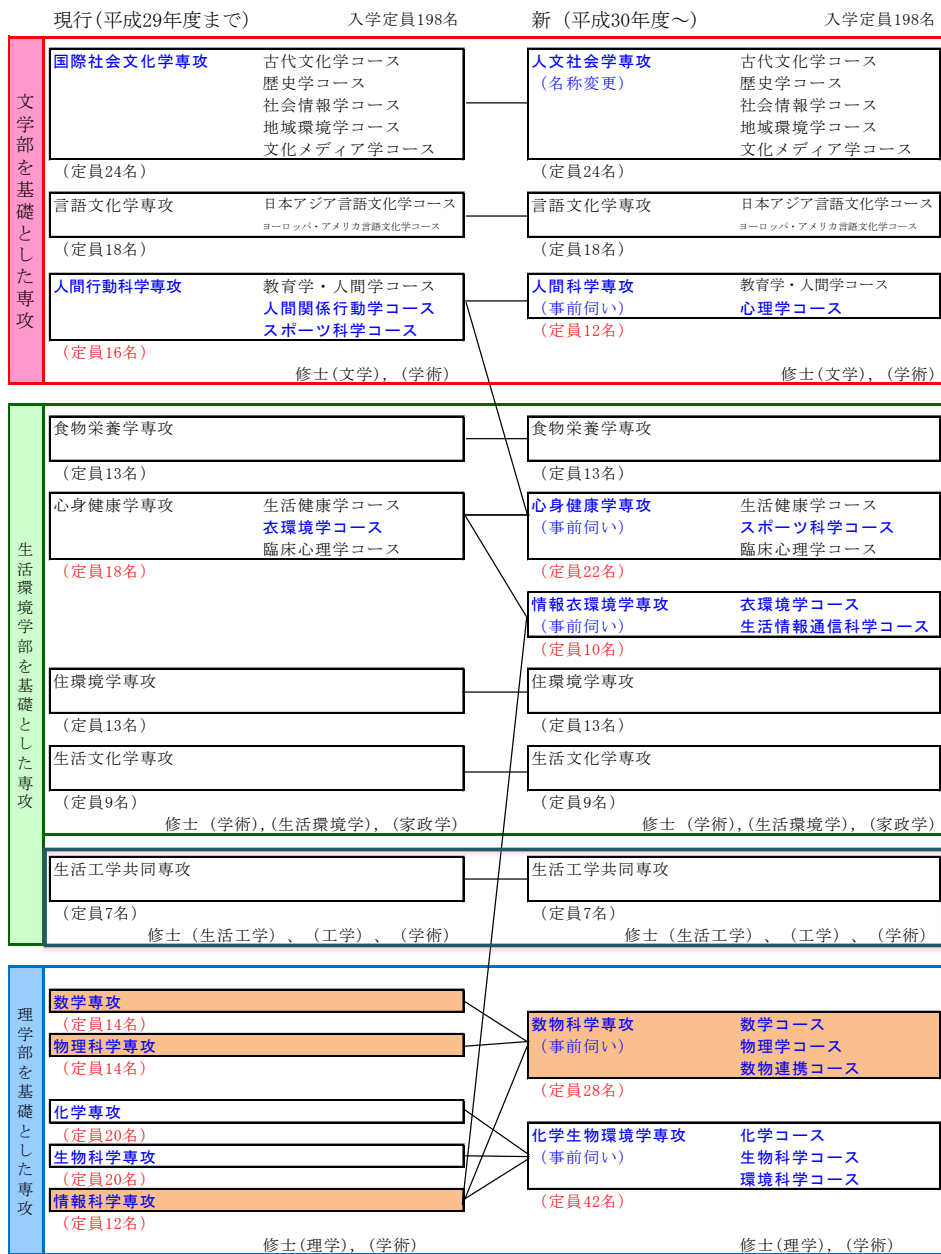
事項	記入欄
事前相談事項	事前伺い
計画の区分	研究科の専攻の設置
フリガナ設置者	コリツダイクホクシン ナラジョンダイガク 国立大学法人 奈良女子大学
フリガナ大学の名称	ナラジョンダイガクダイクイン 奈良女子大学大学院 (Graduate School, Nara Women's University)
新設学部等において養成する人材像	<p>【人間文化研究科博士前期課程 数物科学専攻】</p> <p>① 養成する人材像 社会のグローバル化、価値観の多様化、予測不能な自然・社会現象に対応できる広い視野と多様な価値観を持ち、高い水準の数学と物理学の専門知識と技能を備えらるとともに、その高度化を社会の中で自らが置かれた立場に応じて継続できる人材を養成する。この目的に添って、数学コースでは、自然科学の知識と応用を背景に、高度な数学的思考力を涵養し、諸現象の中に潜む数学的構造を究明し、合理的に問題を解決できる女性リーダーを、物理学コースでは、宇宙から極微の世界にわたる様々な自然現象を理解するための知識と物理的思考法に加え、最先端の研究に関わる計算・計測技術を活用し、現代の高度化した科学技術の幅広い分野で活躍できる女性リーダーを、数物連携コースでは、高度な数学、物理学、情報科学の連携教育を行うことで、幅広い問題解決力を有した次世代の女性リーダーを育成する。</p> <p>② 習得させる能力等 数学と物理学の連携により、視野を広げるとともに多様な方法論等を身につけ、それらをさまざまな自然現象および社会現象に応用することで、新たな課題を発見し、問題を解決する能力を習得させる。この方針に従い、数学コースでは、自然科学(特に物理学)の知識を背景に、諸現象に内包される問題を発掘し、それらを合理的に解決できる数学的能力を習得させ、物理学コースでは、基礎的事項から専門的内容まで体系的な教育とそれに立脚した研究指導を通じて、現代の高度化した科学技術の様々な分野の前進に貢献する能力を習得させ、数物連携コースでは、特に数学と物理学の教員が連携して教育に当たり、数学と物理学および情報科学のバランスのとれた理解力に基づいた幅広い自然現象・社会現象に適用可能な問題解決能力を習得させる。</p> <p>③ 修了後の進路等 大学院博士後期課程への進学、システムエンジニア、電機メーカー技術者、官公庁・教育機関等に加え、今回の改組によりインターネット技術を基盤としたソフトウェアツールおよびそれらと家庭・企業・社会を支えるインフラストラクチャーを構成する各種機器を繋ぐシステムの開発者、ビッグデータなど各種の情報間に存在する相関を調査して事業立案に寄与するデータマイニング技術者等が新たな進路として挙げられる。また、数学や理科の専修免許状を取得した中学校や高等学校の教員への進路も開かれている。</p>
既設学部等において養成する人材像	<p>【人間文化研究科博士前期課程 数学専攻】</p> <p>① 養成する人材像 さまざまな自然現象や社会現象を解析し、その中にひそむ数学的構造を探求することにより、様々な問題に対応できる数学的思考力を持った女性人材を養成する。</p> <p>② 習得させる能力等 自然科学の知識を背景に幅広く活用できる数学的思考力、自らが問題を発掘し、合理的に解決できる能力を修得させる。</p> <p>③ 修了後の進路等 大学院博士後期課程への進学、教員、システムエンジニアとして銀行、コンピュータ関連企業等に就職している。</p> <p>【人間文化研究科博士前期課程 物理学専攻】</p> <p>① 養成する人材像 宇宙から極微の世界にわたる様々な自然現象を理解するための知識と物理的思考法を活用し、社会の様々な分野で活躍できる女性人材を養成する。</p> <p>② 習得させる能力等 物理学の研究教育を通じて身につけた最先端の知識と物理的思考法を活用し、自らが問題を発見し、合理的に解決できる能力を修得させる。</p> <p>③ 修了後の進路等 大学院博士後期課程への進学、教員、電気機器、半導体・金属材料関連企業、自動車、IT関連企業へ就職している。</p> <p>【人間文化研究科博士前期課程 情報科学専攻】</p> <p>① 養成する人材像 幅広い自然科学の素養に加えて、時代の要請に応えた情報科学の高度専門知識を有し、様々な分野で活躍できる人材を育成する。</p> <p>② 習得させる能力等 コンピュータサイエンスに関する基礎知識として、ネットワーク、言語処理、数式処理を、応用知識としてニューラルネット、画像認識と様々な人工知能関連分野の知識を習得する。またこれらの情報通信処理能力を活用して、数学、物理、化学や生物学といった従来の細分化された枠組みを越えた学際的な観点から自然科学研究を展開できる能力を習得させる。</p> <p>③ 修了後の進路等 コンピュータ及び情報通信に関わる企業、電子機器・製造関連企業、地理情報システム(GIS)及びリモートセンシング関連企業、高等学校教員(情報専修免許)、公務員等があげられる。</p>
新設学部等において取得可能な資格	<p>【人間文化研究科博士前期課程 数物科学専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校・高等学校教諭専修免許状(数学) ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 修了要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要 ・ 中学校・高等学校教諭専修免許状(理科) ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 修了要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要
既設学部等において取得可能な資格	<p>【人間文化研究科博士前期課程 数学専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校・高等学校教諭専修免許状(数学) ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 修了要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要 <p>【人間文化研究科博士前期課程 物理学専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校・高等学校教諭専修免許状(理科) ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 修了要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要 <p>【人間文化研究科博士前期課程 情報科学専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校・高等学校教諭専修免許状(数学) ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 修了要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要 ・ 高等学校教諭専修免許状(情報) ① 国家資格, ② 資格取得可能 ③ 修了要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要

新設学部等の概要	新設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動元	助教以上	うち教授
	人間文化研究科 博士前期課程 [Graduate School of Humanities and Sciences] (Master's Course)	数物科学専攻 [Department of Mathematical and Physical Sciences]	2	28	-	56	修士 (理学) (学術)	理学関係	平成30年 4月	数学専攻 物理科学専攻 情報科学専攻	11 19 1	5 7 1
									計	31	13	

既設学部等の概要	既設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動先	助教以上	うち教授
	人間文化研究科 博士前期課程	数学専攻 (廃止)	2	14	-	28	修士 (理学) (学術)	理学関係	平成10年 4月	数物科学専攻	11	5
計										11	5	
物理科学専攻 (廃止)										2	14	-
計		19	7									
情報科学専攻 (廃止)		2	12	-	24	修士 (理学) (学術)	理学関係	平成10年 4月	数物科学専攻			
化学生物環境学専攻									7	3		
情報衣環境学専攻 退職									4 1	1 1		
									計	13	6	

【備考欄】

大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施
(参考)大学院人間文化研究科(博士前期課程) 平成30年度改組の全体構想



教育課程等の概要(事前伺い)

(大学院人間文化研究科博士前期課程 数物科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目群	数物科学における研究倫理	1前		1		○			4						
	学びをつむぐⅠ	1後		1											兼5
	学びをつむぐⅡ	2通		1				○							兼5
	現代数物概論A	1・2前		2		○			6	3		3			オムニバス
	現代数物概論B	1・2後		2		○			2	2					オムニバス・隔年
	現代数物概論C	1・2後		2		○			1	3					オムニバス・隔年
小計(6科目)		—	0	9	0	—	—	11	8	0	3	0	兼5	—	
数学コース	位相と多様体論	1・2後		2		○				1					
	3次元トポロジー	1・2前		2		○						1			隔年
	応用トポロジー	1・2後		2		○			1						隔年
	解析と数論	1・2後		2		○				1					隔年
	対称性の数学	1・2前		2		○			1						隔年
	低次元位相幾何学	1・2後		2		○						1			隔年
	幾何学的群論	1・2前		2		○			1						隔年
	代数概論	1・2前		2		○				1					隔年
	関数方程式	1・2前		2		○			1						隔年
	関数解析	1・2後		2		○			1						隔年
	確率論	1・2前		2		○			1						隔年
	確率微分方程式	1・2前		2		○						1			隔年
	数学特別セミナーⅠ	1前		2				○	6	3		3			兼1
	数学特別セミナーⅡ	1後		2				○	6	3		3			兼1
	数学特別セミナーⅢ	2前		2				○	6	3		3			兼1
小計(15科目)		—	0	30	0	—	—	6	3	0	3	0	兼1	—	
専門群	非線形・情報統計力学セミナーA	1・2前		2				○		1					隔年
	非線形・情報統計力学セミナーB	1・2後		2				○	1						隔年
	プラズマ物理学特論	1・2前		2		○				1					隔年
	非線形動力学特論	1・2後		2		○			1						隔年
	非線形・情報統計力学特論	1・2通年		2		○								兼1	集中・隔年
	高エネルギー物理学A	1・2前		2		○			1						
	高エネルギー物理学B	1・2後		2		○			1						
	高エネルギー原子核実験物理学	1・2前		2		○						1			
	高エネルギー物理学セミナーA	1後		2				○	2						
	高エネルギー物理学セミナーB	2前		2				○	1			1			
	高エネルギー物理学特論A	1・2通年		2		○								兼1	集中・隔年
	高エネルギー物理学特論B	1・2通年		2		○								兼1	集中・隔年
	原子核物理学特論	1・2前		2		○				1					
	原子核理論セミナー	1・2後		2				○		1					
	原子核反応論セミナー	1・2前		2				○	1						
	中間子物理学	1・2後		2		○			1						
	ハドロン物理学特論	1・2通年		2		○								兼1	集中・隔年
	場の量子論A	1・2前		2		○				1					
	場の量子論B	1・2後		2		○						1			
	素粒子論セミナーA	1・2前		2				○		1		1			
	素粒子論セミナーB	1・2後		2				○		1		1			
	素粒子物理学特論	1・2通年		2		○								兼1	集中・隔年
宇宙物理学A	1・2後		2		○			1							
宇宙物理学B	1・2前		2		○				1						
宇宙物理学セミナーA	1・2前		2				○	1							
宇宙物理学セミナーB	1・2後		2				○		1						

専門群	物理学コース	宇宙物理学特論	1・2通年	2		○								兼1	集中・隔年	
		統計力学基礎特論	1・2後	2		○			1							
		非平衡ダイナミクスセミナーA	1・2前	2				○		2						隔年
		非平衡ダイナミクスセミナーB	1・2前	2				○		2						隔年
		非平衡ダイナミクス特論	1・2通年	2			○								兼1	集中・隔年
		物性基礎論A	1・2前	2			○		1							隔年
		物性基礎論B	1・2後	2			○		1							隔年
		量子多体物理学A	1・2前	2			○			1						隔年
		量子多体物理学B	1・2後	2			○			1						隔年
		固体電子論特論	1・2通年	2			○								兼1	集中・隔年
		金属電子論	1・2前	2			○			1						
		金属電子論セミナー	1・2後	2						1						
		磁性物理学A	1・2前	2			○			1						
		磁性物理学B	1・2後	2			○			1						
		固体物理学特論	1・2通年	2			○								兼1	集中・隔年
		放射線物性	1・2前	2			○			1						
		放射線物理学セミナーA	1・2前	2						1						
		放射線実験学	1・2後	2						1						
		放射線物理学セミナーB	1・2後	2							1					
		放射線物理学特論	1・2通年	2			○								兼1	集中・隔年
		現代物理の基礎A	1前	1			○			2						
現代物理の基礎B	1前	1			○			1	1							
現代物理の基礎C	2前	1			○				1							
現代物理の基礎D	2前	1			○			1								
小計 (50科目)	—	0	96	0	—	—	—	7	10	0	2	0	兼10	—		
専門群	数物連携コース	計算代数	1・2後	2		○								兼1	隔年	
		双曲幾何学特論	1・2後	2		○			1						隔年	
		線形代数統論	1・2前	2			○			1					隔年	
		位相的データ解析	1・2後	2			○			1					隔年	
		数論的多様体上の解析学	1・2後	2			○								兼1	隔年
		熱と波動の数学	1・2前	2			○			1					隔年	
		自然現象と確率解析	1・2前	2			○					1			隔年	
		現象の幾何	1・2前	2			○			1					隔年	
		量子多体系の数理	1・2後	2			○				1				隔年	
		量子多体系の数理セミナー	1・2後	2							1				隔年	
		相転移現象の数理	1・2前	2			○			1					隔年	
		相転移現象の数理セミナー	1・2前	2						1					隔年	
		パターン形成の数理	1・2後	2			○				1					
		量子伝導理論A	1・2前	2			○			1					隔年	
		量子伝導理論B	1・2後	2			○			1					隔年	
		凝縮系の場の理論A	1・2前	2			○				1				隔年	
		凝縮系の場の理論B	1・2後	2			○				1				隔年	
		数物特別セミナーA	1・2前	1							2		2		集中・隔年	
		数物特別セミナーB	1・2後	1							2		2		集中・隔年	
		数物特別セミナーC	1・2前	1							2		2		集中・隔年	
		数物特別セミナーD	1・2後	1							2		2		集中・隔年	
小計 (21科目)	—	0	38	0	—	—	—	6	6	0	3	0	兼2	—		
論文等作成群	数学コース	数学特別研究Ⅰ	1前	4				○		6	3		3		兼1	
		数学特別研究Ⅱ	1後	4				○		6	3		3		兼1	
		数学特別研究Ⅲ	2前	4				○		6	3		3		兼1	
		数学特別研究Ⅳ	2後	4				○		6	3		3		兼1	
		小計 (4科目)	—	16	0	0	—	—	—	6	3	0	3	0	兼1	
	物理学コース	物理学特別研究Ⅰ	1前	4				○		7	10		2			
物理学特別研究Ⅱ	1後	4				○		7	10		2					
物理学特別研究Ⅲ	2前	4				○		7	10		2					
物理学特別研究Ⅳ	2後	4				○		7	10		2					
小計 (4科目)	—	16	0	0	—	—	—	7	10	0	2	0	0	—		

論文等作成群	数物特別研究Ⅰ	1前	4				○		5	3				兼1	
	数物特別研究Ⅱ	1後	4				○		5	3				兼1	
	数物特別研究Ⅲ	2前	4				○		5	3				兼1	
	数物特別研究Ⅳ	2後	4				○		5	3				兼1	
	小計（4科目）	—	16	0	0		—		5	3	0	0	0	兼1	—
実践群	双方向型インターン実習A	1・2通		2			○							兼1	隔年
	双方向型インターン実習B	1・2通		2			○							兼1	隔年
	プロジェクト企画運営実習Ⅰ	1・2前		1			○				1			兼1	
	プロジェクト企画運営実習Ⅱ	1・2前		1			○				1			兼1	
	小計（4科目）	—	0	6	0		—			0	0	1	0	兼1	—
合計（108科目）		—	48	179	0		—		13	13	0	5	0	兼11	—

学位又は称号	修士(理学) 修士(学術)	学位又は学科の分野	理学関係
--------	------------------	-----------	------

設置の趣旨・必要性

I 設置の趣旨・必要性

(背景)

社会の急速なグローバル化や価値観の多様化が進む現代において、既存の知識の枠を超えて自然・社会現象に対応するには、広い視野や多様な価値観への理解力に基づいて課題を解決する能力を備えた人材が不可欠である。こうした変化に対応できる人材は、一つの専門や既存の知識の枠を越えて解を見いだす能力を備えていなければならない。さらに、インターネット等の情報通信技術が発達しグローバル化が進んだ現在、これからの社会が求める人材は高い水準の専門知識とともに、それを生かすコミュニケーション能力や、世界の人たちと価値観を共有し、周囲と協力しつつ課題の解決に取り組める能力を備えていることが必要である。また、我が国では理系分野における女性の社会進出は未だ不十分であり、今後社会に変革をもたらすような科学、技術面での革新を実現する上で、理系女性人材の育成が果たす役割は、極めて大きいと考えられる。

(本学に設置する必要性)

こうした状況のもと、本学理学部では平成26年に学士課程の教育研究組織を見直し、それまで独立していた数学、物理学の2つの学科を一つに融合して、数物科学科とし、その中で数学と物理学が融合・連携して教育・研究を行う体制を確立した。数学と物理学は自然科学の根幹を支える学問であり、社会が大きく変化している時代にこそ、数学と物理学の高度な専門知識とその精神を備えた人材は、企業や研究者、教育機関等社会のさまざまな場で必要である。今回の大学院改組では、この学部改組の精神を継承し、大学院博士前期課程においても、数学と物理学が融合した数物科学専攻を設置し、学部の改組で目指した教育の融合と研究分野間の連携を高度なレベルで実現することを目指している。

本学の博士前期課程に在学する学生数は、数学の分野で全国立大学の理系専攻に在籍する女子学生数の約20%、物理学の分野で約10%を占めており（学校基本調査（平成22年度～27年度）に基づく）、本研究科博士前期課程は日本における高度な理系分野の専門知識を備えた女性人材育成に大きな役割を果たし、教育界や産業界に貢献してきた。しかし、現在の博士前期課程の構成は、大幅な改組を実施した学部の体系と大きく異なっている。今回の大学院改組では、この博士前期課程の二つの専攻を「数物科学専攻」に改組・統合し、学部レベルで目指した連携・融合を大学院レベルでもより高いレベルで実現する。この専攻は、数学専攻と物理学専攻および情報科学専攻の一部の教員から構成し、専攻内に学部と同様に3つの履修コース、数学コース、物理学コース、数物連携コースを設置する。

さらに、既存の教育プログラムを革新し、（1）専門的な知識の深化、と共に、（2）高い国際性を有し幅広い分野の課題に対して自ら考え、最善の方法を見いだすことのできる高度な判断能力を開発する工夫、（3）優秀な学生が早期により高度な学問に触れることを可能にする大学院科目の先取り履修制度の導入、（4）グローバル化や産業界との協力を推進するために海外留学やインターンを取りやすくするための教育プログラムの工夫を取り入れる。

II 教育課程編成の考え方・特色

(教育課程の基本的な考え方)

本専攻では、数学と物理学の学問領域が連携した教育を推進することにより、視野を広げるとともに多様な方法論等を身につけ、それらをさまざまな自然現象および社会現象に応用することで、知識基盤社会に適應できる専門能力、新たな課題を発見し、問題を解決する能力を涵養する。具体的な本専攻の教育課程の基本方針は次のとおりである。

- (1) 専攻に3つの履修コース：数学コース、物理学コース、数物連携コースを設置し、コース独自授業科目、他コースの授業科目、専攻共通科目である大学院教養科目を有機的に連携させる。
- (2) 数学、或いは物理学の専門的知識と思考方法を培う教育を行うとともに、大学院教養科目群を設置し、各自の専門外の分野についても、その発展の歴史、背景等も含めた一定レベルの基礎知識を広く学べる授業を開講する。また、研究倫理についての理解を深めるため、研究倫理科目を開講する。
- (3) 数学と物理学の連携により、学生が主体的に本学や他大学の教員と交渉し、聞きたい講義を準備する科目を新規開講する。
- (4) 社会のグローバル化に対応するため、各コースで開講する論文等作成群に属する科目の編成を調整することにより、短期留学、サマースクール等による在外期間を持つ学生についても所定期間内における修了を可能にする。
- (5) 数学と理科の中学・高校の専修免許の取得に必要な授業を開講する。

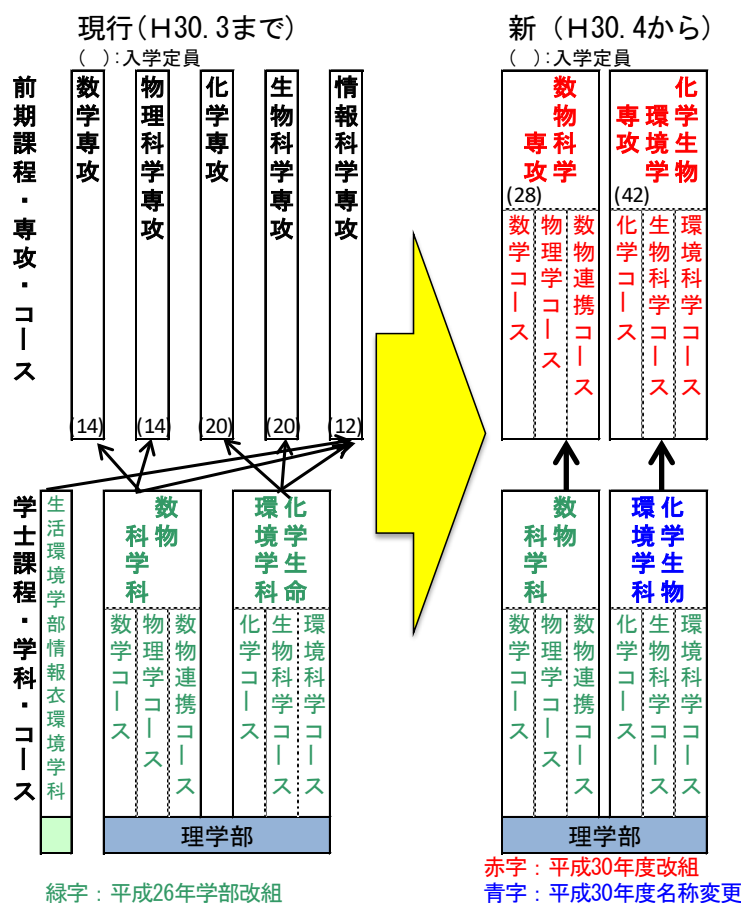
(教育課程の特色)

上記方針による教育課程には次のような特色が挙げられる。

- (1) 数学の専門知識に加えて物理学の方法論を身につけて研究を進める数学コース、物理学の専門知識に加えて数学の方法論を身につけて研究を進める物理学コース、いかに数学と物理学が連携しているかを深く学ぶことで研究を進める数物連携コースを配置し、多様な分野とそれらの方法論の同一相異を意識しながら研究を進めることができる。
- (2) 各コース独自の授業科目とともに、大学院教養科目「現代数物概論A、B、C」を開講し、数学・物理学の各専門分野について、その入門的内容から最先端にも触れさせることで、数学・物理学の様々な分野について広い知見を得ることができる。
- (3) 研究倫理に関する見識を持たせる研究倫理科目を開講する。
- (4) 数学と物理学の連携により、物理学のみならず、物理学に深く関連する数学の話題をセミナー形式で紹介する学生企画型授業科目「数物特別セミナーA、B、C、D」を開講し、学生が主体的に学べる場を提供する。
- (5) 短期間の海外留学やサマースクールへの参加を奨励するために、「特別研究」の開講時期を柔軟にし、比較的まとまった時間を海外短期留学やサマースクール、学外での研究活動に充てることのできる(履修モデル④を参照)。
- (6) 学部学生と大学院生との交流や相互啓発を促進し、大学院博士前期課程での研究力を向上させるため、科目等履修生制度を利用した、学部学生による大学院科目の先取り履修を可能とする6年一貫教育プログラムを設ける。

学位の授与において、付記する専攻分野の名称は「理学」と「学術」のいずれかとする。学位の名称は学位論文の内容に基づいて以下の基準により決定する。すなわち、学位論文が理学に関連した専門分野の内容が主である場合には修士(理学)の学位を授与し、複合的・学際的な内容が多く含まれていたり学際領域の分野に該当したりする場合には、修士(学術)を授与するものとする。

奈良女子大学の大学院改組構想 理学部を基盤とした専攻



数物科学専攻履修モデル

①大学で数学を学んだ学生を想定

学位	修士（理学）			
概要	自然科学（特に物理学）の知識を背景としながらもそれにこだわることなく、諸現象に内包される数学的問題を発掘し、それらを合理的に解決できる数学的能力を習得させる。修了後は官公庁・教育機関、システム開発等でリーダーとしての役割を果たせる人材の育成を目指す。			
科目群	1年次		2年次	
	科目名	単位数	科目名	単位数
教養科目群	現代数物概論A	2		
	現代数物概論B	2		
専門群	関数方程式	2	熱と波動の数学	2
	対称性の数学	2	代数概論	2
	3次元トポロジー	2	数学特別セミナーⅢ	2
	確率論	2		
	関数解析	2		
	解析と数論	2		
	位相と多様体論	2		
	計算代数	2		
	数学特別セミナーⅠ	2		
数学特別セミナーⅡ	2			
論文等作成群	数学特別研究Ⅰ	4	数学特別研究Ⅲ	4
	数学特別研究Ⅱ	4	数学特別研究Ⅳ	4
合計		32		14

②大学で物理学を学んだ学生を想定

学位	修士（理学）			
概要	極微の世界から宇宙にまでわたる様々な自然現象を理解するための知識と物理的思考法を活用し体系的な物理の基礎教育に基づいた物理の専門教育と研究、及び数学、物理学、情報科学が連携した教育と研究を通じて、現代の高度に進化した科学技術の多様な分野に関わる能力を習得させる。修了後は官公庁・教育機関、電機・情報メーカーの研究開発などでリーダーとしての役割を果たせる人材の育成を目指す。			
科目群	1年次		2年次	
	科目名	単位数	科目名	単位数
教養科目群	数物科学における研究倫理	1	現代数物概論C	2
	現代数物概論A	2		
専門群	場の量子論A	2	素粒子論セミナーB	2
	場の量子論B	2	現代物理の基礎C	1
	素粒子論セミナーA	2	現代物理の基礎D	1
	現代物理の基礎A	1	素粒子物理学特論	2
	現代物理の基礎B	1	数物特別セミナーC	1
	数物特別セミナーA	1	数物特別セミナーD	1
	数物特別セミナーB	1		
論文等作成群	物理学特別研究Ⅰ	4	物理学特別研究Ⅲ	4
	物理学特別研究Ⅱ	4	物理学特別研究Ⅳ	4
合計		21		18

③大学で数学又は物理学を学びその両者に関わる学問を学ぶ学生を想定

学位	修士（理学）			
概要	数学と物理の教員が連携した高度な「数学」、「物理学」及び「情報科学」による教育と研究指導により、新しい産業構造にも対応できるような、数学と物理学および情報科学のバランスのとれた理解力を習得させる。修了後は官公庁・教育機関、インターネット社会に次々に生まれるツールと物理的機器を繋ぐシステム開発者等の人材の育成を目指す。			
科目群	1年次		2年次	
	科目名	単位数	科目名	単位数
教養科目群	数物科学における研究倫理	1	現代数物概論C	2
	現代数物概論B	2		
専門群	物性基礎論A	2	量子伝導理論A	2
	物性基礎論B	2	量子伝導理論B	2
	凝縮系の場の理論A	2	量子多体物理学A	2
	凝縮系の場の理論B	2	量子多体物理学B	2
	現代物理の基礎A	1	現代物理の基礎C	1
	現代物理の基礎B	1	現代物理の基礎D	1
	数物特別セミナーA	1	数物特別セミナーC	1
数物特別セミナーB	1	数物特別セミナーD	1	
論文等作成群	物理学特別研究I	4	物理学特別研究III	4
	物理学特別研究II	4	物理学特別研究IV	4
合計	23		22	

④大学で数学を学び、修士1年の後期に留学する学生を想定

学位	修士（理学）			
概要	数学と物理の教員が連携した高度な「数学」、「物理学」及び「情報科学」による教育と研究指導により、新しい産業構造にも対応できるような、数学と物理学および情報科学のバランスのとれた理解力を習得させる。修了後は官公庁・教育機関、インターネット社会に次々に生まれるツールと物理的機器を繋ぐシステム開発者等の人材の育成を目指す。			
科目群	1年次		2年次	
	科目名	単位数	科目名	単位数
教養科目群	現代数物概論A	2	現代数物概論C	2
専門群	熱と波動の数学	2	対称性の数学	2
	現象の幾何	2	幾何学的群論	2
	3次元トポロジー	2	線形代数続論	2
	自然現象と確率解析	2	双曲幾何学特論	2
	位相と多様体論	2	数論的多様体上の解析学	2
	数学特別セミナーI	2	数学特別セミナーIII	2
論文等作成群	数物特別研究I	4	数物特別研究II	4
			数物特別研究III	4
			数物特別研究IV	4
合計	18		26	

卒業要件及び履修方法

授業期間等

論文等作成群のうち各コースが開講する特別研究4科目16単位、教養科目群から2単位以上、さらに、専門群から12単位以上、合計30単位以上取得し、必要な研究指導を受けた上で修士論文の審査及び最終試験に合格することが修了要件となる。

1 学年の学期区分	2 学期
1 学期の授業期間	1 5 週
1 時限の授業時間	9 0 分

教育課程等の概要(事前伺い)

既設(大学院人間文化研究科博士前期課程 数学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門群	幾何構造論	1・2前		2		○									兼1
	有限代数学	1・2前		2		○									兼1
	複素構造論	1・2前		2		○									兼1
	位相数学	1・2後		2		○			1						
	算術構造論	1・2前		2		○									兼1
	基礎代数学	1・2後		2		○									兼1
	解析と数論	1・2後		2		○				1					
	多様体論	1・2後		2		○				1					
	低次元位相幾何学	1・2後		2		○							1		
	3次元トポロジー	1・2前		2		○							1		
	確率過程論	1・2後		2		○									兼1
	微分方程式	1・2前		2		○									兼1
	対称性の数学	1・2前		2		○			1						
	体とガロア理論	1・2前		2		○				1					
	表現論と数理論	1・2前		2		○									兼1
	解析学特論	1・2後		2		○									兼1
	関数方程式	1・2前		2		○			1						
	関数解析	1・2後		2		○			1						
	確率論	1・2前		2		○			1						
	確率微分方程式	1・2後		2		○							1		
	現代数学概論	1・2前		2		○			5	3			3		兼1
	数学特論Ⅰ	1・2通		2		○									兼1
	数学特論Ⅱ	1・2通		2		○									兼1
数学特論Ⅲ	1・2通		2		○									兼1	
数学特論Ⅳ	1・2通		2		○									兼1	
数学特論Ⅴ	1・2通		2		○									兼1	
数学特論Ⅵ	1・2通		2		○									兼1	
数学特論Ⅶ	1・2通		2		○									兼1	
数学特別セミナーⅠ	1前		2			○		5	3			3		兼1	
数学特別セミナーⅡ	1後		2			○		5	3			3		兼1	
数学特別セミナーⅢ	2前		2			○		5	3			3		兼1	
小計(31科目)		—	0	62	0			—	5	3	0	3	0	兼12	—
論文等作成群	数学特別研究Ⅰ	1前	4				○		5	3		3		兼1	
	数学特別研究Ⅱ	1後	4				○		5	3		3		兼1	
	数学特別研究Ⅲ	2前	4				○		5	3		3		兼1	
	数学特別研究Ⅳ	2後	4				○		5	3		3		兼1	
	小計(4科目)		—	16	0	0			—	5	3	0	3	0	兼1
キャリア形成群	科学英語プレゼンテーションⅠ	1・2通		1			○		1					兼1	
	科学英語プレゼンテーションⅡ	1・2通		1			○		1					兼1	
	女性先端科学者セミナーⅠ	1・2通		1			○		1					兼1	
	女性先端科学者セミナーⅡ	1・2通		1			○		1					兼1	
	小計(4科目)		—	0	4	0			—	4	0	0	0	0	兼1

実践群	双方向型インターン実習Ⅰ	1・2通		2				○						兼1	
	双方向型インターン実習Ⅱ	1・2通		2				○						兼1	
	グループワーク演習Ⅰ	1・2通		2			○							兼1	
	グループワーク演習Ⅱ	1・2通		2			○							兼1	
	プロジェクト企画運営実習Ⅰ	1・2前		1				○			1			兼1	
	プロジェクト企画運営実習Ⅱ	1・2前		1				○			1			兼1	
小計(6科目)		—	0	10	0	—			0	0	0	1	0	兼1	—
合計(45科目)		—	16	76	0	—			5	3	0	3	0	兼12	—
学位又は称号	修士(理学) 修士(学術)	学位又は学科の分野				理学関係									

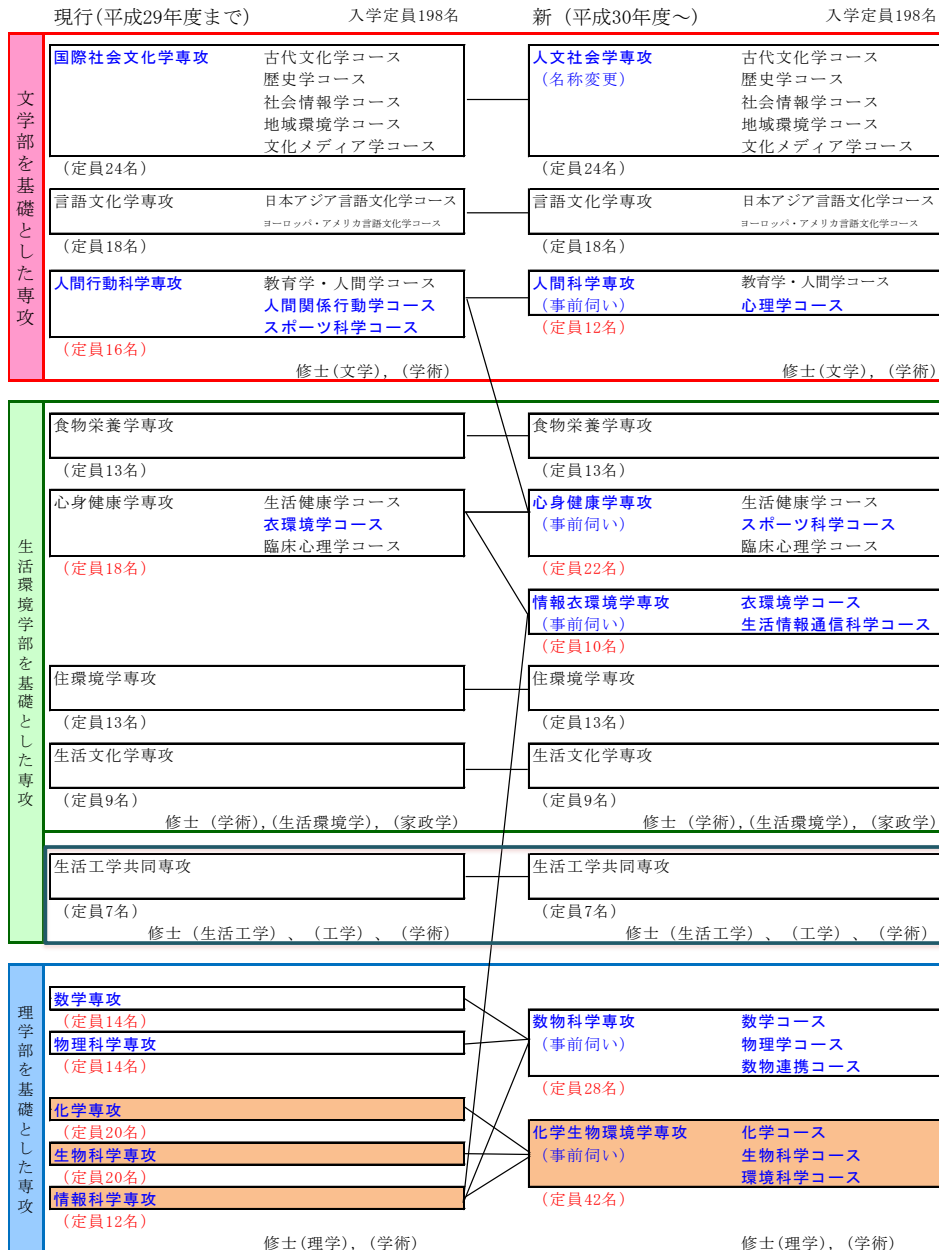
設置計画の概要

事項	記 入 欄
事前相談事項	事前伺い
計画の区分	研究科の専攻の設置
フリガナ 設置者	コクリツダイガクホクシン ナラジョンドイガク 国立大学法人 奈良女子大学
フリガナ 大学の名称	ナラジョンドイガクダイガクイン 奈良女子大学大学院 (Graduate School, Nara Women's University)
新設学部等において 養成する人材像	<p>【人間文化研究科博士前期課程 化学生物環境学専攻】</p> <p>① 養成する人材像 化学、生物学、環境科学の専門的素養に加えて、幅広い分野で活躍できる研究者や高度専門職業人としての素養を身につけ、十分なコミュニケーション能力を有してグローバルな活躍ができる人材を育成する。</p> <p>② 習得させる能力等 化学、生物学、環境科学の基礎知識とそれぞれの所属する研究分野における高度な専門的知識に支えられた課題分析・解決能力、グローバル社会に対応できる情報収集・分析・発信能力、コミュニケーション能力および研究者や高度専門職業人として健全な倫理観の基盤となる広い知識を身につけさせる。</p> <p>③ 修了後の進路等 製造業を中心とする企業(化学、繊維、医薬品、食品、自動車、電機、電子)、資源・エネルギー、システム設計、通信、IT関連、リモートセンシング、環境コンサルタント、報道・出版関連企業、公務員や公的研究機関の職員、理科の専修免許状を取得した中学校や高等学校の教員と博士後期課程への進学が期待される。</p>
既設学部等において 養成する人材像	<p>【人間文化研究科博士前期課程 化学専攻】</p> <p>① 養成する人材像 化学の基礎知識とそれを柔軟に使いこなす応用力を身につけ、現代化学の創造に参画し、学術分野および企業でリーダーシップを発揮できる専門家、高度な知識と技能を生かし社会でリーダーシップを発揮できる職業人、国際的に活躍できる人材を育成する。</p> <p>② 習得させる能力等 化学の研究活動と大学院授業カリキュラムを通じて、化学分野の専門的な知識、科学技術分野で適用可能な研究の方法論、実社会で役立つ柔軟な思考力や問題解決能力を修得させる。</p> <p>③ 修了後の進路等 化学・電気・自動車・繊維・情報などの分野の企業、中学・高校の理科教員等に就職している。</p> <p>【人間文化研究科博士前期課程 生物科学専攻】</p> <p>① 養成する人材像 分子・細胞から個体・集団までの幅広い生物科学を中心とする教育と研究を通じて、自然科学に関する正しい知識と論理的思考能力、高いコミュニケーション能力をもち、社会の健全な発展に主体的に関わることのできる、高度な専門性と広範な応用能力を備えた人材を育成する。</p> <p>② 習得させる能力等 生物科学を中心とした自然科学の幅広い分野にわたる正確な知識を基に論理的・創造的に思考する能力、さまざまな問題を自ら発見しその解決に取り組むことができる主体性と実践力、科学的な知識や思考能力を社会の中で役立てるために必要なコミュニケーション能力を修得させる。</p> <p>③ 修了後の進路等 公務員、学術・教育関係職、薬品・食品・農林水産・環境関係企業等に就職している。</p> <p>【人間文化研究科博士前期課程 情報科学専攻】</p> <p>① 養成する人材像 幅広い自然科学の素養に加えて、時代の要請に応えた情報科学の高度専門知識を有し、様々な分野で活躍できる人材を育成する。</p> <p>② 習得させる能力等 コンピュータサイエンスに関する基礎知識として、ネットワーク、言語処理、数式処理を、応用知識としてニューラルネット、画像認識と様々な人工知能関連分野の知識を習得する。またこれらの情報通信処理能力を活用して、数学、物理、化学や生物学といった従来の細分化された枠組みを越えた学際的な観点から自然科学研究を展開できる能力を習得させる。</p> <p>③ 修了後の進路等 コンピュータ及び情報通信に関わる企業、電子機器・製造関連企業、地理情報システム(GIS)及びリモートセンシング関連企業、高等学校教員(情報専修免許)、公務員等があげられる。</p>
新設学部等において 取得可能な資格	<p>【人間文化研究科博士前期課程 化学生物環境学専攻】</p> <p>・ 中学校・高等学校教諭専修免許状(理科)</p> <p>① 国家資格、② 資格取得可能 ③ 修了要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要。</p>
既設学部等において 取得可能な資格	<p>【人間文化研究科博士前期課程 化学専攻】</p> <p>・ 中学校・高等学校教諭専修免許状(理科)</p> <p>① 国家資格、② 資格取得可能 ③ 修了要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要。</p> <p>【人間文化研究科博士前期課程 生物科学専攻】</p> <p>・ 中学校・高等学校教諭専修免許状(理科)</p> <p>① 国家資格、② 資格取得可能 ③ 修了要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要。</p> <p>【人間文化研究科博士前期課程 情報科学専攻】</p> <p>・ 中学校・高等学校教諭専修免許状(数学)</p> <p>① 国家資格、② 資格取得可能 ③ 修了要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要。</p> <p>・ 高等学校教諭専修免許状(情報)</p> <p>① 国家資格、② 資格取得可能 ③ 修了要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要。</p>

新設学部等の概要	新設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動元		助教以上
	人間文化研究科 博士前期課程 (Graduate School of Humanities and Sciences) (Master's Course)	化学生物環境学専攻 [Department of Chemistry, Biology, and Environmental Science]	2	42	-	84	修士(理学)(学術)	理学関係	平成30年4月	化学専攻	16	8
									生物科学専攻	18	8	
									情報科学専攻	7	3	
									計	41	19	
既設学部等の概要	既設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動先		助教以上
	人間文化研究科 博士前期課程	化学専攻(廃止)	2	20	-	40	修士(理学)(学術)	理学関係	平成10年4月	化学生物環境学専攻	16	8
									退職	2		
									計	18	8	
	生物科学専攻(廃止)	2	20	-	40	修士(理学)(学術)	理学関係	平成10年4月	化学生物環境学専攻	18	8	
									計	18	8	
	情報科学専攻(廃止)	2	12	-	24	修士(理学)(学術)	理学関係	平成10年4月	化学生物環境学専攻	7	3	
									情報衣環境学専攻	4	1	
									数物科学専攻	1	1	
									退職	1	1	
									計	13	6	

【備考欄】

大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施
(参考)大学院人間文化研究科(博士前期課程) 平成30年度改組の全体構想



教育課程等の概要(事前伺い)

既設(大学院人間文化研究科博士前期課程 物理科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門群	非線形・情報統計力学セミナーⅠ	1・2前		2				○			1					隔年
	非線形・情報統計力学セミナーⅡ	1・2後		2				○		1						隔年
	プラズマ物理学特論	1・2後		2			○				1					隔年
	プラズマ物理学セミナー	1・2後		2				○			1					
	非線形・情報統計力学特論Ⅰ	1・2通		2			○									兼1
	非線形・情報統計力学特論Ⅱ	1・2通		2			○									兼1
	高エネルギー物理学Ⅰ	1・2前		2			○			1						
	高エネルギー物理学セミナーⅠ	1・2前		2				○		2						
	高エネルギー物理学Ⅱ	1・2後		2			○			1						
	高エネルギー物理学セミナーⅡ	1・2後		2				○		1			1			
	高エネルギー原子核実験物理学	1・2前		2			○						1	1		
	高エネルギー原子核実験セミナー	1・2後		2				○					1	1		
	高エネルギー物理学特論Ⅰ	1・2通		2			○									兼1 集中・隔年
	高エネルギー物理学特論Ⅱ	1・2通		2			○									兼1 集中・隔年
	原子核物理学特論	1・2前		2			○				1					
	原子核理論セミナー	1・2後		2				○			1					
	原子核反応論セミナー	1・2前		2				○		1						
	中間子物理学	1・2後		2			○			1						
	原子核理論特論Ⅰ	1・2通		2			○									兼1
	原子核理論特論Ⅱ	1・2通		2			○									兼1
	場の量子論Ⅰ	1・2前		2			○				1					
	場の量子論Ⅱ	1・2後		2			○						1			
	素粒子論セミナー	1・2後		2				○			1			1		
	素粒子物理学特論Ⅰ	1・2通		2			○									兼1 集中・隔年
	素粒子物理学特論Ⅱ	1・2通		2			○									兼1 集中・隔年
	X線天文学	1・2前		2			○			1						
	X線天文学セミナー	1・2後		2				○		1						
	宇宙物理学特論Ⅰ	1・2通		2			○									兼1 集中・隔年
	宇宙物理学特論Ⅱ	1・2通		2			○									兼1 集中・隔年
	銀河団宇宙物理学	1・2前		2			○				1					
	銀河団宇宙物理学セミナー	1・2後		2				○			1					
	非線形動力学特論Ⅰ	1・2前		2			○			1						
	非線形動力学特論Ⅱ	1・2後		2			○			1						
	非平衡ダイナミクスセミナーⅠ	1・2前		2				○			2					隔年
	統計力学基礎特論	1・2後		2			○				1					
	非平衡ダイナミクスセミナーⅡ	1・2前		2				○			2					隔年
	非平衡ダイナミクスセミナーⅢ	1・2後		2				○			2					隔年
	非平衡ダイナミクス特論Ⅰ	1・2通		2			○									兼1 集中・隔年
	非平衡ダイナミクス特論Ⅱ	1・2通		2			○									兼1 集中・隔年
	物性基礎論Ⅰ	1・2前		2			○			1						隔年
	物性基礎論Ⅱ	1・2後		2			○			1						隔年
	極微細系の量子伝導理論	1・2前		2			○				1					
メゾスコピック系物理学セミナー	1・2後		2				○			1						
固体電子論特論Ⅰ	1・2通		2			○									兼1 集中・隔年	
固体電子論特論Ⅱ	1・2通		2			○									兼1 集中・隔年	
金属電子論	1・2前		2			○				1						
金属電子論セミナー	1・2後		2				○			1						
磁性物理学Ⅰ	1・2前		2			○				1						
磁性物理学Ⅱ	1・2後		2			○				1						

専門群	固体物理学特論Ⅰ	1・2通	2		○								兼1	集中・隔年
	固体物理学特論Ⅱ	1・2通	2		○								兼1	集中・隔年
	放射線物性	1・2前	2		○				1					
	放射線物理学セミナーⅠ	1・2後	2			○			1					
	放射線実験学	1・2前	2			○			1					
	放射線物理学セミナーⅡ	1・2後	2				○			1				
	放射線物理学特論Ⅰ	1・2通	2			○							兼1	集中・隔年
	放射線物理学特論Ⅱ	1・2通	2			○							兼1	集中・隔年
	物理学特別セミナーⅠ	1・2前	2				○		7	10		2		集中
	物理学特別セミナーⅡ	1・2後	2				○		7	10		2		集中
	物質情報論	1・2後	2			○			2	2				
	物質環境学総論	1・2後	2			○			3	1				
	物質構造総論	1・2前	2			○			2	3				
小計(62科目)	—	0	124	0	—			7	10	0	2	0	兼9	—
論文等作成群	物理学特別研究Ⅰ	1前	4			○		7	10		2			
	物理学特別研究Ⅱ	1後	4			○		7	10		2			
	物理学特別研究Ⅲ	2前	4			○		7	10		2			
	物理学特別研究Ⅳ	2後	4			○		7	10		2			
	物理学特別研究Ⅴ	1・2前	4			○		7	10		2			
	物理学特別研究Ⅵ	1・2後	4			○		7	10		2			
小計(6科目)	—	0	24	0	—		7	10	0	2	0	0	—	
キャリア形成群	科学英語プレゼンテーションⅠ	1・2通	1			○		1					兼1	
	科学英語プレゼンテーションⅡ	1・2通	1			○		1					兼1	
	女性先端科学者セミナーⅠ	1・2通	1			○		1					兼1	
	女性先端科学者セミナーⅡ	1・2通	1			○		1					兼1	
	小計(4科目)	—	0	4	0	—		4	0	0	0	0	兼1	—
実践群	双方向型インターン実習Ⅰ	1・2通	2				○						兼1	
	双方向型インターン実習Ⅱ	1・2通	2				○						兼1	
	グループワーク演習Ⅰ	1・2通	2			○							兼1	
	グループワーク演習Ⅱ	1・2通	2			○							兼1	
	プロジェクト企画運営実習Ⅰ	1・2前	1				○						兼2	
	プロジェクト企画運営実習Ⅱ	1・2後	1				○						兼2	
小計(6科目)	—	0	10	0	—		0	0	0	0	0	兼2	—	
合計(78科目)		—	0	162	0	—		7	10	0	2	0	兼11	—
学位又は称号	修士(理学) 修士(学術)		学位又は学科の分野			理学関係								

教育課程等の概要(事前伺い)

既設(大学院人間文化研究科博士前期課程 情報科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門群	情報処理論	1・2後		2		○			1						
	アルゴリズム特論	1・2前		2		○				1					
	グラフ理論特論	1・2前		2		○			1						
	グラフ理論特論演習	1・2後		2			○		1						
	画像処理論	1・2前		2		○									兼1
	計算機視覚特論	1・2後		2		○									兼1
	並列計算システム特論	1・2前		2		○			1						
	並列計算システム特論演習	1・2後		2			○		1						
	人工知能特論	1・2前		2		○				1					
	人工知能特論演習	1・2後		2			○				1				
	力学系特論	1・2前		2		○			1						
	力学系特論演習	1・2後		2			○		1						
	論理プログラミング特論	1・2前		2		○				1					
	論理プログラミング特論演習	1・2後		2			○				1				
	自然変動論	1・2前		2		○			1						
	自然変動論演習	1・2後		2			○		1						
	リモートセンシング特論Ⅰ	1・2前		2		○				1					
	リモートセンシング特論Ⅱ	1・2前		2		○						1			
	リモートセンシング特論演習Ⅰ	1・2後		2			○				1				
	リモートセンシング特論演習Ⅱ	1・2後		2			○					1			
	数理モデリング特論	1・2前		2		○				1					
	数理モデリング特論演習	1・2後		2			○				1				
	生態情報学特論	1・2前		2		○			1						
	生態情報学特論演習	1・2後		2			○		1						
	大域情報学特論	1・2前		2		○						1			集中
	大域情報学特論演習	1・2後		2			○					1			
	地球環境情報特論	1・2前		2		○			1						
	ネットワーク特論	1・2前		2		○					1				集中
	ネットワーク特論演習	1・2後		2			○					1			集中
	データベース特論	1・2前		2		○			1						集中
	計算機システム特論	1・2後		2		○				1					
	情報科学特別セミナーⅠ	1・2通		2			○								兼1 集中
	情報科学特別セミナーⅡ	1・2通		2			○								兼1 集中
	情報科学特別セミナーⅢ	1・2通		2			○								兼3 集中
	情報科学特別セミナーⅣ	1・2前		2			○								兼1 集中
	情報システム特論	1・2前		2		○			1						
	数式処理論	1・2前		2		○			1						
	画像認識論	1・2前		2		○									兼1
	形状認識論	1・2後		2		○									兼1
	並列処理システム特論	1・2前		2		○			1						集中
	並列処理システム特論演習	1・2後		2			○		1						集中
	知識処理論	1・2前		2		○				1					集中
知識処理論演習	1・2後		2			○				1				集中	
陸域画像処理論	1・2前		2		○			1						集中	
陸域画像処理論演習	1・2後		2			○		1						集中	
生命現象シミュレーション特論	1・2前		2		○				1					集中	
生命現象シミュレーション特論演習	1・2後		2			○				1				集中	
地球環境遠隔計測特論Ⅰ	1・2前		2		○				1					集中	
惑星大気計測データ処理論	1・2前		2		○						1			集中	
地球環境遠隔計測特論演習Ⅰ	1・2後		2			○					1			集中	

専門群	惑星大気計測データ処理特論演習	1・2後		2			○					1			集中	
	地球環境変動シミュレーション特論	1・2後		2			○			1					集中	
	情報システムモデル論	1・2前		2			○			1					集中	
	情報システムモデル論演習	1・2後		2				○		1					集中	
	計算機通信機構論	1・2前		2			○				1				集中	
	計算機通信機構論演習	1・2後		2				○			1				集中	
小計 (56科目)		—	0	112	0	—			6	4	1	2	0	兼7	—	
論文等作成群	情報科学特別研究Ⅰ	1前	4					○		6	4	1	2			
	情報科学特別研究Ⅱ	1後	4					○		6	4	1	2			
	情報科学特別研究Ⅲ	2前	4					○		6	4	1	2			
	情報科学特別研究Ⅳ	2後	4					○		6	4	1	2			
	小計 (4科目)		—	16	0	0	—			6	4	1	2	0		—
キャリア形成群	科学英語プレゼンテーションⅠ	1・2通		1				○		1					兼1	
	科学英語プレゼンテーションⅡ	1・2通		1				○		1					兼1	
	女性先端科学者セミナーⅠ	1・2通		1				○		1					兼1	
	女性先端科学者セミナーⅡ	1・2通		1				○		1					兼1	
	小計 (4科目)		—	0	4	0	—			4	0	0	0	0	兼1	—
実践群	双方向型インターン実習Ⅰ	1・2通		2					○						兼1	
	双方向型インターン実習Ⅱ	1・2通		2					○						兼1	
	グループワーク演習Ⅰ	1・2通		2				○							兼1	
	グループワーク演習Ⅱ	1・2通		2				○							兼1	
	プロジェクト企画運営実習Ⅰ	1・2前		1					○						兼2	
	プロジェクト企画運営実習Ⅱ	1・2前		1					○						兼2	
小計 (6科目)		—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	兼2	—	
合計 (70科目)			—	16	126	0	—			6	4	1	2	0	兼9	—
学位又は称号	修士(理学) 修士(学術)		学位又は学科の分野				理学関係									

教 育 課 程 等 の 概 要

(大学院人間文化研究科博士前期課程 化学生物環境学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目群	科学の文化と倫理	1①		1			○		1							
	化学のための研究倫理	1①		1		○		1	1							
	学びをつむぐⅠ	1③④		1			○		1							兼4
	学びをつむぐⅡ	2通		1			○		1							兼4
	無機化学概論Ⅰ	1①		1		○			1							
	無機化学概論Ⅱ	1②		1		○			1							
	有機化学概論Ⅰ	1①		1		○			1							
	有機化学概論Ⅱ	1②		1		○			1							
	物理化学概論Ⅰ	1①		1		○			1							
	物理化学概論Ⅱ	1③		1		○			1							
	分子細胞生物学概論A	1①		1		○			1							
	分子細胞生物学概論B	1③		1		○			1	1						
	個体機能生物学概論A	1②		1		○			1							
	個体機能生物学概論B	1③		1		○			1							
	生態学概論A	1①		1		○			1							
	生態学概論B	1④		1		○				1						
	地球環境科学概論	1③		1		○			1	1		1				
	数理生態学概論	1①		1		○			1	1						
	地球温暖化問題概論	1③		1		○			1							
	現代環境科学論	1④		1		○							1			
小計 (20科目)		—	0	20	0		—	14	4	0	2	0	兼4	—		
専門群	溶液化学	1①		1		○			1							◎
	ソフトマター化学	1②		1		○			1							◎
	ナノ界面物性化学	2②		1		○			1							◎
	反応量子化学	2④		1		○				1						◎
	分子統計論	1④		1		○			1							
	計算分子科学	2③		1		○				1						
	有機金属化学Ⅰ	1③		1		○				1						
	有機金属化学Ⅱ	1④		1		○				1						
	有機金属クラスター化学Ⅰ	2③		1		○			1							
	有機金属クラスター化学Ⅱ	2④		1		○				1						
	分子性金属鎖の化学	1③		1		○						1				
	機能性無機錯体化学Ⅰ	2②		1		○			1							
	生物無機化学	1①		1		○			1							隔年
	生物無機実験法	1②		1		○			1							隔年
	光機能分子化学	1③		1		○				1						
	生物環境化学	1④		1		○						1				
	有機反応論	1③		1		○			1							
	分子触媒化学	1④		1		○			1							
	触媒機能化学	2①		1		○				1						
	有機構造化学	1③		1		○			1							◎
	生物有機化学Ⅰ	2②		1		○			1							◎
	生物有機化学Ⅱ	2③		1		○						1				
	機器分析法Ⅲ	1①		1		○			1							
	機器分析法Ⅳ	1②		1		○			1							
	無機化学特論A	1②		1		○										兼1 集中、隔年
	無機化学特論B	2①		1		○										兼1 集中、隔年
有機化学特論A	1③		1		○										兼2 集中、隔年	
有機化学特論B	2②		1		○										兼2 集中、隔年	
物理化学特論A	1①		1		○										兼1 集中、隔年	

専門群	化学系科目	物理化学特論B	2③	1	○							兼1	集中、隔年
		物性反応物理化学セミナーA-I	1③④	1		○		1					◎
		物性反応物理化学セミナーA-II	2③④	1		○		1					◎
		物性反応物理化学セミナーB-I	1①②	1		○			1				◎
		物性反応物理化学セミナーB-II	2①②	1		○			1				◎
		理論物理化学セミナーA-I	1①②	1		○		1					
		理論物理化学セミナーA-II	2①②	1		○		1					
		理論物理化学セミナーB-I	1③④	1		○			1				
		理論物理化学セミナーB-II	2③④	1		○			1				
		有機金属・錯体化学セミナーA-I	1①②	1		○		1					
		有機金属・錯体化学セミナーA-II	2①②	1		○		1					
		有機金属・錯体化学セミナーB-I	1③④	1		○			1				
		有機金属・錯体化学セミナーB-II	2③④	1		○			1				
		有機金属・錯体化学セミナーC-I	1③④	1		○				1			
		有機金属・錯体化学セミナーC-II	2③④	1		○				1			
		有機合成化学セミナーA-I	1①②	1		○		1					
		有機合成化学セミナーA-II	2①②	1		○		1					
		有機合成化学セミナーB-I	1③④	1		○			1				
		有機合成化学セミナーB-II	2③④	1		○			1				
		生命有機化学セミナーA-I	1①②	1		○		1					◎
		生命有機化学セミナーA-II	2①②	1		○		1					◎
		生命有機化学セミナーB-I	1③④	1		○		1					◎
		生命有機化学セミナーB-II	2③④	1		○		1					◎
		生命有機化学セミナーC-I	1①②	1		○				1			
		生命有機化学セミナーC-II	2①②	1		○				1			
		生物無機化学セミナーA-I	1③④	1		○		1					
		生物無機化学セミナーA-II	2③④	1		○		1					
		生物無機化学セミナーB-I	1①②	1		○			1				
		生物無機化学セミナーB-II	2①②	1		○			1				
		生物無機化学セミナーC-I	1①②	1		○				1			
		生物無機化学セミナーC-II	2①②	1		○				1			
		機能性材料化学セミナーA-I	1③④	1		○		1					
		機能性材料化学セミナーA-II	2③④	1		○		1					
小計 (62科目)	—	0	62	0	—	8	5	0	3	0	兼8	—	
専門群	生物科学系科目	実践生物科学英語	1③④	1		○		8	9		1		
		実践サイエンスコミュニケーション	2通	1		○		8	9		1		
		生物科学個別指導	1通	1		○		8	9		1		
		生物科学学外研修A	1①②	1		○		8	9		1		
		生物科学学外研修B	1③④	1		○		8	9		1		
		生物科学学外研修C	2①②	1		○		8	9		1		
		生物科学学外研修D	2③④	1		○		8	9		1		
		細胞分子調節学特論	1①	1		○		1					◎
		細胞機構学特論	1②	1		○		1					
		分子微生物学特論	1③	1		○			1				
		原生生物学特論	1④	1		○		1					
		分子細胞情報学特論	2①	1		○			1				
		細胞情報学特論	2②	1		○			1				
		細胞生物学特論	1①	1		○			1				
		動物生理学特論	1②	1		○		1					◎
		生殖生理学特論	1③	1		○		1					
		個体機能学特論	1④	1		○		1					
		植物生理学特論	2①	1		○		1					◎
		細胞調節学特論	2②	1		○			1				
		植物環境応答学特論	1①	1		○			1				◎
		動物環境応答学特論	1②	1		○				1			
		行動生態学特論	1③	1		○		1					◎
		陸水生態学特論	1④	1		○			1				◎
群集生態学特論	2①	1		○			1				◎		
植物生態学特論	2②	1		○			1				◎		
指定講義科目													

専門群	生物科学系科目	生物科学特論A	1・2通	1	○							兼1	集中	
		生物科学特論B	1・2通	1	○								兼1	集中
		生物科学特論C	1・2通	1	○								兼1	集中
		生物科学特論D	1・2通	1	○								兼1	集中
		細胞分子調節学演習Ⅰ	1②	1	○		1							◎
		細胞分子調節学演習Ⅱ	1④	1	○		1							◎
		細胞分子調節学演習Ⅲ	2②	1	○		1							◎
		細胞分子調節学演習Ⅳ	2④	1	○		1							◎
		細胞機構学演習Ⅰ	1①	1	○		1							
		細胞機構学演習Ⅱ	1③	1	○		1							
		細胞機構学演習Ⅲ	2①	1	○		1							
		細胞機構学演習Ⅳ	2③	1	○		1							
		分子微生物学演習Ⅰ	1②	1	○			1						
		分子微生物学演習Ⅱ	1④	1	○			1						
		分子微生物学演習Ⅲ	2②	1	○			1						
		分子微生物学演習Ⅳ	2④	1	○			1						
		原生生物学演習Ⅰ	1①	1	○		1							
		原生生物学演習Ⅱ	1③	1	○		1							
		原生生物学演習Ⅲ	2①	1	○		1							
		原生生物学演習Ⅳ	2③	1	○		1							
		分子細胞情報学演習Ⅰ	1②	1	○			1						
		分子細胞情報学演習Ⅱ	1④	1	○			1						
		分子細胞情報学演習Ⅲ	2②	1	○			1						
		分子細胞情報学演習Ⅳ	2④	1	○			1						
		細胞情報学演習Ⅰ	1①	1	○			1						
		細胞情報学演習Ⅱ	1③	1	○			1						
		細胞情報学演習Ⅲ	2①	1	○			1						
		細胞情報学演習Ⅳ	2③	1	○			1						
		細胞生物学演習Ⅰ	1②	1	○			1						
		細胞生物学演習Ⅱ	1④	1	○			1						
		細胞生物学演習Ⅲ	2②	1	○			1						
		細胞生物学演習Ⅳ	2④	1	○			1						
		動物生理学演習Ⅰ	1①	1	○		1							◎
		動物生理学演習Ⅱ	1③	1	○		1							◎
		動物生理学演習Ⅲ	2①	1	○		1							◎
		動物生理学演習Ⅳ	2③	1	○		1							◎
		生殖生理学演習Ⅰ	1②	1	○		1							
		生殖生理学演習Ⅱ	1④	1	○		1							
		生殖生理学演習Ⅲ	2②	1	○		1							
		生殖生理学演習Ⅳ	2④	1	○		1							
		個体機能学演習Ⅰ	1①	1	○		1							
		個体機能学演習Ⅱ	1③	1	○		1							
個体機能学演習Ⅲ	2①	1	○		1									
個体機能学演習Ⅳ	2③	1	○		1									
植物生理学演習Ⅰ	1②	1	○		1							◎		
植物生理学演習Ⅱ	1④	1	○		1							◎		
植物生理学演習Ⅲ	2②	1	○		1							◎		
植物生理学演習Ⅳ	2④	1	○		1							◎		
細胞調節学演習Ⅰ	1①	1	○			1								
細胞調節学演習Ⅱ	1③	1	○			1								
細胞調節学演習Ⅲ	2①	1	○			1								
細胞調節学演習Ⅳ	2③	1	○			1								
植物環境応答学演習Ⅰ	1②	1	○		1							◎		
植物環境応答学演習Ⅱ	1④	1	○		1							◎		
植物環境応答学演習Ⅲ	2②	1	○		1							◎		
植物環境応答学演習Ⅳ	2④	1	○		1							◎		
動物環境応答学演習Ⅰ	1①	1	○				1							
動物環境応答学演習Ⅱ	1③	1	○				1							
動物環境応答学演習Ⅲ	2①	1	○				1							

専門群	生物科学系科目	動物環境応答学演習Ⅳ	2③	1	○	1	1	1	1	◎集中		
		行動生態学演習Ⅰ	1②	1	○	1	1	1	◎集中			
		行動生態学演習Ⅱ	1④	1	○	1	1	1	◎集中			
		行動生態学演習Ⅲ	2②	1	○	1	1	1	◎集中			
		行動生態学演習Ⅳ	2④	1	○	1	1	1	◎集中			
		陸水生態学演習Ⅰ	1①	1	○	1	1	1	◎集中			
		陸水生態学演習Ⅱ	1③	1	○	1	1	1	◎集中			
		陸水生態学演習Ⅲ	2①	1	○	1	1	1	◎集中			
		陸水生態学演習Ⅳ	2③	1	○	1	1	1	◎集中			
		群集生態学演習Ⅰ	1②	1	○	1	1	1	◎集中			
		群集生態学演習Ⅱ	1④	1	○	1	1	1	◎集中			
		群集生態学演習Ⅲ	2②	1	○	1	1	1	◎集中			
		群集生態学演習Ⅳ	2④	1	○	1	1	1	◎集中			
		植物生態学演習Ⅰ	1①	1	○	1	1	1	◎集中			
		植物生態学演習Ⅱ	1③	1	○	1	1	1	◎集中			
		植物生態学演習Ⅲ	2①	1	○	1	1	1	◎集中			
		植物生態学演習Ⅳ	2③	1	○	1	1	1	◎集中			
		細胞分子調節学セミナーⅠ	1通	1	○	1	1	1	◎集中			
		細胞分子調節学セミナーⅡ	2通	1	○	1	1	1	◎集中			
		細胞機構学セミナーⅠ	1通	1	○	1	1	1	◎集中			
		細胞機構学セミナーⅡ	2通	1	○	1	1	1	◎集中			
		分子微生物学セミナーⅠ	1通	1	○	1	1	1	◎集中			
		分子微生物学セミナーⅡ	2通	1	○	1	1	1	◎集中			
		原生生物学セミナーⅠ	1通	1	○	1	1	1	◎集中			
		原生生物学セミナーⅡ	2通	1	○	1	1	1	◎集中			
		分子細胞情報学セミナーⅠ	1通	1	○	1	1	1	◎集中			
		分子細胞情報学セミナーⅡ	2通	1	○	1	1	1	◎集中			
		細胞情報学セミナーⅠ	1通	1	○	1	1	1	◎集中			
		細胞情報学セミナーⅡ	2通	1	○	1	1	1	◎集中			
		細胞生物学セミナーⅠ	1通	1	○	1	1	1	◎集中			
		細胞生物学セミナーⅡ	2通	1	○	1	1	1	◎集中			
		動物生理学セミナーⅠ	1通	1	○	1	1	1	◎集中			
		動物生理学セミナーⅡ	2通	1	○	1	1	1	◎集中			
		生殖生理学セミナーⅠ	1通	1	○	1	1	1	◎集中			
		生殖生理学セミナーⅡ	2通	1	○	1	1	1	◎集中			
		個体機能学セミナーⅠ	1通	1	○	1	1	1	◎集中			
		個体機能学セミナーⅡ	2通	1	○	1	1	1	◎集中			
		植物生理学セミナーⅠ	1通	1	○	1	1	1	◎集中			
		植物生理学セミナーⅡ	2通	1	○	1	1	1	◎集中			
		細胞調節学セミナーⅠ	1通	1	○	1	1	1	◎集中			
		細胞調節学セミナーⅡ	2通	1	○	1	1	1	◎集中			
		植物環境応答学セミナーⅠ	1通	1	○	1	1	1	◎集中			
		植物環境応答学セミナーⅡ	2通	1	○	1	1	1	◎集中			
		動物環境応答学セミナーⅠ	1通	1	○	1	1	1	◎集中			
		動物環境応答学セミナーⅡ	2通	1	○	1	1	1	◎集中			
		行動生態学セミナーⅠ	1通	1	○	1	1	1	◎集中			
		行動生態学セミナーⅡ	2通	1	○	1	1	1	◎集中			
陸水生態学セミナーⅠ	1通	1	○	1	1	1	◎集中					
陸水生態学セミナーⅡ	2通	1	○	1	1	1	◎集中					
群集生態学セミナーⅠ	1通	1	○	1	1	1	◎集中					
群集生態学セミナーⅡ	2通	1	○	1	1	1	◎集中					
植物生態学セミナーⅠ	1通	1	○	1	1	1	◎集中					
植物生態学セミナーⅡ	2通	1	○	1	1	1	◎集中					
小計 (137 科目)	—	0	137	0	—	8	9	0	1	0	兼4	—
環境科学系科目	地球大気環境科学特論Ⅰ	1・2③	1	○	1	1	1	1	1	1	1	隔年
	地球大気環境科学特論Ⅱ	1・2④	1	○	1	1	1	1	1	1	1	隔年
	環境気象学特論Ⅰ	1①	1	○	1	1	1	1	1	1	1	
	環境気象学特論Ⅱ	2①	1	○	1	1	1	1	1	1	1	
	地球惑星大気科学特論Ⅰ	1②	1	○	1	1	1	1	1	1	1	

選択必修(4単位)

専門群 環境科学系科目	地球惑星大気科学特論Ⅱ	2②	1	○		1			1				
	陸域リモートセンシング特論Ⅰ	1③	1	○		1							
	陸域リモートセンシング特論Ⅱ	2①	1	○		1							
	数理生命科学特論Ⅰ	1①	1	○		1							
	数理生命科学特論Ⅱ	2②	1	○		1							
	理論生物学特論Ⅰ	1①	1	○			1						
	理論生物学特論Ⅱ	2①	1	○			1						
	生物地球化学特論Ⅰ	1②	1	○						1			隔年
	生物地球化学特論Ⅱ	2②	1	○						1			隔年
	環境科学学外研修Ⅰ	1①	1			○	3	2			2		
	環境科学学外研修Ⅱ	1③	1			○	3	2			2		
	環境科学学外研修Ⅲ	2①	1			○	3	2			2		
	環境科学学外研修Ⅳ	2③	1			○	3	2			2		
	グローバル生物環境科学概論Ⅰ	1①	1	○			11	11			3		※演習
	グローバル生物環境科学概論Ⅱ	1②	1	○			11	11			3		※演習
	グローバル生物環境科学概論Ⅲ	2①	1	○			11	11			3		※演習
	グローバル生物環境科学概論Ⅳ	2②	1	○			11	11			3		※演習
	環境科学特別講義A	1・2通	1	○								兼1	集中
	環境科学特別講義B	1・2通	1	○								兼1	集中
	環境科学特別講義C	1・2通	1	○								兼1	集中
	環境科学特別講義D	1・2通	1	○								兼1	集中
	地球大気環境科学セミナーⅠ	1通	1		○		1						集中
	地球大気環境科学セミナーⅡ	2通	1		○		1						集中
	環境気象学セミナーⅠ	1通	1		○			1					集中
	環境気象学セミナーⅡ	2通	1		○			1					集中
	地球惑星大気科学セミナーⅠ	1通	1		○						1		集中
	地球惑星大気科学セミナーⅡ	2通	1		○						1		集中
	陸域リモートセンシングセミナーⅠ	1通	1		○		1						集中
	陸域リモートセンシングセミナーⅡ	2通	1		○		1						集中
	数理生命科学セミナーⅠ	1通	1		○		1						集中
	数理生命科学セミナーⅡ	2通	1		○		1						集中
	理論生物学セミナーⅠ	1通	1		○			1					集中
	理論生物学セミナーⅡ	2通	1		○			1					集中
	生物地球化学セミナーⅠ	1通	1		○						1		集中
	生物地球化学セミナーⅡ	2通	1		○						1		集中
	小計(40科目)	—	0	40	0	—	11	11	0	3	0	兼4	—
	論文等作成群	化学生物環境学特別研究Ⅰ	1①②	4		○	19	16		6			
		化学生物環境学特別研究Ⅱ	1③④	4		○	19	16		6			
化学生物環境学特別研究Ⅲ		2①②	4		○	19	16		6				
化学生物環境学特別研究Ⅳ		2③④	4		○	19	16		6				
小計(4科目)		—	16	0	0	—	19	16	0	6	0	0	—
合計(263科目)		—	16	259	0	—	19	16	0	6	0	兼20	—
学位又は称号	修士(理学) 修士(学術)	学位又は学科の分野		理学関係									

設置の趣旨・必要性

I 設置の趣旨・必要性
(背景)

天然資源に乏しい我が国では、再生可能エネルギーの利用や新たな物質循環システムの導入により、安全で自然環境に対する負荷の少ない持続可能な社会を実現することが求められている。そのためには、個別の学問分野における高度な専門知識・技術はもとより、自然環境やその中で化学物質やエネルギー、生物の挙動を総合的にとらえることができる広い視野と学際性を備えた人材の育成が不可欠である。また、現代社会において急速に進行しているグローバル化、価値観の多様化、自然環境や社会環境の急速な変化を考慮すれば、これからの人材は高度なコミュニケーション能力や、迅速に問題を認識し、論理的に解決策を考え、周囲と協力しつつ行動を開始することができる自発性、課題発見能力、論理性、調整能力、実践力を備えている必要がある。また、わが国では理系分野における女性の社会進出は未だ不十分である。それゆえ、社会に変革をもたらすような科学、技術面での革新を実現する上で、理系女性人材の育成が果たす役割は、極めて大きいと考えられる。

(本学に設置する必要性)

以上のような状況を踏まえ、本学理学部は平成26年度に改組を行い、それまで独立していた化学、生物科学、情報科学(自然情報学分野)の3学科を一つに融合して「化学生命環境学科(Department of Chemistry, Biology, and Environmental Science)」(注:平成30年度より「化学生物環境学科」に変更予定)とし、化学、生物科学、自然環境科学が連携した教育体制を確立した。具体的には1、2年次には共通基礎教育を充実させて分野間の垣根を低くし、学年が上がるにつれて専門性の高い各コース専門教育の割合を増加させつつも、学生各自の興味に応じて関連の深い他コースの専門的科目も自由に履修できるよう、漸進性・柔軟性・学際性の高いカリキュラムを編成し、学生や社会の多様なニーズに対応できるようにした。このように、化学生命環境学科では化学、生物科学、環境科学の3コースが連携した理系共通基礎教育と実践的な専門教育を提供することで、上述のような広い視野と学際性を備えた理系女性人材の育成に努めてきた。

本学の博士前期課程に在学する学生数は、化学と生物の分野で全国立大学の修士の「理学」専攻に在籍する女子学生数の約10%を占めている(学校基本調査(平成22年度~27年度)に基づく)。これから分かるように本研究科博士前期課程は日本における高い専門性と研究能力を備えた理系分野の女性人材育成に大きな役割を果たし、産業界や教育界に貢献している。しかしながら、現在の博士前期課程は化学生命環境学科に対応する専攻は化学専攻、生物科学専攻と情報科学専攻の3専攻であり、大幅な改組を実施した学部の体系と大きく異なっている。そのため今回の大学院改組では、学部組織に対応した形で化学、生物科学、環境科学の3つのコースにより構成される「化学生物環境学専攻」を設置し、学部改組の理念で目指した研究分野間の連携・融合をより高度なレベルで実現することを目指す。

加えて、学部・大学院間の教育連携を強化するために、大学院科目先取り履修を含む6年一貫教育プログラムや、海外・学外での学修・研究活動の充実、多様な大学院生の受け入れ実現を図るための教育プログラムを実施する。このように高度な専門知識を備えた理系女性の育成に長い伝統と実績を持つ本学大学院博士前期課程に、新しく化学と生物と環境科学を融合した化学生物環境学専攻の設置がぜひ必要である。

II 教育課程編成の考え方・特色

(教育課程の基本的な考え方)

化学生物環境学専攻では、化学、生物科学、自然環境科学の学問領域が連携した研究・教育活動を推進し、物質や生物およびそれらを取り巻く自然環境を総合的にとらえることができる広い視野と正確な知識、論理的思考能力をもち、自発的かつ協動的に問題の発掘と解決に取り組むことのできる理系女性人材を育成する。こうした人材育成の中心を成すのは、学生本人の興味と関心に基づき適切な指導の下に実施する、実践的な研究活動である。科学的に意味のある問いを立て、答えを得るために適切な研究計画を立案するためには、しっかりと基礎知識が必要である。また、研究で得られた成果は発表され、背景や視点の異なる他者に理解され、社会の中で共有されなければ意味がない。背景や視点の多様性やコミュニケーションの重要性について実感を持って理解し、将来社会で広く活躍できる下地を形成するためには、異なる専門分野間、異なる学年間の交流だけでなく、海外を含めた学外での学修・研究交流を経験することも重要である。以上のような観点から、化学生物環境学専攻では

- (1) 幅広く正確な基礎知識を身につけるための大学院教養科目を開講する。
- (2) 実践的な研究活動の体験、ならびに研究の内容を他者に理解してもらうためのコミュニケーション能力の向上を図るための共通科目および共通形式の専門科目(特別研究とセミナー)を設ける。
- (3) 専門的・先進的な内容を扱う大学院専門科目を多数配置し、学生各自の興味に基づいてどの分野(化学系、生物科学系、環境科学系)の専門科目も自由に履修できるようにする。
- (4) 学部学生と大学院学生との交流や相互啓発を促進し、大学院博士前期課程での研究力を向上させるため、科目等履修生制度を利用し、学部学生による大学院科目の先取り履修を可能とする6年一貫教育プログラムを設ける。
- (5) 海外留学や学外での研修活動に参加しやすくするための科目の設定と授業の1単位化等、科目の開講形態に様々な工夫を凝らす。

こうした一連のカリキュラム改革は全て、正確な知識と論理的思考能力、高いコミュニケーション能力と実践力を備え、広い視野をもって社会で活躍できる、多様な理系女性人材を育成することで学生や社会の期待に応えようとの意図に基づいている。

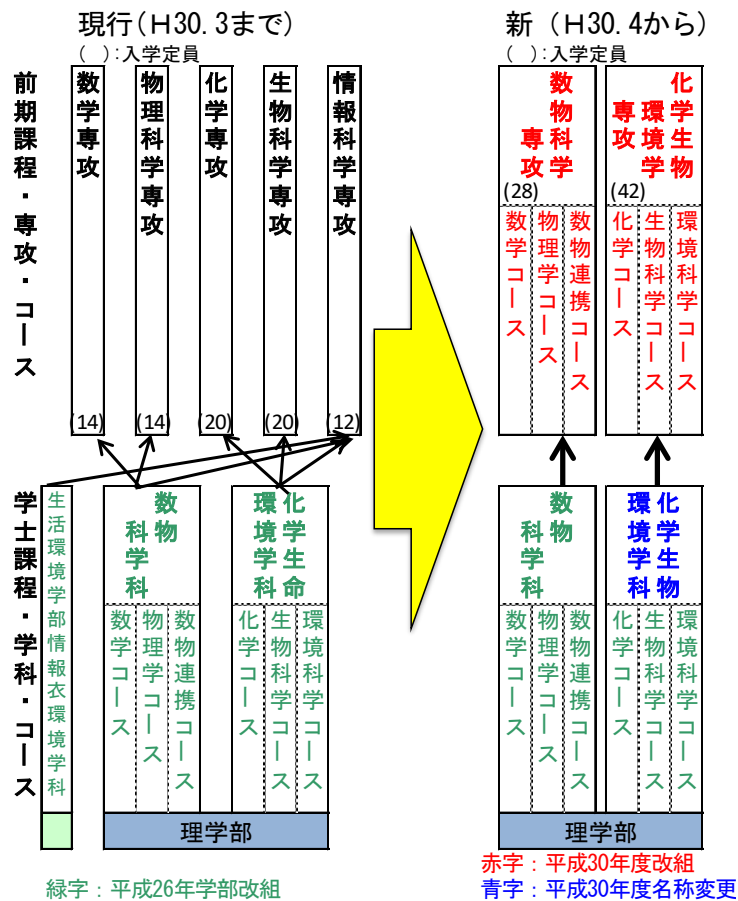
(教育課程の特色)

- (1) 授業科目については基本的に1/2セメスター、1単位という形式に統一されている。これにより、任意の1/2セメスターと夏季休業、春季休業などの長期休業期間を組み合わせることで、比較的まとまった時間を短期海外留学あるいは学外での研修活動に充てることが可能となる。
- (2) 1年次には、理系分野の基礎となる「教養科目群」を中心に履修する。これらの科目は、学内進学者はもとより他大学からの入学者や社会人入学など学修履歴の異なる多様な学生に対し、実践的な研究の推進に必要な一定レベルの基礎知識を身につけることを目的としている。また、これらの科目は学部学生による先取り履修の対象ともなっており、学年間交流を通じた相互啓発の効果も期待される。また研究倫理について学ぶ科目も開講する。
- (3) 1年次後半からは順次、より専門的・高度な大学院専門科目を中心に履修する。科目の内容を分かりやすくするため化学系、生物科学系、環境科学系の3系統に大別しているが、基本的に本専攻所属学生は各自の所属するコースに関わらず、それぞれの興味と関心に基づいてどの系統の大学院専門科目も自由に履修することができる。
- (4) 大学院専門科目の一部は、
 - (i) 他大学からの入学者や社会人入学など学修履歴の異なる多様な入学生への対応、
 - (ii) 留学・インターンシップなど学外での活動の促進、
 - (iii) 学部学生と連携した実践的なコミュニケーション能力向上、などを目的としている。
- (5) 研究活動の実践に密接に関わる科目(化学生物環境学特別研究I~IV)は専攻共通、あるいは各コース専門科目でありながら専攻全体で内容や形式を統一して実施する科目であり、専攻が一体となって学生の研究活動の推進並びに情報発信を支援する。
- (6) 上記編成立案の基本方針を踏まえ、自然科学の基礎力、より専門的な知識や課題発見・解決能力を身につけさせるため、専攻共通履修要件に加えて各コースの履修要件を設定する。

学位の授与において、付記する専攻分野の名称は「理学」と「学術」のいずれかとする。学位の名称は学位論文の内容に基づいて以下の基準により決定する。すなわち、学位論文が理学に関連した専門分野の内容が主である場合には修士（理学）の学位を授与し、複合的・学際的な内容が多く含まれていたり学際領域の分野に該当したりする場合には、修士（学術）を授与するものとする。

奈良女子大学の大学院改組構想

理学部を基盤とした専攻



化学生物環境学専攻履修モデル

①大学で化学を学んだ学生を想定(化学コース)

学位	修士(理学)			
概要	化学分野の専門的な知識、科学技術分野で適用可能な研究の方法論や実社会で役立つ柔軟な思考力や問題解決能力を習得させる。修了後は官公庁・教育機関、化学、繊維、医薬品等の企業の研究開発でリーダーとしての役割を果たせる人材の育成を目指す。			
科目群	1年次		2年次	
	科目名	単位数	科目名	単位数
教養科目群	化学のための研究倫理	1		
	無機化学概論Ⅰ	1		
	無機化学概論Ⅱ	1		
専門群	有機金属化学Ⅰ	1	機能性無機錯体化学Ⅰ	1
	有機金属化学Ⅱ	1	触媒機能化学	1
	機器分析法Ⅲ	1	有機金属クラスター化学Ⅰ	1
	生物無機化学	1	有機金属クラスター化学Ⅱ	1
	無機化学特論A	1	無機化学特論B	1
	分子性金属鎖の化学	1	有機金属・錯体化学セミナーA-II	1
	有機金属・錯体化学セミナーA-I	1	有機金属・錯体化学セミナーB-II	1
	有機金属・錯体化学セミナーB-I	1		
論文等作成群	化学生物環境学特別研究Ⅰ	4	化学生物環境学特別研究Ⅲ	4
	化学生物環境学特別研究Ⅱ	4	化学生物環境学特別研究Ⅳ	4
合計		19		15

②大学で生物学を学んだ学生を想定(生物科学コース)

学位	修士(理学)			
概要	生物科学だけでなく化学、環境科学等の幅広い分野の知識を基に多様な自然現象や社会における問題を自ら見出し、解決できる能力とそれを社会に発信できる能力を習得させる。修了後は官公庁・教育機関、医薬品、食品等の企業の研究開発でリーダーとしての役割を果たせる人材の育成を目指す。			
科目群	1年次		2年次	
	科目名	単位数	科目名	単位数
教養科目群	生態学概論A	1		
	科学の文化と倫理	1		
	生態学概論B	1		
専門群	実践生物科学英語	1	群集生態学特論	1
	行動生態学特論	1	植物生態学特論	1
	陸水生態学特論	1	生物科学特論B	1
	生物科学特論A	1	行動生態学セミナーⅡ	1
	行動生態学セミナーⅠ	1	陸水生態学セミナーⅡ	1
	陸水生態学セミナーⅠ	1		
論文等作成群	化学生物環境学特別研究Ⅰ	4	化学生物環境学特別研究Ⅲ	4
	化学生物環境学特別研究Ⅱ	4	化学生物環境学特別研究Ⅳ	4
合計	17		13	

③大学で環境科学に関わる分野を学んだ学生を想定(環境科学コース)

学位	修士(理学)			
概要	分子レベルから地球レベルに至る様々なスケールで起こる環境現象一般についての深い理解、計算機を高度に活用することによる解析能力や将来予測のためのシミュレーション能力、従来の細分化された枠組みにとらわれない柔軟な発想で環境科学研究を展開できる能力を習得させる。修了後は官公庁・教育機関、地理情報システム・リモートセンシング、環境コンサルタント等の企業の研究開発でリーダーとしての役割を果たせる人材の育成を目指す。			
科目群	1年次		2年次	
	科目名	単位数	科目名	単位数
教養科目群	地球環境科学概論	1		
	地球温暖化問題概論	1		
専門群	地球大気環境科学特論Ⅰ	1	環境科学学外研修Ⅲ	1
	地球大気環境科学特論Ⅱ	1	環境科学学外研修Ⅳ	1
	環境気象学特論Ⅰ	1	環境科学特別講義C	1
	陸域リモートセンシング特論Ⅰ	1	環境科学特別講義D	1
	環境科学学外研修Ⅰ	1	地球大気環境科学セミナーⅡ	1
	環境科学学外研修Ⅱ	1	陸域リモートセンシングセミナーⅡ	1
	環境科学特別講義A	1	環境気象学特論Ⅱ	1
	地球大気環境科学セミナーⅠ	1		
論文等作成群	化学生物環境学特別研究Ⅰ	4	化学生物環境学特別研究Ⅲ	4
	化学生物環境学特別研究Ⅱ	4	化学生物環境学特別研究Ⅳ	4
合計	19		15	

④大学で環境科学に関わる分野を学んだ学生で修士1年の後期に留学する学生を想定(環境科学コース)

学位	修士(理学)(1年次の後期に留学)			
概要	分子レベルから地球レベルに至る様々なスケールで起こる環境現象一般についての深い理解、計算機を高度に活用することによる解析能力や将来予測のためのシミュレーション能力、従来の細分化された枠組みにとらわれない柔軟な発想で環境科学研究を展開できる能力を習得させる。修了後は官公庁・教育機関、地理情報システム・リモートセンシング、環境コンサルタント等の企業の研究開発でリーダーとしての役割を果たせる人材の育成を目指す。			
科目群	1年次		2年次	
	科目名	単位数	科目名	単位数
教養科目群	数理生態学概論	1		
	科学の文化と倫理	1		
専門群	数理生命科学特論Ⅰ	1	数理生命科学特論Ⅱ	1
	理論生物学特論Ⅰ	1	理論生物学特論Ⅱ	1
	生物地球化学特論Ⅰ	1	行動生態学特論	1
	環境科学学外研修Ⅰ	1	数理生命科学セミナーⅡ	1
	数理生命科学セミナーⅠ	1	生物地球化学セミナーⅡ	1
	生物地球化学セミナーⅠ	1	生物地球化学特論Ⅱ	1
論文等作成群	化学生物環境学特別研究Ⅰ	4	化学生物環境学特別研究Ⅱ	4
			化学生物環境学特別研究Ⅲ	4
			化学生物環境学特別研究Ⅳ	4
合計	12		18	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>教養科目群から2科目2単位以上、論文等作成群の化学生物環境学特別研究Ⅰ～Ⅳから4科目16単位、所属するコースが指定する専門群科目から10科目10単位以上（ここにはセミナー科目を4科目4単位含める）、合計30単位以上を取得すること。</p> <p>なお、所属コースごとの追加要件は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学コース：教養科目群2科目2単位以上のうち、1科目は「化学のための研究倫理」とすること。専門科目群については、化学系科目から選択すること。 ・生物科学コース：専門科目群については、生物科学系科目から選択し、かつ生物科学コースの指定講義科目を4科目4単位以上、含めること。 ・環境科学コース：専門科目群については環境科学系科目および備考欄に◎印で指定した化学系あるいは生物科学系科目（環境科学の教育・研究に関連の深い科目）から選択すること。 <p>以上の単位を取得し、必要な研究指導を受けた上で修士論文の審査及び最終試験に合格することが修了要件となる。</p>	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要

既設 (大学院人間文化研究科博士前期課程 化学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門群	コロイド溶液分子論	1・2後		5		○									兼1	
	分子触媒化学	1・2前		2		○			1							
	触媒機能化学	1・2前		2		○				1						
	有機構造論	1・2前		2		○			1							
	分子統計論	1・2後		2		○			1							
	界面ナノ化学	1・2前		2		○			1							
	生物有機化学	1・2前		2		○			1							
	計算分子科学	1・2後		2		○				1						
	地球環境化学特論	1・2前		2		○									兼1	
	反応化学セミナーⅠ	1・2後		2				○		1						兼1
	反応化学セミナーⅡ	1・2前		2				○	○							兼1
	反応化学セミナーⅢ	1・2前		2				○	○		1					
	構造化学セミナーⅠ	1・2後		2				○	○	1						兼1
	構造化学セミナーⅡ	1・2前		2				○	○							兼1
	構造化学セミナーⅢ	1・2前		2				○	○	1						兼1
	構造化学セミナーⅣ	1・2後		2				○	○				1			
	物性化学セミナーⅠ	1・2前		2				○	○							兼1
	物性化学セミナーⅡ	1・2前		2				○	○	1						
	物性化学セミナーⅢ	1・2後		2				○	○	1						
	物性化学セミナーⅣ	1・2後		2					○		1					
	錯体反応化学	1・2前		1			○									兼1
	無機合成化学	1・2後		1			○									兼1
	有機立体化学特論	1・2前		1			○									兼1
	有機反応化学特論	1・2後		1			○									兼2 集中
	生体機能分子合成特論	1・2後		1			○									兼1
	物性物理化学特論	1・2前		1			○									兼1
	物理化学特論	1・2前		1			○									兼2 集中
	コロイド・界面化学特論	1・2後		1			○									兼1
	ソフトマター化学特論Ⅰ	1・2前		1			○									兼1
	光機能分子化学	1・2後		2			○				1					
	高分子機能論	1・2前		2			○									
	機能性高分子化学	1・2後		2			○									
	生物無機化学	1・2前		2			○			1						
	有機金属錯体化学	1・2後		2			○			1						
	金属クラスター化学	1・2前		2			○				1					
	生物有機金属化学	1・2前		2			○									兼1
	分子性金属鎖の化学	1・2後		2			○						1			
	反応量子化学	1・2後		2			○				1					
	機能性材料科学特論	1・2前		2			○									兼1
	機能性無機錯体化学Ⅰ	1・2前		2			○			1						
	機能性無機錯体化学Ⅱ	1・2前		2			○						1			
	高分子機能化学セミナーⅠ	1・2後		2					○							兼1
高分子機能化学セミナーⅡ	1・2前		2					○		1						
高分子機能化学セミナーⅢ	1・2前		2					○							兼1	
機能性錯体化学セミナーⅠ	1・2前		2					○	1							
機能性錯体化学セミナーⅡ	1・2後		2					○				1				
機能性錯体化学セミナーⅢ	1・2前		2					○	1							
機能性錯体化学セミナーⅣ	1・2後		2					○		1						
機能性錯体化学セミナーⅤ	1・2前		2					○				1				
機能性錯体化学セミナーⅥ	1・2後		2					○				1				
無機生体関連化学セミナーⅠ	1・2後		2					○	1							

専門群	無機生体関連化学セミナーⅡ	1・2前	2			○		1						
	無機生体関連化学セミナーⅢ	1・2前	2			○			1					
	機能性材料科学セミナー	1・2前	2			○								
	無機機能化学特論	1・2前	1			○						兼1 兼2	集中	
	生体触媒化学	1・2前	1			○						兼1		
	高分子化学特論Ⅰ	1・2前	1			○						兼1		
	高分子化学特論Ⅱ	1・2後	1			○						兼1		
	酵素機能論	1・2前	1			○						兼1		
	核酸機能論	1・2後	1			○						兼1		
	生体分子化学特論	1・2前	1			○						兼1		
	機能化学概論	1・2前	2			○						兼1		
	基幹化学概論	1・2前	2			○		5	2		1		集中	
	基幹化学特論Ⅰ	1・2前	2			○		1						
	基幹化学特論Ⅱ	1・2後	2			○						兼1		
	機能化学特論Ⅰ	1・2前	2			○						兼1		
	物理化学外国語特論Ⅰ	1・2前	2			○		1					集中	
	物理化学外国語特論Ⅱ	1・2後	2			○		1					集中	
	無機化学外国語特論Ⅰ	1・2前	2			○		1					集中	
	無機化学外国語特論Ⅱ	1・2後	2			○			1				集中	
	有機化学外国語特論Ⅰ	1・2前	2			○		1					集中	
有機化学外国語特論Ⅱ	1・2後	2			○			1				集中		
小計 (72科目)	—	0	126	0			8	5	0	5	0	兼9	—	
論文等作成群	化学特別研究Ⅰ	1前	4			○		8	5		5			
	化学特別研究Ⅱ	1後	4			○		8	5		5			
	化学特別研究Ⅲ	2前	4			○		8	5		5			
	化学特別研究Ⅳ	2後	4			○		8	5		5			
	化学特別研究Ⅴ	1・2前	4			○		8	5		5			
	化学特別研究Ⅵ	1・2後	4			○		8	5		5			
小計 (6科目)	—	0	24	0			8	5	0	5	0	0	—	
合計 (78科目)		—	0	150	0			8	5	0	5	0	兼9	—
学位又は称号	修士(理学) 修士(学術)		学位又は学科の分野				理学関係							

教 育 課 程 等 の 概 要

既設 (大学院人間文化研究科博士前期課程 生物科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
専門群	分子生物学特論Ⅰ	1・2前		2		○				1					兼1
	分子生物学特論Ⅱ	1・2前		2		○				1					
	細胞機構学特論Ⅰ	1・2後		2		○									
	細胞機構学特論Ⅱ	1・2後		2		○			1						
	細胞情報学特論Ⅰ	1・2前		2		○			1						
	細胞情報学特論Ⅱ	1・2前		2		○				1					
	分子生物学セミナーⅠ	1前		2			○			1					
	分子生物学セミナーⅡ	1後		2			○			1					
	分子生物学セミナーⅢ	2前		2			○			1					
	分子生物学セミナーⅣ	2後		2			○			1					
	細胞機構学セミナーⅠ	1前		2			○		1						
	細胞機構学セミナーⅡ	1後		2			○		1						
	細胞機構学セミナーⅢ	2前		2			○		1						
	細胞機構学セミナーⅣ	2後		2			○		1						
	細胞情報学セミナーⅠ	1前		2			○		1						
	細胞情報学セミナーⅡ	1後		2			○			1					
	細胞情報学セミナーⅢ	2前		2			○			1					
	細胞情報学セミナーⅣ	2後		2			○			1					
	細胞調節学セミナーⅠ	1前		2			○		1						
	細胞調節学セミナーⅡ	1後		2			○			1					
	細胞調節学セミナーⅢ	2前		2			○		1						
	細胞調節学セミナーⅣ	2後		2			○			1					
	個体構造学特論Ⅰ	1・2前		2			○								兼1
	個体構造学特論Ⅱ	1・2前		2			○		1						
	個体機能学特論Ⅰ	1・2後		2			○		1						
	個体機能学特論Ⅱ	1・2後		2			○		1		1				
	環境生理学特論Ⅰ	1・2後		2			○		1						
	環境生理学特論Ⅱ	1・2前		2			○			1					
	集団機能学特論Ⅰ	1・2後		2			○			1					
	集団機能学特論Ⅱ	1・2後		2			○		1						
	地球環境生物学特論Ⅰ	1・2後		2			○			1					
	地球環境生物学特論Ⅱ	1・2前		2			○			1					
	個体構造学セミナーⅠ	1前		2				○	1						
	個体構造学セミナーⅡ	1後		2				○	1						
	個体構造学セミナーⅢ	2前		2				○	1						
	個体構造学セミナーⅣ	2後		2				○	1						
	個体機能学セミナーⅠ	1前		2				○	1						
	個体機能学セミナーⅡ	1後		2				○	1		1				
	個体機能学セミナーⅢ	2前		2				○	1						
	個体機能学セミナーⅣ	2後		2				○	1		1				
集団機能学セミナーⅠ	1前		2				○		1						
集団機能学セミナーⅡ	1後		2				○	1							
集団機能学セミナーⅢ	2前		2				○		1						
集団機能学セミナーⅣ	2後		2				○	1							
環境生理学セミナーⅠ	1前		2				○	1							
環境生理学セミナーⅡ	1後		2				○		1						
環境生理学セミナーⅢ	2前		2				○	1							

専門群	環境生理学セミナーⅣ	2後		2			○			1						
	地球環境生物学セミナーⅠ	1後		2			○			1						
	地球環境生物学セミナーⅡ	1前		2			○			1						
	地球環境生物学セミナーⅢ	2後		2			○			1						
	地球環境生物学セミナーⅣ	2前		2			○			1						
	細胞調節学特論Ⅰ	1・2後		2			○		1							
	細胞調節学特論Ⅱ	1・2後		2			○			1						
	生物科学特論Ⅰ	1・2通		1			○								兼1	集中
	生物科学特論Ⅱ	1・2通		1			○								兼1	集中
	生物科学特論Ⅲ	1・2通		1			○								兼1	集中
	生物科学特論Ⅳ	1・2通		1			○								兼2	集中
	生物科学方法論	1・2通		2			○		8	9		1				
	基礎科学英語	1・2後		2				○	8	9		1				
小計(60科目)	—	0	116	0			—	8	9	0	1	0		兼7	—	
論文等作成群	生物科学特別研究Ⅰ	1前		4			○		8	9		1				
	生物科学特別研究Ⅱ	1後		4			○		8	9		1				
	生物科学特別研究Ⅲ	2前		4			○		8	9		1				
	生物科学特別研究Ⅳ	2後		4			○		8	9		1				
	生物科学特別研究Ⅴ	1・2前		4			○		8	9		1				
	生物科学特別研究Ⅵ	1・2後		4			○		8	9		1				
小計(6科目)	—	0	24	0		—		8	9	0	1	0			—	
合計(66科目)		—	0	140	0		—	8	9	0	1	0		兼7	—	
学位又は称号	修士(理学) 修士(学術)		学位又は学科の分野				理学関係									

教 育 課 程 等 の 概 要

既設 (大学院人間文化研究科博士前期課程 情報科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門群	情報処理論	1・2後		2		○			1						
	アルゴリズム特論	1・2前		2		○				1					
	グラフ理論特論	1・2前		2		○			1						
	グラフ理論特論演習	1・2後		2			○		1						
	画像処理論	1・2前		2		○									兼1
	計算機視覚特論	1・2後		2		○									兼1
	並列計算システム特論	1・2前		2		○			1						
	並列計算システム特論演習	1・2後		2			○		1						
	人工知能特論	1・2前		2		○				1					
	人工知能特論演習	1・2後		2			○				1				
	力学系特論	1・2前		2		○			1						
	力学系特論演習	1・2後		2			○		1						
	論理プログラミング特論	1・2前		2		○				1					
	論理プログラミング特論演習	1・2後		2			○				1				
	自然変動論	1・2前		2		○			1						
	自然変動論演習	1・2後		2			○		1						
	リモートセンシング特論Ⅰ	1・2前		2		○				1					
	リモートセンシング特論Ⅱ	1・2前		2		○						1			
	リモートセンシング特論演習Ⅰ	1・2後		2			○				1				
	リモートセンシング特論演習Ⅱ	1・2後		2			○						1		
	数理モデリング特論	1・2前		2		○					1				
	数理モデリング特論演習	1・2後		2			○					1			
	生態情報学特論	1・2前		2		○			1						
	生態情報学特論演習	1・2後		2			○		1						
	大域情報学特論	1・2前		2		○							1		集中
	大域情報学特論演習	1・2後		2			○						1		
	地球環境情報特論	1・2前		2		○			1						
	ネットワーク特論	1・2前		2		○					1				集中
	ネットワーク特論演習	1・2後		2			○					1			集中
	データベース特論	1・2前		2		○			1						集中
	計算機システム特論	1・2後		2		○					1				
	情報科学特別セミナーⅠ	1・2通		2			○								兼1 集中
	情報科学特別セミナーⅡ	1・2通		2			○								兼1 集中
	情報科学特別セミナーⅢ	1・2通		2			○								兼3 集中
	情報科学特別セミナーⅣ	1・2前		2			○								兼1 集中
	情報システム特論	1・2前		2		○			1						
	数式処理論	1・2前		2		○			1						
	画像認識論	1・2前		2		○									兼1
	形状認識論	1・2後		2		○									兼1
	並列処理システム特論	1・2前		2		○			1						集中
	並列処理システム特論演習	1・2後		2			○		1						集中
	知識処理論	1・2前		2		○				1					集中
知識処理論演習	1・2後		2			○				1				集中	
陸域画像処理論	1・2前		2		○			1						集中	
陸域画像処理論演習	1・2後		2			○		1						集中	
生命現象シミュレーション特論	1・2前		2		○				1					集中	
生命現象シミュレーション特論演習	1・2後		2			○				1				集中	
地球環境遠隔計測特論Ⅰ	1・2前		2		○				1					集中	
惑星大気計測データ処理論	1・2前		2		○						1			集中	
地球環境遠隔計測特論演習Ⅰ	1・2後		2			○						1		集中	

専門群	惑星大気計測データ処理特論演習	1・2後		2			○					1			集中
	地球環境変動シミュレーション特論	1・2後		2			○			1					集中
	情報システムモデル論	1・2前		2			○			1					集中
	情報システムモデル論演習	1・2後		2				○		1					集中
	計算機通信機構論	1・2前		2			○				1				集中
	計算機通信機構論演習	1・2後		2				○			1				集中
小計 (56科目)		—	0	112	0	—			6	4	1	2	0	兼7	—
論文等作成群	情報科学特別研究Ⅰ	1前	4				○			6	4	1	2		
	情報科学特別研究Ⅱ	1後	4					○		6	4	1	2		
	情報科学特別研究Ⅲ	2前	4					○		6	4	1	2		
	情報科学特別研究Ⅳ	2後	4					○		6	4	1	2		
小計 (4科目)		—	16	0	0	—			6	4	1	2	0		—
キャリア形成群	科学英語プレゼンテーションⅠ	1・2通		1			○			1					兼1
	科学英語プレゼンテーションⅡ	1・2通		1				○		1					兼1
	女性先端科学者セミナーⅠ	1・2通		1				○		1					兼1
	女性先端科学者セミナーⅡ	1・2通		1				○		1					兼1
小計 (4科目)		—	0	4	0	—			4	0	0	0	0	兼1	—
実践群	双方向型インターン実習Ⅰ	1・2通		2					○						兼1
	双方向型インターン実習Ⅱ	1・2通		2					○						兼1
	グループワーク演習Ⅰ	1・2通		2			○								兼1
	グループワーク演習Ⅱ	1・2通		2			○								兼1
	プロジェクト企画運営実習Ⅰ	1・2前		1					○						兼2
	プロジェクト企画運営実習Ⅱ	1・2前		1					○						兼2
小計 (6科目)		—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	兼2	—
合計 (70科目)		—	16	126	0	—			6	4	1	2	0	兼9	—
学位又は称号	修士(理学) 修士(学術)		学位又は学科の分野				理学関係								